

2025年 子ども平和新聞 プロジェクト 記録集

—子どもたちが未来へつなぐ—

目 次

被爆・戦後80年 子ども平和新聞プロジェクト記録集に寄せて	1
-------------------------------------	---

• いわて生活協同組合	2
• みやぎ生活協同組合	4
• 茨城県生活協同組合連合会	7
• いばらきコープ生活協同組合	12
• 生活協同組合コープぐんま	17
• 生活協同組合パルシステム千葉	22
• 生活協同組合コープみらい千葉県本部	27
• 生活協同組合コープみらい埼玉県本部	31
• 生活協同組合コープみらい東京都本部	37
• 東都生活協同組合	40
• 生活協同組合コープながの	43
• 生活協同組合コープデリにいがた	46
• 福井県民生活協同組合	51
• 生活協同組合コープぎふ	56
• 生活協同組合コープしが	59
• 市民生活協同組合ならコープ	61
• 京都府生活協同組合連合会	64
• 生活協同組合コープこうべ	72
• 生活協同組合おかやまコープ	81
• こうち生活協同組合	84
• エフコープ生活協同組合	87

被爆・戦後80年 子ども平和新聞プロジェクト記録集に寄せて

「平和とよりよい生活のために」というスローガンのもと、私たちは戦争や被爆体験の実相を継承し、戦争も核兵器もない平和な世界への願いを次世代へとつなぐことの重要性を強く感じています。

被爆・戦後80年を迎えるにあたり実施した「子ども平和新聞プロジェクト」は、次世代を担う子どもたちに平和について深く考えるきっかけを提供すること、また地域の新聞記者からジャーナリズムの視点を学ぶことで新しい「見方」や「考え方」を身につけることを目的としました。

全国21地域の生協から参加した小・中・高校生137名の戦争を知らない子どもたちが、戦跡や平和学習施設を訪れ、被爆者や戦争体験者、伝承者の話を伺いながら、自分たちの思いと言葉を大切に新聞づくりに挑戦し、67枚の平和新聞が完成しました。

子どもたちは、新聞づくりを通して戦争の悲惨さや平和の尊さを実感しました。「争いがない世界」や「協力し合える世界」という理想を語り合い、核兵器の恐ろしさや戦争のむなしさについて学びました。その中で、家族の絆や命の大切さについて考えたお子さんもいらっしゃいました。新聞作成の楽しさや難しさを感じる中で「伝える責任」を意識し、異なる学校の子も同士で「交流や学びあいを広げたい」と、前向きな姿勢も見受けられました。

子どもたちの視点で書かれた記事は、多くの世代の心に届いたことと思います。特に同じ世代の子どもたちには、戦争のない平和な世界を守るために自分たちにできることは何か、一人ひとりが考えるきっかけとなれば幸いです。

私たちは、この記録集を未来への約束とし、今後も次世代の子どもたちに同じような学びの場を提供し続けていきます。平和を守るために声を上げ、行動する人を育てることが私たちの使命です。この取り組みが、戦争の悲劇を繰り返さない社会を築く一歩となることを心から願っています。

代表理事長
新井 ちとせ

いわて生活協同組合

協力新聞社名	子ども参加人数	集まった回数
朝日新聞社	2	3

訪問施設やお話を聞いた方	完成した新聞の広報や報告方法
•ピースアクションinヒロシマの現地で取材 •子ども平和会議にも参加	•HP掲載 •広報紙「わいわいコープNo.139」に掲載 •コープ・こ〜ぷ委員への配布 800部 •生協店舗（15店舗）にポスター（A2版）掲示と新聞を配置（A3）800部 •「秋のコープのつどい」会場でポスター掲示 •核兵器禁止の学習会で配布（200部）

新聞を読んだ方の感想

- 私たちの日常がどれほど平和であるか、そして無知や無関心ではいけない状況ではないかと改めて感じました。自分の子どもと一緒に考えていかなければならないと思いました。（40代）
- 私たちには微力だけど無力ではない、と語りかけてくれたように、戦争のない世界にしていくように思いを繋げていきたいです。（70代）

エピソードなど

- 当初、協力を依頼先に手がかりがなかったのですが、毎年開催している「平和のつどい」に、以前取材に来た朝日新聞の女性記者の方が熱心に取材してくれたことを思い出し、連絡したところ快諾してくださり、新聞作成にたどりつくことができました。
- ピースアクションに子どもが参加することはこれまでもありましたが、感想文を書いてもらい、それを活用するくらいでした。今回は「戻ってきてから新聞をつくって伝える」という使命をもって参加してもらうことができ、本当に素晴らしい記事も書いてもらいました。
- 新聞を見た方からも非常に好評です。
- 朝日新聞にも掲載されました。

子ども平和新聞 ビースアクションinヒロシマに参加した中学1年・小学6年の子どもたちが、現地で取材し作成しました

子ども平和会議「微力だけど無力じゃない」



被爆80年の今年8月4日、広島県立総合体育館で行われた、子ども平和会議に参加した。広島に住む高校生をはじめとする、様々な地域の子も参加し、5、6人のグループになって、子ども目線で「平和とは何か」「平和になるために私たちが出来ることは何か」について考え、交流した。その内容は8月5日、69生協、WEBを含む2千300人が参加したヒロシマ虹のひろばで、代表者が子ども平和宣言としてアピールした。

毎日おいしいご飯を食べ、安心して眠り、友達とくだらないことで笑い、嫌々ながらも勉強し、大好きな人と会える日々を当たり前と生きていく。今までは平和について深く考えることをしてこなかった私は、戦争や核兵器について、大人たちの考えることと違って、私には関係のないことだと思っていた。けれど、他の地域の子たちと交流する中

で、空襲を体験した方の話を聞いた人や、バレスチナの核実験の話をしてくれた人などや核兵器に対して無知で無関心だったのかを思い知らされた。そして私が今まで当たり前だと思っていた日常は、平和な世の中ではないとあり得ないことで、とても幸せなことなのだという事に気づかされた。

話を進めてくれた渡部久仁子さんが所属するANT・Hiroshima(アント・ヒロシマ)の名前は、ANT(ありは、一匹一匹の力は小さいけれど、仲間が集まれば大きな力になるという意味があるという。これは、人間の世界でも同じことではないだろうか。1人1人の力や言葉は小さいかもしれないが、誰かがその言葉を耳を傾け、気持ちに共有し、同じ気持ちや考えの仲間が集まれば、大きな力となって世界をも動かすことが出来るのではないだろうか。



全国から小学生から高校生まで39名の子どもが集った子ども平和会議。



左から2人目が岡山勇飛さん、3人目が鈴木美和さん。他2人は平和記念公園で取材に応じてくれた大学生。

私たちは微力だけど無力じゃない。私たち子どもでも出来ることはある。まずは、平和について関心を持つこと。年々話を聞くことの出来る被爆者の数が減っている中で、私たちが被爆者の話を聞くことが出来る最後の世代といわれている。過去に起こした過ちを知り理解し、二度と同じ過ちを繰り返さないよう声を上げること。発信すること。テレビやSNS、インターネット新聞などで、世界では今何が

起きているのか目を向け、イベントなどに足を運んでみる。当たり前に思っている日常は幸せなことなのだと意識すること。自分から行動し続けることが、これからの未来へと繋がっていくのではないだろうか。

(北上市立中学校1年 鈴木美和)

武器を持たない勇気

8月6日、平和祈念式がとりおこなわれた。午前8時15分、式典に集まった約5万5千人が平和公園で黙祷した。訪れていた広島市内の大学1年生、H・Kさん、K・Hさんに話を聞いた。

毎年、広島市内の小・中・高校生はこの日は学校で追悼式をする。大学生になり今年には平和祈念式で追悼するためにきたという。

「戦争をなくすためにどのような取り組みが必要か」そんな私たちの問いかけに「まずは武器の持ちを学ぶ。それを知ったうえでその武器を使えるのかどうか自分の頭で考えることが大事。各国、持っているものも違う。考え方も違う。そのなかで分り合えないことはある」とし、何故戦争を仕掛けたのか、攻撃を受けた国はどのような対応をしたのか、インターネットなども活用しながら情報を集めて学習してほしいと話す。

相手を思いやることか 平和への一歩

広島平和式典に向かう途中で、小学生のボーイスカウトの子たちを率いて、式典のしおりを配るボランティア活動をしていて隊長さんに、私達に出来る平和活動について話を聞いた。隊長さんは、ボーイスカウト歴30年で、広島在住、50代の男性。平和活動について、「相手を思いやることか平和への一歩」だと言った。「どうすれば相手が喜ぶのか、どうすれば怒るのか、悲しむのかを考えて行動することが、また、その思いやりは、人だけではなく地球に対して持つべき」と言っていた。

最後に隊長さんは、「今までにやっていたことと比べていることが必ずしも平和につながっているわけではない。環境がなごりたりと、色んな仕事をしたい中、平和や環境につながることで、いつか何かのきっかけがあるの、様々なことに挑戦し、体験して欲しい」と私達に語ってくれた。優しい目でも熱い思いを持って活動をしている隊長さんの言葉が心に響いた。

(鈴木美和)

子ども平和新聞



2025年9月15日発行
COOP いわて生協

【制作】
ビースアクションin
ヒロシマ2025参加者
【発行】
組合員活動チーム
019-603-8299

硝子の破片と共に生きた両親

8月5日、広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式が、広島市の平和記念公園で開かれた。その中、国立広島原爆死没者追悼平和祈念館がある。

午後18時半過ぎに訪れたおばあさん、両親がどちらも被爆者というので話を伺った。

おばあさんは広島在住。被爆者であった両親がどちら

4日後に目を覚ましたけれど傷口にはウジがわいていて辛く苦しんでいたと話していた。年を取ると筋肉がなくなり傷を負った部分の皮膚が引っ張られて動くたびに痛がっていた。また父は笑うと顔に残るガラスの破片が動いて痛がった。二人が亡くなり火葬した時にキラキラ光るものがあり葬儀場のスタッフに尋ねるとそ

れはガラスと言われた。被爆してからガラスの破片と共に生きた両親。おばあさんは「この年になつて思うことは、もっと両親から被爆について真剣に話を聞いていればよかった」と語る。「平和を当たり前に思わなくてね。頑張ってたね」掘り起こしたくない思いを僕たちの話してくれたおばあさんの言葉のバトンを皆さんにも繋げたいと思った。

(花巻市立湯口小学校6年 岡山勇飛)

組合員の募金で実施しました

いわて生協では、全国生協の組合員が集まるビースアクションinヒロシマ代表を送り、学んだことを広げる活動を行っています。今年度は、岡山和泉さんが参加しました。この費用は組合員の募金で賄われています。今年度は11万6千円のご協力をいただきました。ありがとうございました。



子ども平和新聞プロジェクト

広島で子どもたちが学んだことを多くの方に伝えたい。子ども新聞プロジェクトを実施しました。

明日新聞の伊藤恵里奈記者にご協力いただき、広島に行く前には取材方法や、現地で知らない人に声をかけて取材しようというアドバイスをいただきました。戻ってから記事作成や紙面割り付けなど事を相談して進め、この新聞が完成しました。

みやぎ生活協同組合

協力新聞社名	子ども参加人数	集まった回数
河北新報社	5	4

訪問施設やお話を聞いた方	完成した新聞の広報や報告方法
- 訪問施設：仙台市戦災復興記念館 - お話を聞いた方：仙台市戦災復興記念館ボランティア及川さんと仙台空襲体験者 広瀬喜美子さん	- ピースアクションinヒロシマ派遣報告会で報告と配布 - 店舗掲示と配布 - メンバー集会室掲示 - ホームページに掲載 「秋のコープのつどい」の資料に掲載（3000部） 「みやぎ9条のつどい」で配布（1000部）

参加者の感想

- ・平和とは争いがない世界・食べ物がある世界・ひんぷの差がない世界・協力しあえる世界。
- ・原爆の量や大きさなどを学びました。これからも平和を守っていききたいし伝えていきたい。
- ・当たり前にあるものがないのはやっぱり苦しいし、平和や戦争について「今自分たちができること」を考えられたので良かったです。
- ・平和とは喜びです。長く続くよう今日も生き続けたい。
- ・戦争はただ人をころすだけで勝ってもあまり意味がないと思う。

エピソードなど

- ・メンバーは一般公募と昨年までのピースアクション in ヒロシマ参加者に声かけをしました。
- ・河北新報の子ども新聞「週刊かほピョンプレス」(9/21) で紹介されました。
- ・「新聞社の方から学び、様々なことがデジタル化されている今、紙面で平和を伝えるという企画が良い」「子どもたちの文字から伝わるものがあつた」との感想がありました。



河北新報子ども新聞
「週刊かほピョンプレス」(9/21)



ピース
クラブ
楽片問

戦時中、食料の
不足を克服する
方法として、
米と麦で作った
パンが作られた。
これは、戦時中
の食料事情を示
している。この
パンは、戦時中
の食料事情を示
している。

戦時中、食料の
不足を克服する
方法として、
米と麦で作った
パンが作られた。
これは、戦時中
の食料事情を示
している。この
パンは、戦時中
の食料事情を示
している。

がとて

地面はアスファルト

にホッという音が聞こえなかった

は空工龍表を投げた後

町中から空を覗いた

に外から人が入って来た

に突いたのである。当時を知っているひろせきみこさんは空工龍表の仙台について

1943年

でほしい

音心味をたべれない

一連三国同盟の最大領

一連三国同盟の最大領

一連三国同盟の最大領

一連三国同盟の最大領

一連三国同盟の最大領

1945年7月10日
B29が約120分間
焼夷弾を投下させた。
一時的に空工龍表を受け
一夜が明けた頃には、何
もない砂漠と化してい
たというまた空が残り
た家も陰を閉じた途
端、中にある大皇の骸骨
に外から人が入って来
て突いたのである。当時
を知っているひろせきみ
こさんは空工龍表の仙台
について町中から空を
覗いたに外から人が入
って来たに突いたのであ
る。当時を知っている
ひろせきみこさんは空
工龍表の仙台について
町中から空を覗いた

A group of four students are gathered around a table, working on a project. They are looking at a large sheet of paper with a colorful illustration of a landscape. One student is pointing at the paper, while the others are looking on. There are various materials on the table, including a ruler, a pencil, and some small objects.

風化させないこと

鶴谷中 兵藤 ひとみ



この日を聞いて
たあ、つと、あべ師
の、ええ持ちでい

私は、今回戦争復興記念館に行き、仙台空襲について学びました。特に印象に残っているのは、空襲警報。報と空襲警報。報の音と実際の原爆の爆発音を聞いたことです。空襲警報の音も実際に聞いた時は、思ってたより、怖かったです。戦時中の時の人々はみんなこの音を聞いて、

ぼいた、たんだろ、うかと感じました。他にも、配給制や防空壕についても知ることができてよかったです。私は、平和について、考える機会がいくつもありました。戦争について、ふたたび、今ある物があたり前ではないこと、一瞬で平和がうばわれてしまうことを実感します。今の私たちが出来ることは、この出来事を風化させないこと、つないでいくことです。戦争についても知り、今の私たちに出来ることをやっていきたいと思います。

平和の大切さを伝える

鶴谷中 兵藤 ひとみ



これは戦争復興記念館に行き、太平洋戦争や仙台空襲、広島・長崎の原爆について学びました。千九百四十一年に戦争が始まり、十九百四十五年には広島と長崎に原爆が落とされ、アジア州などの多くの尊い命が失われました。戦時中の学校では毎日空襲に備えながら過ごさなければならなかった。食料配給制での生活をしていたということや色々なことを学びました。私は今回戦争復興記念館に行き、今の私たちの平和な生活は決して当たり前ではないことを改めて強く感じました。これからも戦争の悲惨さや平和の大切さを学び続けたいです。

私は戦争復興記念館に行き、太平洋戦争や仙台空襲、広島・長崎の原爆について学びました。千九百四十一年に戦争が始まり、十九百四十五年には広島と長崎に原爆が落とされ、アジア州などの多くの尊い命が失われました。戦時中の学校では毎日空襲に備えながら過ごさなければならなかった。食料配給制での生活をしていたということや色々なことを学びました。私は今回戦争復興記念館に行き、今の私たちの平和な生活は決して当たり前ではないことを改めて強く感じました。これからも戦争の悲惨さや平和の大切さを学び続けたいです。



世代に受けついでいきたいです。

仙台空襲 平和な世の中にするために

7月30日（水） 仙台市戦災復興記念館で取材



戦時前や後の様子



B-29が爆撃して仙台を火の海と化した焼夷弾



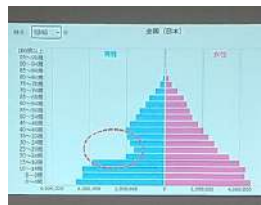
当時のことを話している広瀬さん



空襲を防ぐための防空壕



戦時中の食べ物：もちろん魚や肉はなく野菜や雑草しかない



一気に減った20～39歳の人口



空襲を防ぐための防空壕



取材の様子



みんなでパチリ

実際に残っている防空壕
形や大きさは当時より
小さくなっている



写真撮影&キャプション
byピースクラブメンバー

茨城県生活協同組合連合会

協力新聞社名	子ども参加人数	集まった回数
茨城新聞社	5	2

訪問施設やお話を聞いた方	完成した新聞の広報や報告方法
・ 広島平和記念公園 ・ ピースアクションinヒロシマに参加し現地で取材を行いました。	・ パルシステム茨城栃木の機関紙で紹介 ・ 8月24日、ピースアクションinいばらき夏での報告

参加者の感想

- ・ 戦争について知る人はどんどん少なくなっているの、私たちのような若い世代が語り継いで残していくことが大切だと思いました。
- ・ 核爆弾は一瞬ですべてを奪いました。これほど恐ろしく残酷なことはありません。被爆国である日本はその事実を世界に発信し続けることが大切だと思いました。

エピソードなど

- ・ 7月12日(土)、8月4日～6日の「ピースアクション in ヒロシマ平和スタディツアー」に参加するいばらきコープとパルシステム茨城 栃木の組合員家族が集まり、オリエンテーションと事前学習会を開催しました。いばらきコープ2家族(3名)、パルシステム茨城 栃木2家族(6名)が参加をしました。
- ・ ピースアクション実行委員会は、いばらきコープ、パルシステム茨城 栃木、茨城JA中央会、茨城県生協連が担いました。
- ・ 実行委員会から3日間の行程や諸注意、まとめの会、報告会などの説明と合わせて、子ども平和新聞プロジェクトの説明も行いました。
- ・ 協力いただく茨城新聞社の澤畑様から新聞作成のポイント、取材時の注意点などについて、写真や図を交えた説明がありました。



2025 年(令和7年)8月24日(日曜日)

茨城県ピースアクション実行委員会

被爆・戦後80年

広島の思いをつなぐ 感じたことを言葉に



茨城県ピースアクション実行委員会では、いばらきコープ生活協同組合、生活協同組合パルシステム茨城 栃木の組合員親子を、ピースアクションinヒロシマに派遣しています。



ピースアクションinヒロシマ

平和ってなんだろう? 広島で考えた



公園内にあり
原爆死没者慰霊碑

八月四日私は、平和記念公園で現地の高校生のお話を聞きながら案内をしてもらいました。私が驚いたのは、被爆前、平和記念公園は商店が栄えていた地区だったということでした。今と同じようにある



須賀田 梨沙

八月四日私は、平和記念公園で現地の高校生のお話を聞きながら案内をしてもらいました。私が驚いたのは、被爆前、平和記念公園は商店が栄えていた地区だったということでした。今と同じようにある

家族を大切に
幸せを再確認



ました。見学するうちに、平和はとて大切なことで、今日生きていられることが、とても幸せなことだと再確認することができました。この経験を通じて、今後の生活に活かしていきたいです。

2025 年(令和7年)8月24日(日曜日)

平和の尊さを胸に

スタディツアーで感じたこと



広島平和記念資料館展示物

私は8月5日、広島
の平和記念資料館を訪
れました。そこで特に
印象に残った展示品が
二つあります。
一つ目は「被爆者の
遺品」です。小学校で
作業をしていた少年、
少女が当時着ていた衣
服はあちこち破れたり
すすのうなものが
ついでに見ていてし
ても胸が痛くなりました。



平井 詩菜

平和の尊さ、原爆の恐ろしさを知る
平和記念資料館を訪れて



三人の中学生の遺品
寄贈／津田蔵吉、福岡重春、上田キヨ

二つ目は「三人の中
学生の遺品」です。帽
子は13歳、学生服は14
歳、ゲートルは15歳の
もの。全買占くなりま
した。ゲートルの少年
は被爆後、隣の福島
町に逃れ保護されてい
ましたが、少年の行方
を必死に探していた家
族は、その知らせを受
け取れず8月8日に亡
くなりました。



このように私と同じ
くらいの年の子どもが一
瞬にして亡くなり、てし
まうことはあつてはな
らないと強く思いまし
た。戦争は人としての
尊厳を奪います。今回
の参加で、より平和の
尊さを知りました。



広島平和記念資料館展示物

広島県広島市にある
原爆ドームは、一九六
六年(平成八年)十二
月に「世界遺産」に登
録されました。
もともとは、色々な
品物を売ったりする場
所として、多くの人が
が利用していたそう
です。一九四五年(昭和
二十年)八月六日の朝
八時十五分に、建物の



ながい しんじ

平和について学んだこと

骨組だけ残ったド
ムは、人類史上初めて
使用された原子爆弾の
証人として、また、か
く兵器のいぜつと、
世界の恒久的平和の大
きさをうたえ続ける平
和記念碑としての役割
を果たしています。
原爆ドームを実際に
目の前で見て、多くの
人々が一瞬で亡くな
った悲しみが伝わって
きました。平和記念資
料館など、広島で平和
について学び、あのよ
うな悲しいことが二度
とおこらないように思
いました。

2025 年(令和7年)8月24日(日曜日)

「建物に刻まれた歴史の重み」

平和の大切さを実感した一日



袋町小学校平和資料館

私は八月四日に広島市の袋町小学校平和資料館へ、八月五日に原爆ドームへ行ってきました。

二つの場所を見学して印象に残ったこと、二つあります。

一つ目は袋町小学校の児童が残した伝言です。その伝言には家族



坂本 あかね

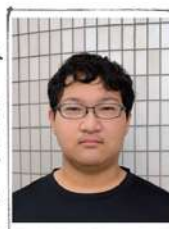
胸が痛かった伝言と
原爆ドームの奇跡

や知人を探すものや自分の消息を書き記したものが残っていました。私は胸が痛かったです。なぜなら、今どこにいて、どこに生きて、どこに家族や知人、必死に探す人達の思いが伝わってきたからです。

二つ目は原爆ドームの形です。原爆ドームは倒壊していません。外見は今にもくずれそうです。

八月四日、私は広島市の原爆ドームを訪れました。そこは特に印象に残ったもので、二つあります。

一つ目は原爆ドームの原形を留めていたことと、原子爆弾は原爆ドームの上空約600mに投下されたのに、も関わらず倒壊しませんでした。



坂本 なおと

原爆ドームを訪れて
深く心に残ったこと

原爆ドームが倒壊しなかつた理由は、爆風がほぼ真上から垂直に働いたためだそうなんです。私は原爆ドームが倒壊しなかつたのが奇跡だと思いました。あの形が強く印象に残りました。



なぜ倒壊しなかつたのかというと、爆風が真上から当たり、窓が多く爆風が分散されたことや、ドームの屋根が鋼板でできており、熱線で融解して爆風を逃しやすかったことが理由で倒壊しませんでした。しかし中に入ると、人達はみんな即死したため心が痛かったです。二つ目は原爆ドームに残された理由です。当時、原爆ドームを残す派の人と残さない派の人がいて、残す派の

人達は、後世にこの事実を伝えていこうとする意見で、残さない派の人達は爆爆の悲惨な記憶を想起させるため、取り壊して欲しいという意見でした。

このような中、原爆ドームを残すべき、かけとなく、たのは、一歳で被爆し、十五年後白血病で亡くなった、た楠山ヒロ子さんの日記に書かれた「あの痛々しい産業奨励館だけが、いつまでも、恐ろげき原爆を世に訴えてくれるだろう」という言葉が、この言葉に心を動かされた子供たちが保存運動を始め、署名活動や募金活動が広がり、最終的には広島市議会によって永久保存が決定しました。これを聞いた時、いろんな人達が後世に伝えていこうとする夢にすごく感動しました。

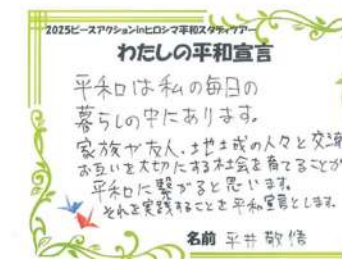
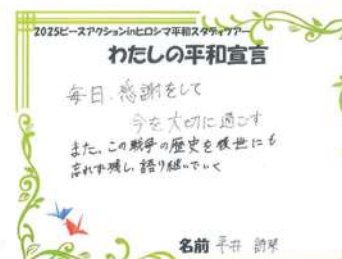
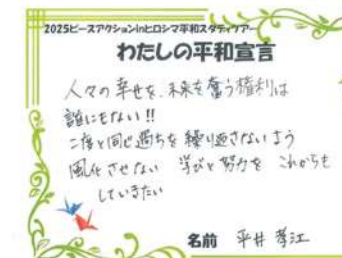
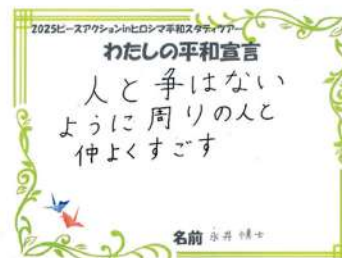
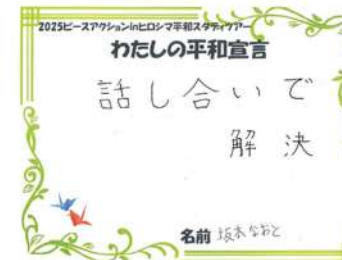
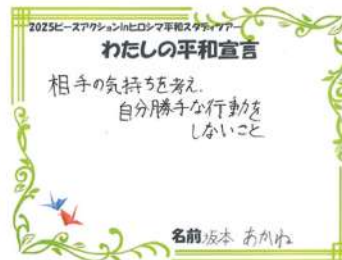
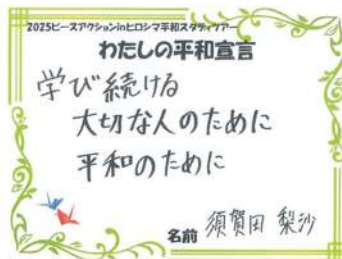
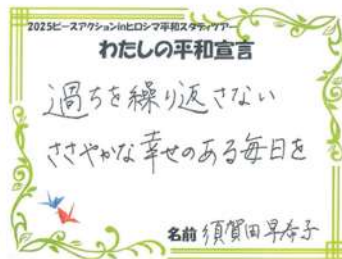
今回、広島を訪れて、改めて平和の大切さについて知ることになりました。

2025 年(令和7年)8月24日(日曜日)

わたしの平和宣言

広島で心に刻んだ大切なこと

ピースアクションinヒロシマ平和スタディツアーに参加した親子が、それぞれの平和への思いを込めた「わたしの平和宣言」を作成しました。参加した親子にとって、平和への理解を深めるだけでなく、自分ごととして捉え、行動するための大きな一歩となりました。



原爆の子の像(広島平和記念公園内)



パルシステム茨城 栃木 参加者・事務局



いばきコープ 参加者・事務局



いばらきコープ生活協同組合

協力新聞社名	子ども参加人数	集まった回数
茨城新聞社	4	3

訪問施設やお話を聞いた方	完成した新聞の広報や報告方法
訪問施設：水戸市平和記念館、筑波海軍航空隊記念館	- いばらきコープHPで報告 - いばらきコープ平和のつどいででの展示（9月13日） - いばらきコープフェスタでの展示と配布（3000部印刷予定）（12月6日予定） - 茨城新聞で掲載されました。

エピソードなど

- ピースアクション in オキナワに参加されたお子さんが、子ども平和新聞プロジェクトにも参加してくれました。



2025 年（令和 7 年）9 月 13 日（土） いばらきコープ子ども平和新聞

いばらきコープ子ども平和新聞



茨城県の戦争の歴史に触れ、失われた命や平和の尊さを思い、これからも平和な世界が続く社会を築く一人ひとりになってほしいと願っています。心に深く響くメッセージを受け取ってください。の思いを込めて茨城大学の先生・学生と1年をかけて作成した戦争遺跡・記憶を伝える動画を視聴して、思いを受け取り自分で調べて、感じたこと、伝えたいことを言葉にした新聞です。

～知って考えてほしい～ 茨城の戦争の歴史

実際には使用された道具、衣服、日用品などが残されていて、当時の生活や環境の一端を具体的に知る事ができます。義勇軍として派遣された若少年たちは、寒さなど過酷な生活を強いられることも、少ないながらも、当時の手紙や日記なども展示され、若少年の思いや不安、希望などを垣間見ることができました。家族や友人と離れ、

知らない土地で生活しなければならなかったこと、満州では荒地で食料が少なく、たまたま、病気があつたこと、さらには戦争が進み、連日、国境を越え、攻撃されて、逃げ回らなければならない、たまたま、仲間の亡くなったことを知り、戦争が終つても、帰国する方法もなく、捕虜となつたまま、少ない食料で働かされ、寒さと栄養失調などで次々と亡くなつてい

満蒙開拓青少年義勇軍とは、戦時中、満州国にわたつて農業や林業などの訓練を三年受け、農作業や開拓に従事した若少年たちをいいます。送り出された人数はおよそ八万六千人に達



しました。当時の農村は貧困と食糧難があつたこと、兄弟が少く、親の土地を継がない農家の次男、三男が志願したそうです。水戸市の内原郷土史義勇資料館は、戦時中の「満蒙開拓青少年義勇軍」について展示、紹介しています。展示室には、出発の様子を写した写真や、

大人なれず行った満州

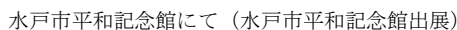
長野 達也



内原郷土史義勇軍資料館出展



復元日輪舎（内原郷土史義勇軍資料館出展）



2025年（令和7年）9月13日（土） いばらきコープこども平和新聞

若き特攻隊員が贈ったペンダント

金井少尉と

大里明藻



水の
もう
ニヤ
トの
した

少尉は彫つたのでしよう。要戦と銘打てる金井少尉がこれから搭乗すると思ふからラスの飛行機一つは二人のイニシャルが彫られたハールのヤンダントで

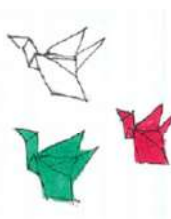
とリをしてきて、女学生
と一度も会うことなく
、亡くなってしまった
ので、二人に会ってほ
しかった、と思いまし
た。がラエでできたペ
ンダントはとても美し
いものでした。

茨城県笠間市にある筑波海軍航空隊記念館を訪ねてきました。新展示館二階には金井正夫少尉が一九四五(昭和二十年)年、女学生に送ったペンダントが展示されています。女学生は金井少尉の紙のやりとりしていたが、一度も会うことはなかったのです。一九四五(昭和二十年)終戦開戦に二つのペンダントと手紙が封筒の中に入れられて女学生の元に送られてきました。

昭和二十年終戦開戦一人の女学生の元に手紙が届きました。彼女は兵隊入を願ふすという理由で、学校に勧められ、一人の海兵と文通をしていました。はじめは国の政策で始めた文通でしたが、手紙のやりとりの回数も増え、女学生と海兵の手紙のやりとりは二百通にも及びました。その日女学生に届いた封筒は厚く、中には手紙と二つのペンダントが入っていました。

金井少尉の最後

私はなな金井少尉がペンダントを送ったのか考へてみました。私は、最後に「なる」と思つて女学生に手紙を送つたのではないでしようか。ずつと手紙のやり



「愛情」平和

一つの手紙

2. 紫清海軍航空隊



上級

昭和六年（一九三一年）滿洲事變をきっかけに、約十五年続いた戦争、たくさんある軍隊の中で、英雄果に「狼煙海軍航空隊」という軍隊がありました。そこで、航空隊のゆかりの地「筑波航空隊」

した。記念館の中に
入ると、航空隊の歴史
映像資料や当時の写真
など、数多くの展示が
ありました。二人のペ
ニンガントの話です。彼
娘によります。ペニン
ガトをもうけた多摩生は
はじめは兵隊さんで勉

なりませんでした。

ペンダントへの思い

二人のペンダントは、金力少尉が女学生に会いたいという思いで、特攻隊の前の最後におく、手紙に入れたものでしょう。

ます目的で手紙を書いた。その手紙は金井正夫少佐に届きました。女學生と金井少尉の手紙のやりとりは、二百通にも及びました。その最後の手紙はペンダントが入っていたのです。二人が實際会うことはありませんでした。

射隊しア固
少。撃この船
夫身攻員込送
正出別隊周輪
井泉特波纜軍
全馬風跳沖力入
群神1、リ突享



金井少尉と手作りのペンダント

(筑波海軍航空隊記念館より出展)



筑波海軍航空隊記念館

2025 年（令和 7 年）9 月 13 日（土）

いばらきコープ子ども平和新聞

わたしの平和宣言

参加したこどもたちは、「こども平和新聞」の作成を通し平和について感じたことを、平和への思いを込めて『わたしの平和宣言』を作成しました。

被爆・戦後80年
平和とよりよい未来のために

わたしの平和宣言
私は、平和について、次の世代に伝えていくことを誓います。

名前 大里 明凜

被爆・戦後80年
平和とよりよい未来のために

わたしの平和宣言
ぼくは、これからも戦争のない日々をおくっていくことを宣言します。

名前 山口 大智

被爆・戦後80年
平和とよりよい未来のために

わたしの平和宣言
私は、平和について学び、次の世代につなげることを誓います。

名前 北條 咲稀

被爆・戦後80年
平和とよりよい未来のために

わたしの平和宣言
後世に伝える

名前 辰野 碧音



子ども平和新聞プロジェクトに参加したメンバー

生活協同組合コープぐんま

協力新聞社名	子ども参加人数	集まった回数
上毛新聞社	8	5

訪問施設やお話を聞いた方	完成した新聞の広報や報告方法
・ 渋川市平和委員会の方を講師にお招きし、「渋川空襲」をテーマに午前中は座学・午後は戦跡5か所(渋川商工会議所・良珊寺・佐久発電所サージタンク・防空壕・おろかもの之碑)をめぐるしました。	・ 8月4日週のコープデリ宅配のカatalogと一緒に配布(107,300部) ・ 宅配センター、店舗、組合員室にポスター掲示 ・ 8/17 コープぐんま「戦雲」上映会展示コーナーにて配布 ・ 9/6 コープぐんまフェスタ理事ブースにて配布 ・ ホームページにて公開 ・ ピースアクションinヒロシマの8/5みんなのひろばコープぐんまブースで配布 ・ 8/31 コープぐんまピースアクション報告会でピースクラブで学んだことを発表 ・ 9/28 修了式・自主学習発表会・平和の木の作成

参加者の感想

- ・ ピースクラブに参加する前は遠い存在だった戦争が、終了後は身近に感じることができ勉強になりました。
- ・ ピースクラブは自分の世界を広げてくれます。教科書で学ぶものではなく、肌で感じることができました。
- ・ 戦争体験者からのお話を聞いてみたいです。
- ・ 仲間と楽しく学ぶことができました。



エピソードなど

- ・ ピースクラブメンバーから4名がピースアクション in ヒロシマに参加しました。
- ・ 今年で5回目になるピースクラブですが、8名と多くの子供たちが集まったため、4ページもの新聞を作ることができました。最初は緊張していた様子でしたが、回を重ねるにつれ中が深まり、楽しんで学習をしてくれました。新聞のレイアウトやイラスト、見出しに子どもたちのこだわりが詰まっています。教科書では学べない貴重なことが学べてよかったとの声が多く、事務局側も平和学習を行う意義を改めて感じるすることができました。
- ・ ご協力いただいた渋川平和委員会の方が資料や実物資料をたくさんお持ちで、軍服や焼夷弾の破片などを実際に手に取りながら学ぶことができたのは大変貴重な機会でした。次年度以降も関わりを持ち、コープぐんまの平和学習を広げていきたいです。

2025年(令和7年)8月4日(日曜日)

戦後
80年

あなたは
渋川空襲を知っていますか?

ピース
ニュー
ス
クラブ

未来を担う子供たちが平和学習に取り組むコープぐんまの「ピースクラブ」で渋川空襲を知る見学会が6月22日に同市で行われました。小学4年から中学3年生の8人が、渋川平和委員会の生方敏博さんの説明に耳を傾けました。その後、今でも空襲の悲劇を知ることができる市内5カ所をバスで巡りました。戦後80年の節目に子供たちは、自分たちが暮らす身近な場所で起きた悲慘な事実を知り、改めて平和の尊さを学びました。



はり実こ空
とま際と爆
てもか入に
暗い防まは
で空分すみ
す爆かた防



真っ暗闇の防空壕
開智未来中学高等学校一年飯島璃湖

私は今回、ピースクラブで本物の防空壕の中に入り、遠く山の中にある防空壕では、とても暗いので、懐電で光を照らして見ました。防空壕には、入るための扉があり、中はとても暗いので、懐電で光を照らして見ました。防空壕には、入るための扉があり、中はとても暗いので、懐電で光を照らして見ました。

りも方川川
を開敏平空
き博和襲
ろさん員に
んなのお会
な戦のの
跡巡話生



景色に溶け込む戦争の跡
みなみ町立みなみ中学校一年宇野遼斗

ぼくは今回、渋川平和委員会の方に案内してもらって、防空壕を見学しました。防空壕の中は、とても暗いので、懐電で光を照らして見ました。防空壕には、入るための扉があり、中はとても暗いので、懐電で光を照らして見ました。

照らし、暗い防空壕の中は、とても暗いので、懐電で光を照らして見ました。防空壕には、入るための扉があり、中はとても暗いので、懐電で光を照らして見ました。防空壕には、入るための扉があり、中はとても暗いので、懐電で光を照らして見ました。

かな街の雰囲気が感じ取れます。戦争が身近にあると、思いますが、戦争が日常になつていくことが、一番おそろしい。今回の取材で、渋川の景色の中に戦争の跡が残っていることが、とても印象的でした。

疎開中の生活

出	所	し	団	明	出	に	そ	心	学	
す	に	た	疎	く	そ	は	の	に	童	そ
親	子	。	開	の	う	空	こ	残	疎	の
体	ど	知	を	小	な	襲	う	り	開	中
。	も	ら	し	学	都	の	。	ま	の	で
す	を	な	こ	生	会	被	造	し	こ	も
ど	迷	い	き	が	か	害	川	た	と	私
く	り	場	ま	集	ら	が	市	。	が	は

飲	た	胸	考	ら	た	う	く	す	親		と	キ
は	。	が	え	生	い	し	て	の	親	子	思	い
イ	春	痛	る	活	レ	、	辛	は	は	ど	い	つ
ナ	は	く	と	し	と	「	か	と	な	も	ま	た
ゴ	セ	な	、	こ	思	家	親	て	れ	た	し	だ
じ	り	り	と	い	い	に	に	た	も	ち	た	う
飯	ご	ま	て	な	な	帰	会	だ	寂	は	。	う
な	飯	し	も	と	が	り	い	ろ	し			な

思	し	二	を		い	今	い	た	こ	が	い	い	ど
い	て	度	知	決	こ	で	こ	く	も	ご	ま	た	の
ま	は	と	。	川	と	は	い	ら	気	あ	し	子	、
え	い	戦	て	空	ど	信	た	い	づ	ご	た	ど	食
た	け	争	。	襲	す	じ	え	お	か	あ	。	も	事
。	な	を	改	の	。	ら	う	腹	な	し	口	た	を
	い	起	め	こ		れ	ご	が	か	て	の	ち	し
	と	こ	こ	こ		な	す	空	。	い	中	も	で

群馬県立中央中等教育学校 3年 滝川 瑚子

A portrait of a young woman with dark hair and glasses, wearing a dark jacket and a blue name tag. She is standing in front of a light-colored, horizontally-slatted background.

て	タ	久	商	つ	
ン	光	電	工	い	糸
弾	ワ	所	会	て	は
の	の	の	講	学	波
威	弾	サ	所	が	川
力	痕	ー	や	ま	壱
を	を	ジ	佐	し	競
突	見			た	に

そ	し	の	負	上	う	を	が	か	し	際
う	て	こ	け	、	こ	決	攻	っ	ま	に
で	攻	と	を	米	と	め	撃	た	し	感
す	撃	ま	宣	軍	で	て	を	の	た	じ
・	し	で	言	は	す	い	す	は	・	て
ア	て	を	し	日	・	た	る	、	更	ゾ
メ	い	想	た	本	そ	と	目	米	に	ッ
リ	た	定	後	代	の	い	標	軍	怖	と

力	見	リ	良	童	し	ん	が	て	ん	活	疎	知	か
の	て	ま	珊	疎	ま	疎	あ	い	ん	範	開	ら	く
余	・	し	寺	開	し	開	っ	ま	な	囲	帖	な	り
裕	恐	た	で	の	た	と	た	し	に	に	だ	か	し
寸	ろ	・	は	碑	・	い	の	た	も	近	っ	っ	ま
を	し			を	ち	う	は	が	の	い	た	た	し
垣	く			見	ろ	も	知	、	の	所	と	の	し
周	な		学	学		の	っ	生	が	が	は	を	た

ま	は	で	れ	し	を	く	ま		分	に	争	近	い
た	算		な	た	絶	な	す		み	行	と	に	う
	し	私	い	。	対	い	。		な	こ	い	感	で
当	か	に	な	そ	に	と			さ	れ	う	い	し
時	。	は	と	ん	起	強			人	ら	も	て	よ
の	た	耐	思	な	こ	く			も	の	の	み	う
食	え	え	い	状	し	思			場	。	を	て	か
事	う	ら	ま	況	た	い			所	戦	身	は	。



良珊寺の「学童疎開之地」碑
 波川園工芸議所パネルにある



A portrait of a young woman with dark hair, smiling and holding a small object, possibly a book or a small box, in front of her. She is wearing a green lanyard around her neck. The background is a light-colored, textured wall.

空し ゆ うのこわさ

く	す。	25	う	頃	米	爆	ひ	重	物	に	と	と	感	度	ず	な	い
ら	す。	日	は	が	軍	げ	か	軽	か	も	を	も	じ	と	だ	い	の
い		の	午	ら	は	き	い	傷	が	お	知	知	ま	戦	れ	よ	う
重		浜	前	約	は	さ	は	者	い	よ	て	て	し	争	も	う	な
か		川	7	1	死	れ	死	々	2	び	戦	は	た	お	悲	な	て
		空	時	時	者	ま	者	人	0	ま	争	の	は	こ	し	世	い
た		し	25	間	19	し	人	、	9	し	は	こ		さ	ま	界	ま
て		分	分		人	た	建	棟	棟	な	は	こ		さ	ま	を	す

戦争のざんこくを、知る

たしは、今和平
和でよか。たと
思いました。
は戦争のかくさ
やぐんこさを知
りませぬ。でも
ふしぎに鬼ごと
かあります。それ
は、なんで戦争を
するのです。
「戦争に協力す
る」といなるが
と戦う相手の国の
ことも考えている
人といえると思っ
ます。

わたしたちこれ
から五戦争がなく
て、平和な世界に
なつてくれればい
いなと思います。



↑
澁川商工會議所屋上 じょうたすのあと



↑
パネで
学芸読川空塾



生活協同組合パルシステム千葉

協力新聞社名	子ども参加人数	集まった回数
山瀬 一彦氏（元朝日新聞記者）	4	3

訪問施設やお話を聞いた方	完成した新聞の広報や報告方法
• 中村紘さん（被爆者）、小谷孝子さん（被爆者） • 不二女子高校演劇部（朗読劇の上映） • 「子どもたちに平和な未来を2025」の取材を行いました。	• ホームページにて公開しました。 https://www.palsystem-chiba.coop/news/detail/post-36584/

参加者の感想

- 被爆者の話を初めて聞き、核兵器は絶対に使ってはいけないと思った（子ども）
- 新聞を書いたことで、少しでも平和につながると良いです（子ども）
- 参加された皆さんのまとめる力に驚き、頼もしく思いました（元記者）

エピソードなど

- 現役の記者ではなく、パルシステムの広報担当者の講師として繋がりのある元新聞記者の方にご参加をいただきました。参加した子どもたちは、記者の役割は「『伝える価値＝心が動くものごと』がある情報を集めること」と、記者としての心構えを学ぶことができました。

ニ たにのこーいよ

へいわ新聞



制作者

中村

ソーイ

麻椰

小谷さんの被爆体験

小谷さんは、今、あんなに健康な人はいません。あの被爆体験をして、語っている。

80年前、8月6日

8時15分ごろ。

次世代に平和をつなぐ

当時、まだ小谷さんは、川へ友達と行くところ、水ものみに家に帰ったので、幸い家ががらんじょうで、きず一つ、なかつた。でも、健康なのが、罪と言われた。もう、こわれたくないと思ひ、上京した。

そのあと、小谷さんは、この経験、を忘れようともまよ、たが、いしうと姉に被爆者なんだからとせなか

中村さんが語る、核兵器

中村さんは、2才の時に被爆した。

中村さんは戦争の二度、戦争をしたくない、という思いから、戦争のことを語っている。

中村さんが最初に言

を、おさされて、よく話術をならったのが、被爆を語る始まりと、なつた。

私は小谷さんの体験を聞いて、健康でいることが、罪ということがある。ろきでいた。平和でいること、健康でいることが、また、いま、思ひ、た、け、と、平和、な、う、な、く、の、は、と、も、大、事、。

たのは、核兵器だけは、ダメ。核兵器は、とても、ひき、う、だから、戦争をなくすには、

困いのいいところを、みつければ、次の世代に、平和をつなぐことが、できる。と、話、で、いた。

浅野 結衣

第二次世界対戦終
戦の年、1945年、広島
と長崎に落とされた原
子爆弾、広島に落とさ
れた原子爆弾をめぐり、
た。そして台所で水を
何かに。といひ、ドーン
さんは下じきにな。て
た。その時は、毎日毎
まじだが、お姉さんは
お姉さんは、全身は、
お姉さんは、全身は、
お姉さんは、全身は、

つぎに、い、ニオの弟は、
 ひつこきおそろしいねえ、水おろ
 しいねえ、とニオのくちどき、あ、こし
 まだそうです。そんな悲しい体験を
 あちやんとしたキムの人々に伝え
 戦争と核をなくす取りく
 めをしていきます。平和の
 バトンをつないでいきます。

小谷さんのお話を聞いて、原爆の爪痕に
しさいひさんを知る、ことができた。
これから平和になるように、平和の
バトンをつなぐ、ことができた。

した小谷孝子さん 腹話術の
あ、ちんこさんといふのは被爆体
験を語ります。小谷さんは車にの
りこま、被爆しました。8月6日
その日は親などをたどりまかり
をする日でした。出発はお昼で
す。その日の朝はお姉ちゃん、哲
ちゃん、そしてオ弟と川におきしに
いこうと走りまわっていたそう
です。小谷さんはそうとうのどが
かわいんで家に帰りまし

中村さんはつオの時に衣
爆し、今は原爆とは、とい
うことについて話しています。
原爆での凶害はねせんばくさう
ほうしのうのうたさうです。ねげん
は30度と40度もありたさうです。
ばくふうはたてもののやねがけえ
かふきとだての目玉がぶち出し
まうほどなぞで、ほうしのうのこ
体のおくうがまでスリニみ、

へいわ新聞



制作者

井上友斗

せんそうは急に来た。

せんそうが使われたばくだんはべつ

1945年8月6日その日はうつうに一日が始まった。8時15分広島に原爆が投下された。投下された後、町は周りは炎につつまれ、お母さんたすけてとさけふ人もいた。全身やけどでひんがたれたという人もいた。ひんがたるときは黒い雨のふたといっている。

その後、終戦1945年8月15日。そのときの死者は、14万人の人が亡くなった。

せんそうというものは、以外とおそろしい事なのだなと田舎いしました。広島と長崎で使われたばくだんはちがう、うことに

広島はウランがた、長崎はプルトニウムがたが使われた。ではなせちがうはくせんが使われたのたろう。それはアメリカが日本をも、実験のように使ったからだ。ばくだんのしゅさはちがう。はんいの大きなどの大きさはちがう。てきたのだ。

せんそうの話を聞くと感想、これがいきいたいこと

おどろきしました。た、たの9日の間で14万人の人が亡くなった。い、たことに、びくりしました。これからは、この国が平和になるように、この新聞で少しでも平和になれるようにしたいです。

平和へ歩新聞

制作者

高山海里

弾のおそろしさがよく
知ることができ、戦争のま
るい理由がよく伝わった。

吾る言について当事者爆者被

広島へ落とされた爆弾とは

一九四五八月六日
広島に世界初
の原子爆弾が落
ちた。それにより
約三十三万人が死
亡し、約六十万人が
負傷した。爆風は
約四十度の熱線に
達し、約三度の放
射線が降り注ぎ、
約十年後に死因
となる白血病が
増加した。被爆者
は、今も苦しんで
いる。

当事者の落とされた時の様子

小倉さんのお家族は、
日の昼祖母の家に
引越して、下町に
朝戦争とは思えな
いほど静かだった。元
来、車衣の川へ、後
方、4日目に、なる。

生活協同組合コープみらい千葉県本部

協力新聞社名	子ども参加人数	集まった回数
千葉日報 後援・千葉市	6	2

訪問施設やお話を聞いた方	完成した新聞の広報や報告方法
1日目：千葉市主催「平和アニメ上映・戦災体験講話会」に参加。（千葉市生涯学習センター小ホール） 2日目：千葉空襲体験者高山章子（たかやまふみこ）さんのお話を聞きました。	- サステナビリティサイトで発信 8/30(土) コープみらい平和の旅体験報告会（コーププラザ秋葉原） 2/15(日) コープみらいフェスタin 幕張メッセ きやっせ物産展（予定）

参加者の感想

- 本当の新聞づくりを学ぶ事ができた。千葉市で空襲があったことを知る貴重な機会になりました。
- 映画を観て「もし家族が戦争に巻き込まれたら…」と感じ、家族の絆や大切さを改めて考えました。
- 国同士の話し合いで解決できるはずなのに、多くの人々が傷つく「戦争」に強くむなしさを感じた。



エピソードなど

【プログラム】

1 日目：千葉市生涯学習センター小ホール

- ・千葉日報記者による新聞づくりのポイントや上手な写真の撮り方のレクチャー
- ・千葉市主催「平和アニメ上映・戦災体験講話会」に参加

2 日目：コーププラザ千葉

- ・千葉空襲体験者高山章子（たかやまふみこ）さんから体験の語り部を続ける想いや体験したことのお話と質疑応答
- ・千葉日報記者から、新聞づくりで大切にすることなどをお話いただきました。

第1号



コープみらい × 千葉日報

新聞

2025年7月27日



千葉空襲から80年 ～1945年7月7日七夕空襲～

戦後80年新聞



おひまのイオン千葉空襲戦後80年
千葉空襲写真パネル展

午前1時39分、千葉市街地に爆撃機が襲来。約100機が参加し、約2000トン以上の焼夷弾と高 incendiary 弾を投下した。市街地の約1/3が焼失し、約1500人が死傷した。この空襲は、千葉市をほぼ完全に破壊し、約10万人が避難した。戦後80年、私たちは平和を祈る。



平和とは何だ!?
平和とは戦争や暴力がなく、社会が安定している状態のことです。平和は、人々が互いに尊重し、協力し合うことで実現できます。平和は、私たちの未来を守るための唯一の道です。

2025年
7月27日
第1号
発行
村島 騎之介

高山さん、あなたは当時小生（小中学生）の頃、千葉空襲に合いましたか？
高山さん、あなたは当時小生（小中学生）の頃、千葉空襲に合いましたか？
高山さん、あなたは当時小生（小中学生）の頃、千葉空襲に合いましたか？



戦争は何か、良いことではない。戦争は、人々の命と財産を奪い、社会を破壊する行為です。戦争は、私たちの未来を脅かす最大の脅威です。



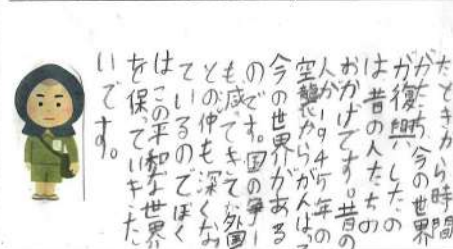
国民も兵隊にならなう!
日本国民も、戦争に参加し、兵隊になる必要はありません。平和を築くためには、国民一人ひとりが平和を求め、戦争を拒否する必要があります。

私たちは、戦争の恐ろしさを語り、平和の大切さを伝える必要があります。平和は、私たちの未来を守るための唯一の道です。



平和な世界を守っていきましょう!
平和な世界を守るためには、私たち一人ひとりが平和を求め、戦争を拒否する必要があります。平和は、私たちの未来を守るための唯一の道です。

私たちは、戦争の恐ろしさを語り、平和の大切さを伝える必要があります。平和は、私たちの未来を守るための唯一の道です。



平和な世界を守るためには、私たち一人ひとりが平和を求め、戦争を拒否する必要があります。平和は、私たちの未来を守るための唯一の道です。

私たちは、戦争の恐ろしさを語り、平和の大切さを伝える必要があります。平和は、私たちの未来を守るための唯一の道です。



生活協同組合コープみらい埼玉県本部

協力新聞社名	子ども参加人数	集まった回数
埼玉新聞 共催：さいたま市 協力：平和くらぶ連絡会、 埼玉県立松山高等学校、 埼玉県原爆被害者協議会（しらさぎ会）	17	1

訪問施設やお話を聞いた方	完成した新聞の広報や報告方法
・さいたま市内の戦跡巡り： 起志乃天神内の「奉安殿」、日本赤十字社埼玉県支部内の「殉職救護員之碑」を巡り、平和くらぶ連絡会（地域クラブ）がそれぞれの戦跡について解説。 ・被爆体験講演とインタビュー： 埼玉県原爆被害者協議会（しらさぎ会）木内様による、被爆体験講演。	— 完成した新聞の掲示先（予定） — ・8/10(日)～8/31(日) 埼玉ピースミュージアム(埼玉県平和資料館) ・8/12(火)～8/19(火) さいたま市平和展「平和祈念写真展」(大宮図書館) ・8/30(土) コープみらい平和の旅体験報告会(コーププラザ秋葉原) ・9/13(土) 埼玉県生協連ピースフォーラム（埼玉会館） ・10/5(日) コープみらいフェスタinさいたまスーパーアリーナ ・12/15(月)～12/21(日) さいたま市平和展(大宮図書館)

参加者の感想

- ・被爆者の方の貴重なお話を聞き、歴史（特に戦争）について学ぶ意欲が増しました。
- ・実際に取材をしたり新聞作りは難しかったけど、みんなで協力できて楽しかった。

エピソードなど

- ・会場提供や参加者募集のよびかけにさいたま市の協力を得ました。
- ・埼玉新聞社とつながりのある松山高校の生徒が新聞づくりのサポートをしてくれました。



埼玉新聞 2025 年 8 月 29 日付 8 - 9 面 ※埼玉新聞の許可を得て掲載しています。

9歳の頃の記憶

木内さんは、9歳
小学4年生の時に被爆
されました。とつぜん
周りが光り、真、暗に
なりました。夜が明け
るように次第に明るく
なりました。建物も全
てこわされていて、木



内さんだけかその中にいました。「友達でもない、何が起きたか理解できないが、たしと話ししていました。それでも「家に帰らなま」と思、たそうです。右の額と足くびにこぶができただけで助かった

平和を語る木内さん



奉安殿の様子

天皇を大事に
した奉安殿

木内さんには自分なせ
生き残つてゐるのかも
分からなかつたそうで
す。今、まいてみると
「今の自分でも分から
ない」と語つていまし
た。80年前の原子爆だ
んの被害を蒙つた人に
ついて、「あの日以来
生き残つてゐた身体
の傷も、心の傷も深く
いつまでも苦しみも味
わつてきたことは同じ
だと思つてゐます。そ
して、今の戦争の歴史
も後世に伝えることが
重要で、本当の平和を
守りぬき、もう二度と
苦しみもくり返さない
ことを大切だと思つて
まゐつてゐます。」
(宮下) (年月)

殉職救護員の碑は、
てき味方問わずたぐさ
んの人の命を救った殉
職救護員をたたえてつ
くられました。救護員
とは、戦傷病者の手当
てをしたかかご師のこ
とです。埼玉県では、
32人が仕事に亡くな



たくさんの命を救った

殉職救護之碑

コラム

ぼくは戦争にゆくな
 いと思ひます。理直は
 戦争があるといふのはア
 チャアチャにやら死傷
 だらけになつてたんだ
 人の人がたれたら生
 ず。

木内さんの話によると、
 どの島にも、くわしゅう
 がおきそ、学校にばくだ
 んがおちてきた。くわし
 ゅう、うけいほうが、ち
 めたが、かいじゅうと、それ
 ぞれの日本、四さんは、お
 ちのや、さんが、あま、さん
 ころに、行くと、きこ、の
 さん、ひ、その、とき、に、か
 り、と、光、を、木内、さん、は
 させ、つ、めた。目、の、け
 る、と、ま、わ、り、の、友、達、は、い
 なく、な、つ、て、い、た、は、自、ら
 が、ま、う、な、。た、ら、と、い、

いました。
現在は、写真などは
なくお守りかへ、い
るそうです。
奉安殿には、火事か
あれば学校の校長先生
が天皇皇后の安否、教
育勅諭なども出してい
たそう出す。



と筑城に行つてそこで
すべし主したい戦争を
するとなぐさんのんが
なくなるので戦争をす
るよとなくはいと思ひま
しやう

(吉川)

子ども平和新聞

2025.7.29
美園北小 6年
武井 淳広
埼玉大附属小 5年
菅菜々子
村石 真音
大宮国際中等教育学校
1年 木暮千紘

今も変わらぬ被爆者の願い

飛び立つ

しらすぎの思い

今回は、しらすぎ会
の本内中ききさんに教
育のかこについてお聞
こしました。しらすぎ
父さんはけいお所が働
いていたのでけいお所
に任せていました。8
月6日8時の分ごろ、
岡山から広島は829
が来たというところで空
しらすぎはうが覚れ
呂屋さんへ、兄は中島
小学校へ、その時じか
とすまじい光を覚
ました。その時は気
絶していました。気が
ついてしばらくすると
けいお所に行きお母さ
んに会いました。その
後の生活はがまんが
んぞくでした。ですが
学校に通わせてもらえ
ただけで幸せでした。
お母さん、広島で人が
助けられる年頃では
なかた。だからこれ
人のやくにたさしたい
思いかんごふになりま
した。そして、戦争の
歴史を伝え字をせ平和
と希望の未来をつかん
でほしいと語った。



自身の体験について語る本内さん

(菅菜々子)



殉職救護員の碑について説明する入江さん

博愛人道 胸に救護

日本赤十字社埼玉五支
部の敷地内に建つ「殉
職救護員之碑」には、

消えていった 宝箱



「奉安殿」消えてい
った宝箱。戦中、その
中には教育勅語や、天
皇、皇后の写真が入
っていた。奉安殿とい
は、大切なものを保管
している特別な建物の
こと。大切な天皇、皇
后の写真などの宝物を
守るのに先はたらけ必
死だった。もしもそれ

かっただけなら校長が自
殺する例もあったとい
う。今、奉安殿が少な
いという事実は「昔の
日本と今の日本は全然
うば。たんに安」とい
うことを教えてくれる
貴重な歴史の証人へと
変化している。

武井 淳広

石けりあむ

戦争があり食べ物や
家などがなくな、まし
まいくううしたと本内
さんは話しています。
家族は元気でしたがう
くく月の間、学校に
通えなかった。たこ刺し
います。それから、あ
かしの間でしたが、家
族に通った時は、こ
もうれしが、たそう
す。他にも良くない事
はあります。例えば、数
年分の食べ物はとても
大きいですが、教
ない食料なので家
ん命に食べたりう
学校に行くようにな
こその手は、石けり
さび。男の子は部屋
あはれていたそう
少ないしあわせの中
大きなしあわせが起
きました。はくだんの
くお後は、教員間け
お所にくうしていた
うなのですが、うう
とをいっていた所、声
したので、行、て見る
とお母さんがいたそ
うす。本内さんは当時
必くいたそう。家族
全員がそういみんな
いはりきまにちど
りしたそう。

(村石真音)

2025.7.29
大成小5年
(野崎惠幸)
大計島東小5年(阿部
秋月)
田間宮小6年(松崎
正樹)
海城中学校1年(井陽)

2025.7.29
大成小5年
(野崎惠幸)
大計島東小5年(阿部
秋月)
田間宮小6年(松崎
正樹)
海城中学校1年(井陽)

人々の命がうばわれる

戦地で救命 殉職救護員



謝. 何が起ってゐたかおからなかに
語す 大内 二



御意奉りて奉りて

天白手権威表す泰山安

戦争は、食糧を乏ししを食ふに足らないに、命もたくさんばあれてしまふ。

木内さんは、小童の年生のときに、分校で石けりや遊をいたしたきに、空飛ビガツとばかりをきつてしまひました。するとあたり修まつ時で、よ島を遊んむいた度、きつてしまひました。このよ

うなこともあり、左
邊がまん日生活だつた
そうです。そして、か
んむんだだけ、生きた
るんだらうとごさんに
思うこともあつたそ
です。

食や物味あまりおい
しくなくそのうえ少
しかかつたぞうが
本業のこともきん
ことはなかつたぞう
文雄の男のほねも男

けりなき、木
あけたり出
アツ
かあり、本
もつと
無に事と分
い
な。知り出
フの故にあ
さんがい、
もつてか
かつたぞ
といいま
もう二度
お
こしたくない、
泣き
なかりか
こい

日本赤十字社青森県支部の敷地内に「殉職救護員之碑」という銅像がある。これは海外に派遣された救護員が戦争によって職務中に亡くなった人をたたえる碑だ。



員をたてたる文章が刻
まれている。同年五月
には追悼式を行う所
だ。この銘牌が、
の悲愴さを思い出さ
るきっかけとなり、
和歌山の中になると
っている。(平井)



平和をいふ

平賀源をかくため、
實際に戦争をいけん
した。被爆者の木内こ
人に話をききました。
当時の話をしながら木
内さんはおみだも流し
ていました。なぜだ、
たのびしょう、木内さ
んは自分がみんなを助
けた、という思いでか
んがふになり、今でも
戦争はおきてはならな
いものだ、という気持ち
強くも、ていました。

「奉安殿は昭和四年に
どの学校にも立てられ
た。奉安とは安置し奉
ろ大切なものを保護す
ること。戦前、戦中
最も大切とされた御皇
影（天皇皇后の写真）
を安置する御校内の特
別な建物も奉安殿とい
う。毎日の登下校の時
に、奉安殿に對する礼
を欠かさないといひ、た
生徒へのしつけにも何
あれた。つまり、天皇
の權威を日常的に感じ
させるものなのとつて
また、戦後、奉安殿
は取り壊されたが、地
域に上つては神社とし
てそのまゝ残されてい
るものもある。（篠澤）

今でも戦争への活動が続けており、昨年木内さんが活動をしている日本被爆協議会がノール平和賞を受賞されました。木内さんは実際に戦争を体験した人、もう二度とおきないようにも強くねがう、だからこそ正しいの、今でも元気に活動しているのかもしれませんが、木内さんのあのなみだも、今の木内さんの力にな、ているかもしれませんが、今も世界で戦争はおこっています、木内さんのような思いをもては、戦争はなくなると思っています。(阿部)



剥皮爆体馬を語る木内さん↑



(一) 总则

広島がもうほんた
 かにまなくなつていま
 したば最近木内さんが
 広島に野くまをせんが
 うちになつていたまう
 びすのくま木内さん
 が当時何かいふ風な
 言も主なるまうびす

当時、盛田原爆を体験した木内さんは原爆の恐ろしさを知りました。

木内さんによると、原爆が落ちたあとにはたんこ皮が落ちてきた。

木のけいこうをしたんちがい、ばいあひらたさうです。原爆があつてから今でも、家になります。原爆があつたんでんぐ

原爆の歴史

戦後80年

リ王たるの木内さんには
 この経験とこの歴史を
 伝え、あげば自分たち
 のまじり物の手組とまじ
 りの未来をつかみ取り、
 てほしめて思ふ水とい
 ます。そしてかんべい
 をこころに抱いて、へり
 のほけろが頼りとし

子ども平和新聞

2025, 7, 29

大原中学校
香山田依
仲町小学校
荒木結奈
別所小学校
渡邊諒
鈴谷小学校
青山奈央

天皇の
権威
奉安殿

たこを食ふがよい。
(青山中)



秦安殿に於て語る三浦公

戦後死去した

一人の語

平和クラブ連絡会
入江さん 海へ。
木村英喜さん エリエ
三花氏 竹原から。
美喜さんは正月年々



彌聯牧護皇之碑に於て語に入江さん

[illegible]

奉安殿は、80年前
小学校に必ずあつたそ
うです。今、自分かか
よ、てゐる学校には
奉安殿がないので、ふ
だんは知らないことな
る。教へてもらひ、こ
うみをもつことかでき
ました。奉安殿の中に
は、天皇陛下の写真と
みんなの中へき約束
事が書かれたまき物外
入、てゐるそうです。
これから、戦争は
あてはまらないこと
だとわかりました。罪
かない人へ被害を与え
何れを奪うことになら
からです。(青山会)

みんなで作った平和新聞

下書きが難しい
たけれど最後
はうろた。みんなと協力
できた!!
武井 淳広

被害者の方の貴重な
お話を聞くという経験
を通して、歴史(特に戦争)
について学ぶ意欲が
増えたと「博愛」道
という言葉がとうとう印象
に残りました。

教さいなと、大變な口が
ふくみ、唇を動かして、
 先生、

実際に取材をした
被爆者の方の話を聞
いたり、本格的に新
聞づくりをするこ
とができて、とても
体験になりました。
香山由依

美作国多良の
見立付ねてと

最初はあまり書き方がわからず
大変だったけど、人とも交流でよくなりました。
香山 夢生

またやりたいZE!
またあう!

かんていして品かして新聞と
作るのはねめであつたけど、
戦いをしていい新聞が出来し
た。あつたてつていいね、
平井

新聞の切り抜き
も手帳に付けておき
て楽しく読んでほしい
福良

最初は、東洋館に入
りて、その人等と交渉し、
今西の心をもつた。自他
共に、其の心を以てして、
其の心を以てして、

こんなに本がめいに新聞と
作ったのははじめたけど、
果しくつくることができて
よかった。ておる 阿部 秋月

最初は女子の学校
たのびのこ幼稚園
から入った。その後
女子の学校へ
入った。梅澤

[illegible][illegible]

今日、たくさんの方が来てくれて、
協力してくださる、おかげで、田が
とても楽しくなりました。
配り置も私も全てが最高の時間でした。
おかげさまでよい一日でした。

我々がなしたことの無い結果を
 我々がなしたことを彼等のせいにする
 我々がなしたことを彼等のせいにする
 我々がなしたことを彼等のせいにする
 我々がなしたことを彼等のせいにする



生活協同組合コープみらい東京都本部

協力新聞社名	子ども参加人数	集まった回数
東京新聞	8	3

訪問施設やお話を聞いた方	完成した新聞の広報や報告方法
◆「新聞記者に学ぶジャーナリズム学習会」 講師：東京新聞編集局読者部部长 柏崎智子さん ◆「東京大空襲・戦災資料センター見学・取材」 会場：東京大空襲・戦災資料センター 講師：学芸員 比江島大和さん / 空襲体験者講話 西尾静子さん 東京新聞編集局読者部部长 柏崎智子さん	◆「新聞制作・発表会」 会場：中日新聞東京本社 講師：東京新聞編集局読者部 部長 柏崎智子さん 整理部 吉田さん

参加者の感想

- ・東京大空襲の資料館で西尾さんの話を聞き、戦争が常に死と隣り合わせだと痛感しました。このつらい経験を単なる歴史にせず、未来へ伝えていきたいです。
- ・自分の住む東京で、広島・長崎に次ぐ規模の空襲があったと知り衝撃を受けました。この悲劇を繰り返さないよう、後世に伝え続けることが大切だと感じました。



エピソードなど

〔プログラム〕

1日目：コーププラザ秋葉原

- ・新聞の歴史の講義、取材の礼儀や記事の構成の学習
- ・1枚の新聞を作り上げるために、子どもたちで（メイン記事、サブ記事、年表作成、写真）など分担

2日目：東京大空襲・戦災資料センターで学習・取材

- ・学芸員によるガイダンス、展示品の見学
- ・戦争経験者からの空襲体験講話、取材

3日目：中日新聞東京本社

- ・2日目以降の取材原稿をもとに、役割に分かれて記者と記事の推敲
- ・「子ども平和新聞」の実際のレイアウトや見出しを含め構成を練り上げ無事完成



戦争の悲惨さ 伝えたい



子どもも記者 空襲体験者を取材

■アジア・太平洋戦争の経緯■

- 1937年7月 日中戦争
- 38年12月 日本軍が中国・重慶を空襲
- 39年9月 第2次世界大戦開始
- 41年12月 日本軍が真珠湾攻撃。米英に宣戦布告
- 42年4月 米軍が日本本土を初空襲
- 6月 ミッドウェー海戦で日本敗北
- 43年10月 日本で学徒出陣が始まる
- 44年8月 学徒勤労令、女子挺身勤労令。学童集団疎開を開始
- 10月 日本軍が神風特別攻撃隊による特攻作戦を開始
- 45年3月10日 東京大空襲(死者10万人)
- 26日 米軍が沖縄(慶良間列島)上陸(沖縄戦開始)
- 8月6日 米軍が広島に原子爆弾投下
- 9日 米軍が長崎に原子爆弾投下
- 15日 玉音放送(終戦)

①東京大空襲の体験者として、
れた西尾静子さん(東京大空襲
・戦災資料センターで
②東京大空襲・戦災資料センタ
ーに展示されていた焼夷(しょう
う)弾の模型

私たちは記者になって80年前の東京大空襲について伝えるため、8月5、6、20日の3日間、新聞記者から新聞の歴史や取材の視点について学びました。東京大空襲・戦災資料センター(東京都江東区)では、学芸員の比江島大和さんと空襲体験者の西尾静子さんから話を聞き、展示も見学。それらをもとにこの新聞を作りました。

(石田陽夕、加藤芽、小林恵菜、佐藤凛、鈴木遥妃、橋本湊、原田翔、吉田小春)

1945年3月10日の東京大空襲。西尾静子さん(86)は東京都東村山市に、当時幼稚園児だった。空襲の前日、家には、西尾さん、母、小児科医の父、看護婦4人、お手伝いさん、大好きないとこのお姉さんの計9人がいた。

その日の夜、父の指示で自宅の防空壕(こうごう)から小学校に避難。父は任務のため家族と一緒にはいられず、行ってしまった。先に到着した看護婦2人といとこ以外は小学校に入らず、西尾さんらは高校に避難することになった。

無差別爆撃で10万人が死亡

東京大空襲とは

アジア・太平洋戦争中、東京は1944年11月24日から45年8月まで空襲を受けました。東京大空襲とは、3月10日に下町にあった米軍による無差別爆撃です。午前0時過ぎから2時37分の2時間半ほどで死者が約10万人、負傷者が約4万人に上りました。空襲で命を失った人々の多くは非戦闘員である女性や子ども、高齢者などでした。

た。空襲は、最初は軍用機のエンジンを作る中島飛行機などの研究所が第一目標でしたが、東京のような本造家屋の密集した住宅街や商業地域なども目標となりました。

これは東京を破壊させ戦意の低下や日本の戦争遂行能力を低下させることを目的とした戦略でした。米軍はB29や焼夷弾を開発して当初から日本の国民に警告していた市街地への大規模空襲へと作戦を移していきました。

高校では、かび臭くて水のような水たまりに母が足を漬け、西尾さんはおんぶしてもらっていた。煙で意識を失いかけて、外からは助けを求める声が響いたが、炎が入ってくるため誰も扉を開けられなかった。

やがて静寂が訪れ外に出ると、西尾さんは「月の世に米ちやっんだ」と思

った。何もなくなった世界にショックを受けながら自宅を探し、父と合流。父はぼろぼろだったが、娘の姿を見ると号泣しポケットから熱いミカンを出して娘の手の上にのせてくれた。

周りには死体があふれ、小学校では約200人が命を落とした。その中にはい

とこや看護婦もいた。西尾さんは「不穏で不安な時代だった」と当時を振り返る。「忘れなくて、絶対に平和を引っ張らなきゃ、一生懸命勉強したってなんにもなりません。これだけは覚えておいてほしい」と優しく語った。

東京新聞

◆中日新聞東京本社
東京都千代田区千代田二丁目1番4号
〒100-8505 電話 03-5571-2211

2025年(令和7年)
8月20日(水)

号外

ためし読み・購読のお申し込みは
0120-026-999

ネットでも
ニュース

東京新聞
東京中日スポーツ

検索

★大刷り [カラーあり] 正常終了! (エラー0件)
東京本社 縮小率: 69.00% 端名: TLAYC077

2024/3/20 テスト整理部7面 張り出し号外

東京新聞

8月20日 (水) 付 コープみらい子ども記者のみなさんようこそ

特別号外

西尾静子さんと、新聞づくりに参加したメンバー
東京都江東区の東京大空襲・戦災資料センターで



西尾さん、貴重なお話

ありがとうございます。

当たり前じゃない平和の大切さ 石田陽夕さん

たった5分の差で命が助かったり、死んだりするなんて、戦争はおそろしいなと思いました。6歳で空襲を体験し、大切な人を失ったことは、ものすごく悲しかったと思います。

この話を通して、今自分が安全に暮らせていることは当たり前じゃないと気付いて、今も、これから戦後であり続けたいといけないと再確認しました。

また、平和の大切さをあらためて考えられました。戦争の体験者がいなくなっていく中で、すごくいい経験になりました。

無差別に襲う恐ろしさを実感 加藤芽さん

西尾さんのお話の中で特に印象に残った場面が二つあります。一つ目は看護婦さんと大好きなところが帰ってこない場面です。もし自分が西尾さんだったらと思うと、胸が締め付けられる思いです。空襲は、何の罪もない人を無差別に襲うとても恐ろしいものだということを実感しました。

二つ目は空襲後の街を歩く場面です。当時の様子が詳しくわかり、空襲の悲惨さを痛感しました。戦争を体験した方が少なくなっているこの時代に、このような機会があって本当に良かったです。ずっと心に刻んで生きていきたいです。

歴史にせず未来につなげたい 小林恵美さん

東京大空襲の資料館で西尾静子さんからお話を伺い、戦争とは常に死と隣り合わせなのだなと思われました。西尾さんは3月10日で6歳になるところでしたが、逃げる時のちょっとしたことで家族の中で生死が分かれてしまうなど奇跡がいくつも積み重なって生き延びることができたのだと思いました。

西尾さんは何十年もかけて立ち直れたと思ったものの、ウクライナの戦争報道を見て足が震えてしまったそうです。私は、このようなつらい経験を単なる歴史にせず、未来につなげるため伝えていきたいです。

戦争は生活壊し心を傷つける 佐藤康さん

西尾さんの話を聞いて知ったことは、戦争は人々の生活を一変させ心に大きな傷を与えてしまうことです。水たまりがあるカビ臭い防空壕(ごう)に逃げこみ、外では人が断末魔の声をあげて亡くなっていく場面が印象に残りました。西尾さんは小学校の先生にケアしていただき精神が回復したと聞き、人は頼れる人がいると立ち直ると学びました。

東京が地獄絵図と化した写真を見て、戦争は日々の生活を壊し、自分自身の大切なものを失い、自分の心に大きな傷を与えることを知りました。戦争をやってはいけないと学びました。

つらい経験聞き多くを学んだ 鈴木遥紀さん

空襲経験者の人に話を聞けてよかった。もう話を聞ける機会が少なくなっているから、話を聞いてそのことを周りにも伝えたいと思った。

一番に残った話は、道に死体の山があったということ。そのまま放置されているのが悲しかった。あと空襲のことを周りに伝えていなかったようで、60歳の時に話した。でもそれまでは周りに話していなかったそうです。

いろいろと空襲のことについて教えていただいてうれしかった。でもつらい話だから悲しかった。

悲しい体験 次世代に伝えたい 橋本湊さん

学校で新聞作りの宿題が出たことがきっかけで、このプロジェクトに参加しました。私は戦争の後に生まれ、教科書やSNSで戦争について知る機会はありませんでしたが、実際に体験した話は今回初めて聞きました。中でも一番印象に残った話は、先に逃げたはずのいとこと看護婦が、逃げた先の小学校で蒸し焼きにされていた話でした。

なんてひどくて悲しい話なんだと思いました。私は今回の経験を生かし、この話を今度は私が次の世代に伝えて、戦争をしないそんな世界をつくっていきたい。そう思いました。

かつて東京で… もっと知るべき 原田翔さん

僕は、広島原爆については資料を読んだり、広島に行ってみたりしていました。戦争についてはそれなりに知っているつもりでしたが、今回、広島、長崎と並ぶ被害となる大空襲が、僕の住んでいる東京であったのを知りました。

空襲を体験した西尾静子さんの話で、防空壕から出ようとしても中に入らなかった人の死体で出られなかったと知り、複雑な気分になりました。ほかに東京大空襲・戦災資料センター学芸員の比江島大和さんの話も聞き、もっと僕は東京大空襲について知るべきだと思いました。

子ども巻き込む凄惨さに憤り 吉田小春さん

祖父から話を少し聞いたことがあり、今回、戦争についてきちんと知ることができ、と楽しみでした。

西尾さんの話を聞き、6歳だった子どもが空襲に巻き込まれたことに憤りを感じました。死体の山でドアが開かなかった話も、空襲の凄惨(せいさん)さを表していました。また、学校で「神国日本」や「日本は神の国」などと書かせ、戦争を正当化するようなゆがんだ教育をしていたことに驚きました。

戦争は誰にも利益がないと学びました。くりかえされないよう私たちがこの出来事を後世に伝え続けることが大切だと思いました。

東京大空襲 命の証言を取材して

【画像重畳】
【画像修正】
【ブロック字約素材抜け】
【書き直し記事】

東都生活協同組合

協力新聞社名	子ども参加人数	集まった回数
朝日新聞社 東京本社広報・ブランド推進部	5	4

訪問施設やお話を聞いた方	完成した新聞の広報や報告方法
・東都生協平和のつどいへの参加 ・東友会の方へ取材記事 (※東友会：東京都原爆被害者協議会) ・ピースアクションinヒロシマへ参加(1名)	・子ども平和新聞発表会(10月5日)実施 ・東都生協機関誌MOGMOGにて特集 ・東都生協ホームページにて開催報告 ・東都生協アプリの「ルーム」にて期間限定で新聞紹介 ・地域の平和活動時に新聞を配布

参加者の感想

- ・戦争はみんなを悲しませる、マイナスになってもプラスになることは決してないと思います。
- ・取材を通して戦争の辛さ、核兵器の恐ろしさを知りました。この夏に学んだ色々なことは忘れないと思います。
- ・今、戦争がおこっている国の人の気持ちがよくわかりました。

保護者の感想

- ・難しい課題に向かって一生懸命自分で調べ、考え、そしてこの新聞を通して娘の成長をぐんと感じました。大変だったと思うけれどすごくいい経験になったと思います。
- ・以前、広島に家族で訪問をしたこともありましたが、その時は家族で話をするだけでした。今回、同年代のお友達と一緒に学んだことが良かったと感じています。

エピソードなど

- ・子ども記者たちが平和について考える機会になり、平和の継承の一步となりました。
- ・朝日新聞に掲載されました。

被爆80年、語りつぐ平和へ



戦後80年の今年、各地で「子ども平和新聞プロジェクト」が展開され、東都生協(本部・東京都多摩市)も参加した。都内の児童5人が「子ども記者」として活動。朝日新聞社の社員から新聞について学んだり、被爆者にインタビューしたりして、「記事」を書いた。

核兵器の影響 何十年も 大野 輝貴
原爆が投下された時の光景を想像できませんか。
隣の家の子どもと自宅までミサイルをしていった家島昌志さん(83)によると、家中のガツガツが吹き飛び、屋根もめくれあがった。家島さんの体も吹き飛ばされたが、幸いケガはなかった。でも、母親はガッパが刺さって体内は破片だらけになったという。
苦しみは被爆直後には止まらない。原爆被害を免れたと元気に暮らしていた父親は、被爆から24年後にガンを発症してあつという間に亡くなった。家島さん自身も原爆投下後72年もたつてガンを発症し、何十年も影響が残る核兵器の怖さを感じ知された。まわりには、結婚相手の親族に受け継がれるな、ひどい差別を受けた人もいたという。



核兵器廃絶新聞

10月5日
日曜日

発行
東都生活協同組合
「子ども平和新聞
プロジェクト」

編集協力
朝日新聞社
ブランド企画部



子どもたちがずっと笑顔でくらす世界を願って描いたイラスト

「フモア原爆」を語りつぐ 久崎 泰誠
7月12日、世田谷区の北沢タウンホールで第21回「東都生協 平和のつどい」があり、参加した。終了後、東友会代表理事で被爆者の家島さんと事務局長の村田未知子さん(74)が、私たち子ども記者5人のインタビューに答えてくれた。
平和を求める活動のシンボルが鶴であるのはなぜか。9歳で被爆したあつは12歳で



(おおの・こうき
10歳 小平市立小平
第十三小学校4年)

亡くなった佐々木禎子さんは、薬を包み紙で鶴を折り、折った。早く治りますように。千羽鶴など鶴には、健康や平和への切実な願いが込められていたからだという。
戦争中の食糧の不足。「おこがが軍隊に捕まされ、家にはなかった。庭にモヤガチャをうって食べたのを食べるか、三越デパートで配給された「コメ三粒」をい」なを食べていた。
具体的な言葉から、本を読んだり説明を聞いただけでは分からないことが分かった。家島さんは幼いころに被爆して、当時のことはあまりおぼえていないし、村田さんは被爆していない。次に話を聞く機会があれば当時のことを話してほしいと、二人は聞きたいと思った。
戦争に関する本を読んだり、平和記念展や資料館、新宿区でシベリア抑留者の話を聞いたりしたことはあった。被爆者に質問したの



(きゅうさき・たい
せい 10歳 豊島区
立白小学校4年)

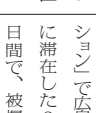
は初めて、自分の知らないことを知ることができた。
8月4日から8月6日に「ピースブック」で広島へ行きます。自分の目と耳でしっかりと確かめてほしいと思います。
現地ヒロシマからの報告
「ピースブック」で広島に滞在した3日間、被爆者を始めとするたくさんのかたから話を聞き、原爆被害のことを学んできました。原爆トムと平和公園の中の像や記念碑を見学したり、広島平和記念資料館と本川小学校(今足をは運んだりしました)。
広島平和記念資料館では、真黒な中身のお弁当箱と佐々木禎子さんが健康と平和を願って作った折り鶴の箱に残っています。真黒なお弁当箱は、建物疎開の作業中に被爆して壊れた折り鶴(おひめん・



平和のつどいで学んだこと 鈴木 こはる
私は原爆のつどいやノール平和館のことを知りませんでした。子ども平和新聞の記者になったのは、夏に広島に行つて原爆のことを調べようと思ったからです。
「平和のつどい」に参加。終了後、私たち「子ども記者」5人は、家島さんと村田さんにインタビューしました。家島さんは

被爆者、村田さんは被爆はしていませんが、東友会の事務局員で被爆者の相談にのっています。
二人は「東京にも被爆したかたはたくさんいますか」「私たちは新聞をつくるほかに何ができますか」と尋ねました。二つ目の質問に対する答えは「東京にいた被爆者は多い時で二万人以上。その後、多くのかたがなくなり、今は3千人ちょっと」。広島長崎、福岡の次に多いのが東京で、進学や就職、差別から逃れて多くの人が来たからです。二つ目の質問には「原爆について人に聞いたり、本で調べたり、知識を深めたりすること」を答えてくれました。
被爆者手帳の語、被爆者なのに認めてもらえない人がいたり、家族のことを考えて申請しない人もいたことを知り、かなしくなりました。黒い雨は、とてもかわいというところもありました。

8月4日から8月6日に「ピースブック」で広島へ行きます。自分の目と耳でしっかりと確かめてほしいと思います。
現地ヒロシマからの報告
「ピースブック」で広島に滞在した3日間、被爆者を始めとするたくさんのかたから話を聞き、原爆被害のことを学んできました。原爆トムと平和公園の中の像や記念碑を見学したり、広島平和記念資料館と本川小学校(今足をは運んだりしました)。
広島平和記念資料館では、真黒な中身のお弁当箱と佐々木禎子さんが健康と平和を願って作った折り鶴の箱に残っています。真黒なお弁当箱は、建物疎開の作業中に被爆して壊れた折り鶴(おひめん・

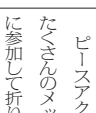


(きゅうさき・たい
せい 10歳 豊島区
立白小学校4年)

8月4日から8月6日に「ピースブック」で広島へ行きます。自分の目と耳でしっかりと確かめてほしいと思います。
現地ヒロシマからの報告
「ピースブック」で広島に滞在した3日間、被爆者を始めとするたくさんのかたから話を聞き、原爆被害のことを学んできました。原爆トムと平和公園の中の像や記念碑を見学したり、広島平和記念資料館と本川小学校(今足をは運んだりしました)。
広島平和記念資料館では、真黒な中身のお弁当箱と佐々木禎子さんが健康と平和を願って作った折り鶴の箱に残っています。真黒なお弁当箱は、建物疎開の作業中に被爆して壊れた折り鶴(おひめん・

被爆者、村田さんは被爆はしていませんが、東友会の事務局員で被爆者の相談にのっています。
二人は「東京にも被爆したかたはたくさんいますか」「私たちは新聞をつくるほかに何ができますか」と尋ねました。二つ目の質問に対する答えは「東京にいた被爆者は多い時で二万人以上。その後、多くのかたがなくなり、今は3千人ちょっと」。広島長崎、福岡の次に多いのが東京で、進学や就職、差別から逃れて多くの人が来たからです。二つ目の質問には「原爆について人に聞いたり、本で調べたり、知識を深めたりすること」を答えてくれました。
被爆者手帳の語、被爆者なのに認めてもらえない人がいたり、家族のことを考えて申請しない人もいたことを知り、かなしくなりました。黒い雨は、とてもかわいというところもありました。

8月4日から8月6日に「ピースブック」で広島へ行きます。自分の目と耳でしっかりと確かめてほしいと思います。
現地ヒロシマからの報告
「ピースブック」で広島に滞在した3日間、被爆者を始めとするたくさんのかたから話を聞き、原爆被害のことを学んできました。原爆トムと平和公園の中の像や記念碑を見学したり、広島平和記念資料館と本川小学校(今足をは運んだりしました)。
広島平和記念資料館では、真黒な中身のお弁当箱と佐々木禎子さんが健康と平和を願って作った折り鶴の箱に残っています。真黒なお弁当箱は、建物疎開の作業中に被爆して壊れた折り鶴(おひめん・



(きゅうさき・たい
せい 10歳 豊島区
立白小学校4年)

8月4日から8月6日に「ピースブック」で広島へ行きます。自分の目と耳でしっかりと確かめてほしいと思います。
現地ヒロシマからの報告
「ピースブック」で広島に滞在した3日間、被爆者を始めとするたくさんのかたから話を聞き、原爆被害のことを学んできました。原爆トムと平和公園の中の像や記念碑を見学したり、広島平和記念資料館と本川小学校(今足をは運んだりしました)。
広島平和記念資料館では、真黒な中身のお弁当箱と佐々木禎子さんが健康と平和を願って作った折り鶴の箱に残っています。真黒なお弁当箱は、建物疎開の作業中に被爆して壊れた折り鶴(おひめん・

被爆者、村田さんは被爆はしていませんが、東友会の事務局員で被爆者の相談にのっています。
二人は「東京にも被爆したかたはたくさんいますか」「私たちは新聞をつくるほかに何ができますか」と尋ねました。二つ目の質問に対する答えは「東京にいた被爆者は多い時で二万人以上。その後、多くのかたがなくなり、今は3千人ちょっと」。広島長崎、福岡の次に多いのが東京で、進学や就職、差別から逃れて多くの人が来たからです。二つ目の質問には「原爆について人に聞いたり、本で調べたり、知識を深めたりすること」を答えてくれました。
被爆者手帳の語、被爆者なのに認めてもらえない人がいたり、家族のことを考えて申請しない人もいたことを知り、かなしくなりました。黒い雨は、とてもかわいというところもありました。

※東友会：東京在住の被爆者で1958年に結成。60年以上にわたって励ましいあいながら、被爆者と家族のために活動し、東京都から委託を受けて被爆者の相談にのってきた。
おことわり 本紙面では、執筆にあつた「子ども記者」の小学4、5年生が習っていない漢字も多数、使用しています。読者の大半が大人であるため、大人が読みやすいようにとのねらいからです。あわせて、子どもが読みやすいように「ふりがな＝ルビ」付きにとも考えましたが、諸般の事情により、かないませんでした。タイトルは子ども記者が決めました。

ノーモア広島、ノーモア長崎

戦後80年の今年、各地で「子ども平和新聞プロジェクト」が展開され、東都生協(本部・東京都多摩市)も参加した。都内の児童5人が「子ども記者」として活動。朝日新聞社の社員から新聞について学んだり、被爆者にインタビューしたりして、「記事」を書いた。



第21回東都生協平和のついで「フोटスポット」(ノーベル平和賞授賞式に日本被団協が持参した横断幕の前)で、東友会代表理事の家島さん、事務局長村田さんと記念撮影

学んだことを生かし、伝えたい
長森春
祖父母は新潟県長岡市にいて、ぼくは毎年8月、長岡の大花火大会を見に行く。小学2年生の時、自由研究で長岡花火のことを調べた。大空襲の爆弾で命を落とした多くの犠牲者の慰霊のための花火だと知った。祖母の一番上のお兄ちゃん(86)が80年前の空襲を体験したと聞

き、戦争が身近なものに感じられた。もっと戦争のことを知りたいと思い、「子ども平和新聞」の記者に応募した。
ぼくたち「子ども記者」5人は、東友会*の会員で被爆者の家島昌志さん(83)と事務局長の村田未知子さん(74)にインタビューした。「日本原水爆被害者団体協議会(日本被団協)」が去年、ノーベル平和賞を受賞した時の気持ちを家島さんに尋ねた。家島さんは「うれしかった。戦争がなくなるようこれから運動を続ける」と答えてくれた。村田さんには被爆者の人数を尋ねた。「被爆者手帳をもっている人は、広島と長崎をあわせて、いちば

多い時で37万人くらいいた。けれども被爆者だと知られると差別されたり、「子ども記者」の皆さまに話を聞かされた。村田さんは被爆はしていません。でも、長年にわたって、たくさんの方の被爆者のかたの話を聞いてきました。
「子ども記者」の皆さま

原爆、自らもつと学ぼう
中川 桃歌
被爆者で東友会*会員の家島さんと会って被爆者の相談にのっている事務局長の村田さんが話をしてくれました。家島さんは3歳の時に広島で被爆しました。3歳だったので、「覚えていないことはあまりない」けれども、友達と虫採りをしてたところ、山が真っ赤に何日も焼けていたのをうっすらと覚えています。
村田さんは被爆はしていません。でも、長年にわたって、たくさんの方の被爆者のかたの話を聞いてきました。
「子ども記者」の皆さま

でもに影響が出たりする」といった偏見にさらされたりすることを心配して、手帳をもらわない人もいます」と教えてくれた。今回の取り組みで学んだことを生かし、戦争がなくなるようにできることを考え、身近な人に伝えていきたい。

（ながもり・はる
10歳 目黒区立東根小学校4年）

親子の手と手、つなぎ続けて
白銀 泰
2025年の夏、戦争のない日本で海外からの観光客「インバウンド」の人たちを目にした日はありません。目を凝らすと、洋の東西を問わず変わらぬ姿が見えてきます。親子でつなぐ手と手、手と手です。さかのぼること80年前。この国はもとより世界中の国々で、数えきれない手と手が戦禍によって断ち切られました。ウクライナ、ガザ……。今も、戦争や紛争で悲しみにくれる親子、家族は絶えません。慈しみ慈しまれるもの同士が、安心して手と手をつなぎ続けることができる世界に。当事者として考え、行動していきましょ。

（なかがわ・ももか
10歳 渋谷区立西原小学校4年）

核兵器廃絶新聞

10月5日
日曜日

発行
東都生活協同組合
「子ども平和新聞
プロジェクト」

編集協力
朝日新聞社
ブランド企画部

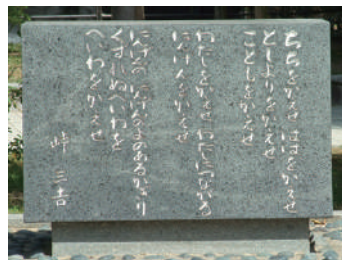


いてきました。「被爆したことを誰にも言えずに困っていた人もいた」と村田さん。
原爆や戦争について私も話を聞くだけでなく、自らもつと学んで、友だちに伝えていきたいです。
（なかがわ・ももか
10歳 渋谷区立西原小学校4年）



峠三吉

*峠三吉の詩集「原爆詩集」(昭和26年刊)の「序」として書かれた詩。核兵器廃絶運動の象徴とも言われる。



峠三吉の詩碑

※東友会：東京在住の被爆者で1958年に結成。60年以上にわたって励ましながら、被爆者と家族のために活動し、東京都から委託を受けて被爆者の相談にのってきた。
おことわり 本紙面では、執筆にあたった「子ども記者」の小学4、5年生が習っていない漢字も多数、使用しています。読者の大半が大人であるため、大人が読みやすいようにとのねらいからです。あわせて、子どもが読みやすいように「ふりがな＝ルビ」付きにとも考えましたが、諸般の事情により、かないませんでした。タイトルは子ども記者が決めました。

生活協同組合コープながの

協力新聞社名	子ども参加人数	集まった回数
長野市民新聞	6	4

訪問施設やお話を聞いた方	完成した新聞の広報や報告方法
- 松代大本営象山地下壕 - 地下壕ガイドは組合員理事が担当	- コープデリグループのサステナビリティサイトにて全文公開 - 店舗：コープ長野稲里店、安曇野豊科店に設置 - イベント展示：9/27コープながのフェスタ 10/5長野県協同組合フェスティバル - 広報誌Socia、コピス+ブロックニュースでの取り組み紹介

参加者の感想

- 地下壕に入ってみたら、とても大きくて、工事に使われたダイナマイトの威力がすごかったんだろうと思いました。危険な工事の様子を、新聞を読む人に伝えたいです。
- 取材で見たこと、学んだこと、感じたことを、読むみんながわかりやすいようにまとめるのが大変でした。
- 新聞を読んだ人が、松代大本営に行ってみよう、と思ってくれたらいいなと思います。



保護者の感想

- 子どもはこれまで、戦争や平和について考えるという経験がありませんでしたが、このプロジェクトをきっかけに、図書館で戦争についての本を手取るようになるなど変化がありました。
- 記者の方にサポートしていただいたおかげで、スムーズに記事が作成でき、最後までしっかりと記事を書き上げていました。新聞にも興味がわいたようで、家でも親が新聞を読んでいると、覗き込んだりするようになりました。
- 松代大本営は長野市にある戦跡ですが、県内でもあまり知られていない地域があるようです。私は子どもの頃に学校の企画で見学をしましたが、子どもの学校では機会がないようなので、今回学ぶ経験ができて良かったと思います。

エピソードなど

- すべての回を取材し新聞に掲載していただき、長野市内から反響がありました。具体的には長野県立図書館から「完成した平和新聞を郷土資料として保管したい」との申し出があったほか、長野市ボランティアセンター発行の「ボランティアかわらばん」からも取材申し込みがあり、同紙にてプロジェクトをご紹介いただきました。
- 「子ども記者」として新聞づくりを意識したことで、お子さんたちはとても積極的に学んでいただけたと思います。質問などもたくさん出され、ワークショップでの取材をもとに、夏休みの課題で松代大本営をテーマとした研究に取り組んだ方もいました。



コープながの子ども平和新聞アロジエウムは、県内の小中学生たちが松代大本営地下壕（長野市）を見学。知ったこと、感じたことを新聞にまとめ、戦争や平和について考えました。



松代平和新聞 〜戦後六十年〜

平阪 悠二 記者
春原 祐希 記者
寧 真飛 記者
藤澤 巧 記者
小林 栄輝 記者
小湊 明希 記者
山口 記者

松代大本営の 工事について

松代大本営の工事には、削岩機という道具が使われていた。削岩機は、穴をあけるために使われ、本体が五メートルほどある。その先にドリルがあり、ドリルの長さと同じくらい長い。その先端には、ドリルの先端にあるビットで穴をあける。ドリルの先端には、ドリルの先端にあるビットで穴をあける。ドリルの先端には、ドリルの先端にあるビットで穴をあける。



破っていた。また、落盤事故で死亡する人も多かった。削岩機やダイナマイトを駆使して、いたと考えられていたところもあり、日にとった数メートルの土は、大変な工事だった。

ひみつの工事計画

松代に大本営を造る主な理由は、三つある。一つ目は、東京から遠くない。二つ目は、山に囲まれた。三つ目は、地下にトンネルが通っている。削岩機やダイナマイトを使って、地下にトンネルを造る。削岩機やダイナマイトを使って、地下にトンネルを造る。

もやされた設計図

戦後、日本は、アメリカなどの連合国軍に占領された。日本の戦争の責任をとりなさいと、アメリカなどの連合国軍に占領された。日本の戦争の責任をとりなさいと、アメリカなどの連合国軍に占領された。

工事に都合が良かった。理由は、三つある。一つ目は、東京から遠くない。二つ目は、山に囲まれた。三つ目は、地下にトンネルが通っている。削岩機やダイナマイトを使って、地下にトンネルを造る。削岩機やダイナマイトを使って、地下にトンネルを造る。

けなかった。人達は、戦争の責任をとりなさいと、アメリカなどの連合国軍に占領された。日本の戦争の責任をとりなさいと、アメリカなどの連合国軍に占領された。日本の戦争の責任をとりなさいと、アメリカなどの連合国軍に占領された。

工事の爆風
危険な作業



本堂安山地下壕に
 行つた。松代大本
 營は朝鮮人が削岩
 機で穴を開け、ス
 の穴にガイナマイ
 人を入れて爆発さ
 せて送られた。
 工事は1944年
 秋から9月後の
 45年夏ごろまで
 続いたという。

松代大本營の眞実

松代大本營は一九四四年、四五年に作られて巨大な地下ごうのことである。全長約十き

の中で、象山地下
 ごうのみ見學がで
 きる。この地下ご
 うが作られた理由
 は、大本營、皇璽

トネルが松代大
ホッタル。この作業
で大変なのが、使
イナマイトを使っ
た作業。これは、
爆風の煙が毒を持
び、これほど危険な
もの。たゞ、この威
力は、硬い石を大
きく崩すほどで、
破損の時間は一、二
日と決まっていた。

この一連の作業
は大変なもので、
おたふもつと、由
全に主になつた。
のか、と、おは、老
まてゐる。

地下壕を掘る
作業は
とても危険

地下壕を掘る作業
には削岩機が使わ
れてゐた。削岩機
はかたい岩に穴を
あけるための道具
である。口ツトは
削岩機の先に取り

つける部品である
作業員が削岩機で
穴をあけその穴に
ダイナマイトをい
れ発破をする。と
ても危険な作業で
亡くなる人もいた
今も抜けなくなっ
たロツドは地下壕
の中に数本残され
ている。

工事に動員された朝鮮人

松代町に掘削された地下壕。その工事に従事した人達は約1万人。そのうち約7千人の朝鮮人が工事の主カだった。

青壮年の日本人男性は、多くが兵隊として中国大陸などへ動員されていた。そのため、当時の日本の植民

地だつた朝鮮から
連れてきた朝鮮人
や日本各地から集
めた朝鮮人が動員
されたのだ。
落盤事故や病氣
などが原因で亡く
なつた人も多い。
壕の入り口にある
追悼碑は、亡く
なつた朝鮮人を志
れないよう建てら
れた。

生活協同組合コープデリにいがた

協力新聞社名	子ども参加人数	集まった回数
新潟日報社	4	3

訪問施設やお話を聞いた方	完成した新聞の広報や報告方法
長岡戦災資料館の見学（長岡空襲を体験された池田ミヤ子さんから当時体験したお話も聞きました）	- エリアだより10月号、11月号（月1回発行：全組合員へ配付）と一緒に全組合員へ配付 - コープデリにいがたフェスタ（11/2）での展示 - その他各地域の企画での活用

参加者の感想

- 今回は長岡についてだったけど、新潟市や上越市など、違う地域のことも知りたいです。戦争については知らない人が多いと思うので、たくさんの人に知ってもらいたい活動をしたいです。
- 戦争のことを詳しく学ぶことができて、戦争は2度とおこしてはならないと思いました。
- 焼夷弾などを実際に見ることができて勉強になりました。戦争でたくさんの人が亡くなったということをまわりの人に伝えていきたいです。

保護者の感想

- 娘と一緒に参加したのですが、親子で戦争や平和について学んだり話したりすることが大切なんだということに改めて気がつきました。親としてもとても良い機会をいただいたと思います。
- とても有意義な企画でした。テーマが平和ということで、子ども達には難しいかと思いましたが、子ども達ひとりひとりがしっかりと受け止めている姿が、素晴らしいかったです。

エピソードなど

— エリアだより配布時に、新聞を読んだ感想を組合員から寄せていただきました。 —

- 平和を継承するプロジェクトの「子ども平和新聞」を読ませていただいて、当時の様子を知ることができました。長岡戦災資料館の写真を見て私も資料館を訪ねてみようと思いました。私たちが何不自由ない暮らしを送っている一方で、戦争は常に世界のどこかで起こっています。実際、いつ戦争に巻き込まれるかもわかりません。子どもたちの力で、大切な人の命、今の暮らしを守るために、戦争の事を知り、一人一人が平和を守り、戦争という無駄な過ちを繰り返さない事を願うばかりです。
- 平和新聞を拝見しました。長岡戦災資料館で多くの学びを得たことを周りの人達に伝えて、またこれからの生活に生かしてほしいです。活躍を期待しています。
- 「子ども平和新聞」、読ませていただきました。長岡空襲については、お恥ずかしながら60代の私でさえ知らなかった事柄がありました。若い心に深く刻まれたものがあると思います。是非、次世代に届けていただきたいと切に思いました。



2025年(令和 7年) 月 日(曜日)

「せめて水でも 飲ませてあげたかった」 長岡空襲 亡くなった姉への思い

に い が た 子 ど も 平 和 新 聞

発行所
学 年
名 前
横尾 初花



(池田 ミヤ子さん 92才)

7月20日に長岡戦災資料館に行きました。戦争体験者の池田ミヤ子さんは、国府学校時代の大変な生活のことや、家族や友達と体験した、長岡空襲のことを話してくれました。

池田さんは、長岡空襲について話してくれました。当時国民学校6年生でした。家で家族と話していました。急に警報が鳴りました。空襲警報に変わりました。父がたみまはいて、木更店の防空壕にみよせました。

姉がよんでいる声がしたので出てみると姉が無傷でたおれていました。父が姉にふんぞりかかてあげました。警察に姉の死を届けを出しに行きました。次の日の朝家にもどると姉にかけをぶとんがななな。ていきました。自分達で姉の火葬をしました。骨を近くにあげたなやにみよさんか背負いました。山をうつつつ越え親戚の家に着きました。「せめてあの時水でも飲ませてあげたか。た」

戦争中と今

学校の違い

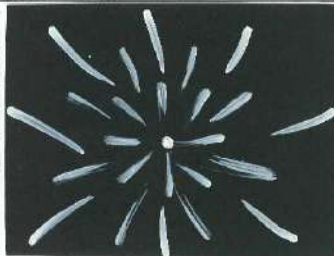
国民学校では、勉強をするのではなく、国民のために田畑を手伝っていました。池田さんの話では、大人は訓練や防空壕作りをしていました。そして、子供は田畑を手伝っていました。田植えははじです。でも田んぼにはじりぬぐいするため、入ると足がぬぐいけになりました。とても暑かったです。

白菊

平和への願い



(当時の生活の様子)



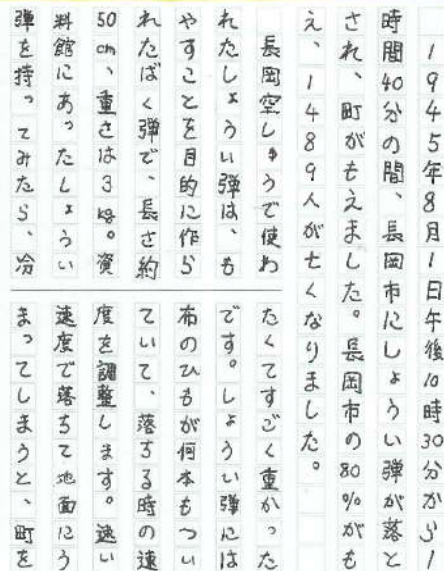
(白菊)

お母さんはなく、1度家に帰り、家でご飯を食べていました。子供のご飯は、米の少ないおかゆやお汁やでした。米、みそ、しょうゆ、ことうが少なめ。たそうです。毎日国民学校の家をこ住復していったのです。

初めて聞いた話や、知っていたけれどよく分かっていなかった話がありました。それを聞いて悲しくなったり、悔しくなったり。姉はされいと感じる人とは違い、感じる人達がいるということがあるなと思いました。戦争について考えるのは、大切だと私は思います。

にいがた
子ども平和新聞

4年
名前
よし田すず



写真説明:長岡市立資料館にあるしゅうりょう

お姉さんをおいて
にげなくてはいけなかった
池田さん

いいて
いけな
かた

お節さんへすおこさん
といっしょにいまして
午後10時36分に空しく
うけいほうが鳴って玄
關を出ると、B29が
落としていったしゅう
い弾で、家の周りには火
の海でした。お父さん
がほった約1mの穴（
ぼう空ごう）に、4才

に出たら、すみこさん
がたおれていて全然動
きませんでした。お母

た。お父さんはすか
さんには困るがふせで
すか。こさんをおいこ
みなでにげました。お
姉さんをおいこにげな
くてはいりなかつた池
田さんの気持ちをお考
えよ。辛くて悲しくて
なみなが出ました。

二度こやうではないけな
いと思いました。しよ
うい弾で家族がなくな
た人の悲しい気持ちを

感じました。これから
の1日を大切にすごし
ていきたいなと思いま
した。

2025年(令和7年)7月7日(曜日)

大人に代わって農作業

長岡戦災資料館 今と昔の暮らしの違い



写真説明: 昔の部屋を再現した長岡戦災資料館

にいがた
子ども平和新聞

発行者

学年 中学一年生
名前 小池 菜々音

長岡空襲が起きる前子ども達は、お友達と
今通っている生活とは全く違う暮らしを送
ていた。当時の子どもは、それを当たり前前
のように受け入れていた。
朝子どもは、国民学
校へ今の小学校へに登
校し、戦争に駆り出さ
れた大人たちの代わり
に、農作業を手伝って
過ごしていた。勉強は
ほとんどできなかった。
夜寝るときには、防
空疎幸と疎の上には置い
て、けりがもれないよ
う布で覆っていた。け
りがもれそうとうと疎
に見つかったら、さ
らに。

空襲から復興へ

当時あまり情報が
なく、情報源はラジオ
や新聞しかなかった。
また新聞の情報は、こ
から三日後のことが載
ており、詳しい情報は
得られていなかった。

私達は小学校に通い
勉強をする。夜は、敵
に怯えることなく安ん
じて眠ることができた。
今の子ども達とは、そ
ういう生活はとて受け
入れられないだろう。



写真説明: 空襲が降り下長岡の街のジオラマ。

八月一日午後十時三
十分長岡に焼夷弾が落
とされた。一時間四十
分の爆撃により長岡の
街は八十%が焼失し火
の海に。死者は千四百
八人に及んだ。
当時長岡駅も被害に
あつたが、長岡のトン
が一本となり、消火を
した。そのおかげで鉄
道に大きな被害がな
がたため、復興が速く進
んだ。
戦争でなくなられた
人たちのことを思い、

取材を終えて

多くのことを知ること
間違って、戦争や長
岡空襲のことについて

ができました。私達若
い世代が戦争を知り、
後の世代に受け継いで
いくことがとても大切



また長岡市が発展する
ことを願って、戦争が
終わった翌年の千九百
十六年八月一日に、長岡
市戦争復興祭が行われ
た。千九百四十七年から
は、戦争のため中止と
なっていた大花火大会
も復活した。
花火大会で上がる、
白菊には、犠牲者へ
の慰霊・復興・平和への
祈りが込められてい
る。この花火は、戦後
八十年経った今でも打
ち上がり続けている。
「恒久平和」の思い
は、今も長岡の下町に
受け継がれている。

だと思いました。

新潟日報社

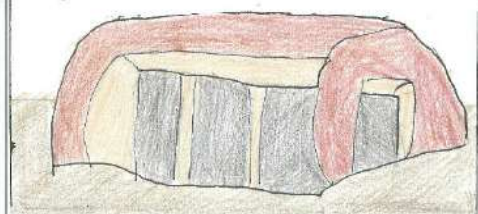
まもられなかった多くのいのち

長岡空襲と防空ごう



④にあなといつくられ 小さな防空ごう

⑤ 多人数がひなんできる大きい防空ごう



写真説明:

長岡空襲というでは、いのちをまもるための防空ごうでたくさんの方がなくなりました。なぞこのようなおきこえがきこえてきました。たのしみようか。

防空ごうというのは、につくられました。空襲ごうがあつたとき、防空ごうはやくにた。ばくけきやばく風から身をまもるために、長岡でもおきや家のあなでたくさん場所

でも長岡空襲いうでは、防空ごうはやくに立ちませんでした。なぞならばく風のしやういかにばくけきやばく風でこのけきではな

にいがた
子ども平和新聞

小池 萌々香

発行者

名 学 学
前 年 校

4年

戦争で変わったくらし

昔は、テレビやインターネットもなく、いろいろなことを知る

く家なひのたて物をもやすばくだんに変えられたからです。防空ごうににげた人たちは、入リロが焼かれにげられず、ちくちく死したり、焼け死んだりした。

たのでした。防空ごうはい、はいで入ることのできなかつた人の中には川を目ざしてにげて助かった人もいました。

加すきだ、たから、おかげやあじやはあまりすきではなかつた。と教えてくれました。おかげやあじやはかりの食いはさみしいごはんだったそうです。

ほかに変わったことかあります。子どもたちは学校に行。ても勉強をするのではなかつた。うさぎやうの身つたいをしていたそうです。夜は外に明かりがもれるとてきにみつか。てあふないので、へやは暗くします。このように変わ。つしま、た生活は、戦争が終わ。てもすいにもてにはもどりませんでした。



写真説明: 昔のへやをさいげんした長岡戦争資料館

取材を終えて 長岡戦争資料館に行。て、80年前に空襲うがあつたことを知りました。池

田ミヤ子さんが長岡空襲うのことを話してくれて戦争というのこれだけ悲しい心か

くるしくなることを知りました。

福井県民生活協同組合

協力新聞社名	子ども参加人数	集まった回数
福井新聞社	4	5

訪問施設やお話を聞いた方	完成した新聞の広報や報告方法
- 福井市郷土歴史博物館 学芸員 - 福井県平和祈念館 副館長	- ホームページ、福井県民生協SNSで公開 - 福井県民生協の組合員活動イベントで掲示 - 店内掲示

参加者の感想

- 貴重な体験ができた
- 自分で調べたことを新聞にまとめるのは、大変だったけど楽しかった。見出しやグラフを工夫して、わかりやすい新聞を心がけた。
- いまを生きるありがたみを感じつつ、戦争を未来に伝えることがたいせつ。

エピソードなど

- 福井県民生協では平和の取り組みをこれまでほとんど実施していませんが、子どもたちに貴重な機会を提供することができたのと、事務局側としても平和活動を考えるきっかけになりました。

福井県民生協
『がんばらにゃ』
2025年11月号で紹介

平和新聞

発行者
栗井
発行日
9月14日

空襲の被害

昭和20年7月19日	空襲が起つた。	空襲が起つた。	昭和20年7月19日
133機に襲われた。	から0時45分の間に81分間合計	空襲が起つた。	約9000発
空襲で福井県全体	この福井	空襲が起つた。	焼夷弾
が破壊された。	約84.8%	空襲が起つた。	被害
さらに焼夷弾は	84.8%	空襲が起つた。	被害
約9000発も	84.8%	空襲が起つた。	被害
著とされた。	84.8%	空襲が起つた。	被害
の日、福井は大	84.8%	空襲が起つた。	被害
きな被害を受け	84.8%	空襲が起つた。	被害
た。	84.8%	空襲が起つた。	被害

福井空襲
で亡くな
た方や、け
がを負った
方は、合計
で7995
人ものとして
も多くの方
が被害を受
けています。

亡	<	有	下	方	1	5	7	6	人
重	傷	亡	負	下	1	2	1	0	人
輕	傷	亡	負	下	5	2	0	9	人

合計 7 9 9 5 人

守る為に

空襲中の恐ろしい時
人々は防空壕に入り、
少しても自分や身の周
りの人を爆弾や焼夷弾
から守っていた。大日
本帝国軍の連隊の一つ
歩兵弘連隊も市民を守
る為に戦った。

遺族連合・大久保さんに聞く

これは、福井県遺族連
合の大久保さんが言っ
いたことです。戦争は美
化するものではない、辛
く悲しいできごとであ
る。世の中では外国で戦争が
起きています。戦争の残
ぎやくさやおなじさを
に刻んでほしい。そして
国民みずから平和とい
うものがありがたみを感じ
これからも争い
を起さな
うに。と深戦争
や空襲について
話っていた。

空襲の怖さ、悲しさや経験した
方への思いなど、知る事ができ
ました。現在の日本では戦争
はなく平和に暮らしているけ
ど、昔はきびしさでいっぱい
の世の中だったと思います。
今を生きるありがたみを感じ、
そしてこれからの未来は、自
分達が空襲や戦争の怖さや恐
ろしさ、思いや気持ちについて語
っていきないうです。



鯖江市の平和記念館の36連隊の展示



福井空襲で多くの人々が犠牲に

子ども 平和新聞
 発行 者 村 日
 発 行 三 行 日
 発 行 九 月 日

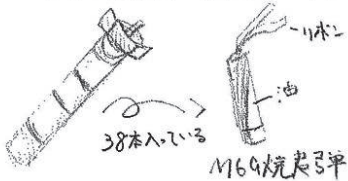
2万戸以上が火に

今から80年前、1945年7月19日23時24分から20日0時45分の間に福井で空襲が起きました。今の県庁を中心に空襲を受け、2万戸以上が燃え約1500人もの人が亡くなりました。B29から焼夷弾が約9000発落とされ、街は炎に襲われました。焼夷弾は燃えやすい油が入っており、火が広がるようになっていきます。当時は木造の建物だったので、短い間に広範囲を焼き尽くしました。

焼夷弾のしくみ

投下されると落下途中に小型の焼夷弾を複数ばらまき、着弾後に着火し燃焼します。

一度火がつくと高熱になり、消火が困難でした。



福井藩で活躍した人物



1845年に福井で生まれ、25才のときに福井藩の留學生



第1号としてアメリカのワシントン大学へ入学しました。26才のときに病死しました。成績優秀で、太田に大学草はゴールドキーを送りました。

松平春嶽の側近として活躍しました。15才のときに、自身の志を記した「啓略録」を書いた。25才のときに安政の本大獄で死罪になった。

何度でも立ち上がる

戦争から3年後の1948年6月28日午後4時13分、福井地震が起き、空襲からの復興途上だった福井を襲いました。死者は3700人以上、全壊した建物は約3万6000戸もありました。水害も発生しましたが、いろんな助けを貸りながら市民達の努力によって、不死鳥のように蘇り、復興を遂げました。なんと人口も空襲と地震が起きる前より多くなりました。今でも「ニクス通り」に「ニクスのマンホール」があるように、「不死鳥のまち・福井」として空襲などの被害を伝えていきます。

戦争の悲惨を次世代へ

福井県平和祈念館は鯖江郵便局の近くにある、鯖江歩兵第36連隊の跡地です。施設には軍装、装備等の遺品や訓練、出征の様子の写真などがあります。戦争で父親を失い子供を育てるために、母親が力仕事をしていた家庭もありました。家族が一体となって助け合い、励まし合って生活していたそうです。当時は食料がなく雑草やどろ水を食べていたなど、苦しい生活が続いたそうです。

編集後記

80年前に福井でも大きな空襲があり、多くの人々が犠牲になったことを知りました。その後の地震でもたくさんの被害を受けていたのに、諦めずにがんばって復興していったのはすごい事だと思いました。今平和に着目させているのは本当に幸せだと改めて実感しました。

こども平和新聞

発行者: 山形
発行日: 17.9月14日

被爆、戦後
80年



福井銀行本店

7.19の悲劇

1945年7月19日、福井空襲が起きた。約1500余りの人が亡くなり、23000軒が焼夷弾によって焼けた。焼夷弾は、全部で9000発、約1000トンが投下された。地上に残っていた人は、地下の防空壕に避難した。しかし、防空壕の中は、火事の煙が入ってきて息苦しくなり、辺りの熱がこもっているため、中で体調不良を訴える人もいた。市民たちは、日頃からバケツリレーの練習をしていたが、焼夷弾の火の勢いは止まらず、多くの人が亡くなった。防空頭巾や火たたきを使って消火しようと頑張る人もいたが、もうその時には、もう人の手におえる火事ではなくなっていた。

幕末に活躍した人たち

日下部 太郎

- ・福井藩で初めての留学生。
- ・留学先のアメリカで、素晴らしい成績を取りゴールドキーが贈られる。



橋本 左内

- ・当時の学校のやり方を変えた。
- ・「志を立てる」や「学問に励む」など、書かれた「啓発録」を出版する。



空襲前後の様子

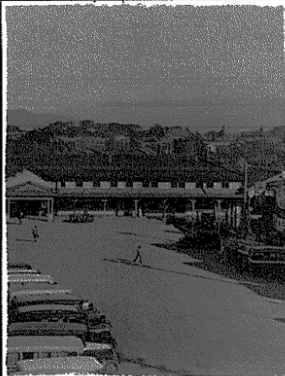
空襲前の福井は、

学校や郵便局、さらには親戚、鉄道も通っていて、現代に近い技術を持っていた。学校では、卒業証書ももらっていたそうだ。

空襲から3年がたつ、人々の生活も安定してきていた。しかし、そこで福井

地震が発生し、また1から町づくりを見直すことにした。例えば、道を広くして、車が通りやすく、火事が広

らないような工夫をした。結果、町は無事復興し、人口も、空襲、地震前よりも増えることになった。人々は、何度も復興する姿が、まるで死んだ後、灰から生きかえる「フェニックス」のようだと考え、「フェニックス通り」と名づけた。



空襲前の福井の様子

残された家族

一家の大黒柱である父親が戦争で亡くなり、残された家族はどうやって生活しようかと頭を抱えていた。

母親は、母子寮に子どもを預けたり、慣れない仕事をし、子どもを育てようとしている人もいた。そんな母親を見ていた子どもたちは、少しでも母親の苦勞を減らしたいと考え、長男は「新聞少年」、長女は「小さなお母さん」となった。父親がいなくても、家族は助け合い励まし合って生活した。



編集後記

たくさんの方からいろいろなことを教えてもらって、新しいことが知れました。この新聞に全て書ききれないのが悔しいです。新聞を作るのは大変だし、時間もかかるけど、終わったときの達成感や、自分の知ったことが他の多くの人に知ってもらえるのがとても嬉しかったです。読んでくれてありがとうございます！

八十年前福井で"起きた悲劇"

【空襲に参加した飛行機】

爆撃機	118機	
先導機	12機	
その他	3機	合計133機

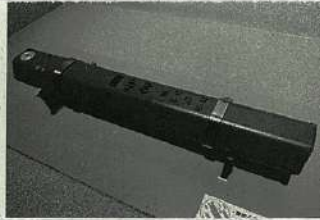
【爆弾を落とした時刻】
昭和20年(1945)7月19日
23時24分～20日0時45分
(81分間)

【福井の町の建物が破壊された割合】
84.8パーセント

【落とされた爆弾】
焼夷弾(しょうゐだん) 約9,000発

空襲で亡くなった人
1,576人
重傷を負った人
1,210人
軽傷を負った人
5,209人

皆せんは八十年前に福井で何か起きたか
知っていますか？ 1945年7月19日の夜中
に福井空襲が始まりました。23時24分～
20日0時45分までの81分間続きました。
しかし、81分間の間に焼夷弾が約9000発
落とされ、亡くなった人は1576人、重傷を負
った人は1210人、軽傷を負った人は5209人と



燒夷彈

とても多勢
の人数七な
り傷負し、
悲劇となり
ました。

平

平和新聞

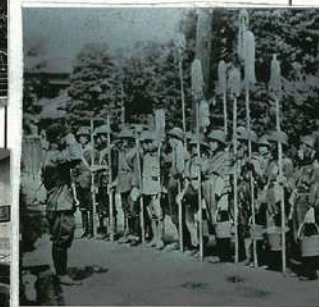
発行者
水口
発行日
9月14日

平和祈念館

平和祈念館は魚江
市米兵第36連隊の跡
地で嶺北の忠霊地境
内に建設された。



集められたお寺の鐘



空襲に備えての防火訓練

戦時中の人々はそのような様子
に備えて防火訓練をおこないまし
た。また、戦争の道具にするため
に、お寺の鐘が全国から集められ
ました。そして、少年や少女達は
学徒動員でそれかいなにかあり、た
くさんの親子かはなればなれにな
てしまわれました。

戦時中の人々

私は、戦後80
 年の現在をふ
 り返り、福井
 にもたくさん
 の被害が出て
 いることか
 分かり、心
 が痛みました。
 また、今の福井
 があるのは、人々
 があきらめず、
 復興させたか
 らだと思います。

感想

焼け野原とな、た福井

空襲により焼け野原となった福井。しかし、町の人々はおきらめが次々に町を再建し、町をも、て発展させていきました。けれども、空襲から二年後、福井地震が起きました。それでもめげずにまた、福井の町を復興せよしました。

生活協同組合コープぎふ

協力新聞社名	子ども参加人数	集まった回数
岐阜新聞社	6	1

訪問施設やお話を聞いた方	完成した新聞の広報や報告方法
• 岐阜市平和資料室に訪問 • 岐阜県原爆被害者の会 木戸季市様「被爆体験について」 • 岐阜市平和資料室友の会 魚次龍雄様「ぎふ空襲について」	• ホームページでの紹介 • 岐阜県連主催「被爆ピアノコンサート」にて展示 • 戦後被爆80年企画「映画上映会」にて展示（1月17日） • 機関紙DEKO3月号にて掲載予定

参加者の感想

- 木戸さんのお話された「自由に生きることの素晴らしさ」という言葉が特に心に残りました。今、自分が自由に生きていいることは当たり前ではなくとても素晴らしいことなのだと思います。
- 平和と戦争を題材に文章を書くことが初めてでしたが、自分の言葉で感じたこと、思ったことを書くことは自分のためになりました。
- 自分で文章を考えて、みんなで話し合って題を決めることが楽しかった。
- 実際に兵隊さんの飯ごうや水筒を見て、ずっと想像でしかなかった戦争の世界が身近に思えた。

エピソードなど

- 岐阜新聞に掲載されました



尊い命を大切に

子供たちが戦争について学ぶ
「コープぎふ子ども平和新聞」が
7月26日、岐阜市のハートフルスク
エア-Gであった。

長崎原爆で被爆した木戸季市さ
んと平和資料室友の会の魚次龍雄さ
んから話を聞きか兵器や岐阜空
襲について理解を深めた。

平和

25 25

新聞

人の命を軽くみていた日本
中学校1年 寒水希花



の命を使いすてのよう
に使った。そのため、
死者が多くなつたと思

私は、魚次さんからう。

太平洋戦争でのアメリカ
カと日本の兵士の命へもので、絶対に大切に
の考え方の違いの話を
聞いた。アメリカは、
計画を立てて乗組員の
命を大切にしていたそ
うだ。一方日本は、人

みんながつらい戦争



木戸さんは
5才のころ長
崎で原爆を経
験した。原爆
があつた日、爆
心地を通り
転がっている
焼けた死体
命をうはい

もし生き残
れてもつらい
経験をしな
ければいけ
ないと思



自由に生きるすばらしさ
岐阜市立西郷小学校6年早野天翔



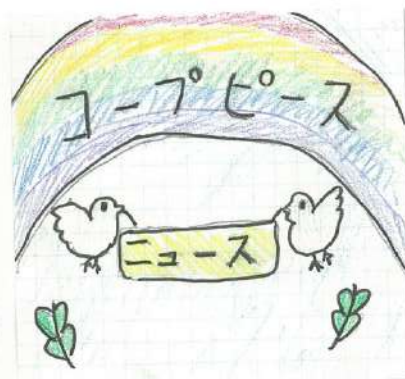
な世の中にするため
に兵器をなく
そうと語

僕は、長崎で被爆の
した木戸季市さんの
お話を聞いて心に残
たことは自由に生
るすばらしさです。
木戸さんは自由
きるすばらしさを
ているからこそ平和



平和な世界へ変えよう

～岐阜空襲教訓をのこす～



コープぎふの子ども平和新聞づくりが岐阜市のハートフルスケアで開かれた。小学5年から中学1年の6人が被爆者の体験談を聞いて、平和の大切さを学んだ。

市平和資料が
私には岐阜の
たうか。物さ
い。いたの。ば
の。う。な。思。て
た。は。な。思。て
居。なく。な。は
持。ち。主。が。る
持。ち。主。が。る



残された物たち
名瀬原寺立瀬沼第三小学校
6年 岩田 綺音

市平和資料が
私には岐阜の
たうか。物さ
い。いたの。ば
の。う。な。思。て
た。は。な。思。て
居。なく。な。は
持。ち。主。が。る
持。ち。主。が。る

室を見学し
ま。した。展
示。さ。れ。て。い
る。の。は。元
来。の。主。が。る
持。ち。主。が。る

和資料室友
の。会。の。魚。次
さん。から。本
土。空。襲。の。話
を。聞。いた。
日本。は。連。合
国。に。対。し。て



開戦から本土空襲へ
岐阜市立西部小学校6年 早野 翔哉

土空襲の話
さん。から。本
土。空。襲。の。話
を。聞。いた。
日本。は。連。合
国。に。対。し。て

宣戦布告し
太。平。洋。戦。争
が。始。ま。っ。た。
宣。戦。布。告。し
太。平。洋。戦。争
が。始。ま。っ。た。



核兵器の恐ろしさ
可児市立兼山小学校5年 久保田 翠
は、核兵器と
ん。で。日。本
島。が。ほ。ろ。び
人。が。真。っ。黒
に。なる。物。の
こ。し。い。物。の



核兵器の恐ろしさ
可児市立兼山小学校5年 久保田 翠

核兵器の恐ろしさ
可児市立兼山小学校5年 久保田 翠
は、核兵器と
ん。で。日。本
島。が。ほ。ろ。び
人。が。真。っ。黒
に。なる。物。の
こ。し。い。物。の

核兵器の恐ろしさ
可児市立兼山小学校5年 久保田 翠
は、核兵器と
ん。で。日。本
島。が。ほ。ろ。び
人。が。真。っ。黒
に。なる。物。の
こ。し。い。物。の

生活協同組合コープしが

協力新聞社名	子ども参加人数	集まった回数
京都新聞	4	3

訪問施設やお話を聞いた方	完成した新聞の広報や報告方法
滋賀県平和祈念館、滋賀県平和祈念館ボランティア 戦時食再現グループ	- コープしがのホームページ - コープしが公式Instagram、Facebookにて開催報告 - 組合員活動の中でも掲示を行います。

参加者の感想

- 戦時食や戦争がもう二度と起きてほしくない、平和な日常、未来でいてほしい。これ以上死者が出てほしくないと思った。
- 2日目に平和祈念館で実際の兵隊の持ち物に触らせてもらいました。初めてのことで、慣れないことも多かったけれどすごく楽しかったです。

エピソードなど

- 毎年実施している県内戦争遺跡巡りにてお世話になっているつながりで、滋賀県平和祈念館様にご協力いただきました。滋賀県平和祈念館様からの提案もあり、ボランティア活動をされている戦時食ボランティア様に当時の戦時食の再現と試食を依頼しました。子どもたちにも伝わり、感じてもらいやすい「食」を通して戦争を考えてほしいというところをねらいとしていました。実際に子どもたちが感じ取ることは多く、記事にもしっかり反映されていました。
- 2月には滋賀県平和祈念館様にも作成した新聞を掲示いただけることになっています。

市民生活協同組合ならコープ

協力新聞社名	子ども参加人数	集まった回数
にじのはし（ならコープ）	7	1

訪問施設やお話を聞いた方	完成した新聞の広報や報告方法
6/14、奈良教育大にある戦跡巡り - 訪問施設：奈良教育大学構内の戦争遺跡 - お話を聞いた方：Peace Now!奈良 実行委員（大学生9人） Peace Now!奈良とは…奈良の3大学（奈良教育大学、奈良女子大学、奈良県立大学）が主体的に平和について何かしようと活動しています。今年で10年目を迎えました。	•ならコープの配達をご利用の全組合員に配布 •コープの店舗（10店舗）

参加者の感想

【参加者の感想】は新聞の「編集後記」に掲載

- 戦争後の取材で学んだことを生かし、平和が次の時代に続くようにと思いました。
- 奈良にも戦争跡があることを知りおどろいた。
- 戦争をしたって誰も幸せになれない、やっぱり戦争は二度と繰り返しちゃいけないとおもいました。
- 戦争のない世界にしたいと思いました。

エピソードなど

- Peace Now! 奈良の学生も子どもに向けて説明するのは初めてで、子どもだけではなく学生にとっても良い経験になった。
- 小学生から中学生の子どもたちが、大学の敷地内を60分かけて説明を聞き見学しました。雨の中でしたが、大学生の話をしっかり聞き入っていました。
- 戦争時代の厳しい言葉がたくさんありましたが、きちんと丁寧に記事を書いてくれました。



せいきょう子ども新聞

にじのはし

ならコープ 50th
ありがとう50年

〒630-8503 奈良市恋の窪一丁目2番2号

発行責任者 福西 啓次 印刷 株式会社 シーズクリエイト



今年は第二次世界大戦が
終わって80年。奈良教育大学があるところ
は、昔「奈良れん隊」という軍隊の駐屯地
(軍隊がとどまるところ)でした。そして
その時使われていた建物が今も残ってい
ます。「平和」「戦争」をテーマに活動
している大学生の「Peace Now」
奈良の皆さんに案内してもらいました。

被爆・戦後80年
平和とよりよい生活のために

奈良の戦跡を見学しました

奈良れん隊
とは？

日本には昔、徴兵制
があったので、二十歳
以上の男子は徴兵検査
(※1)を受けて軍隊
に入る決まりになっ
ていました。奈良に
は1909年から
1925年まで「奈良
れん隊」という陸軍が
あつて、奈良に住む人
はそこで訓練をして
戦地に行きました。
徴兵検査や召集令状
(※2)という軍隊に
入る命令書は、大学の
となりにあつた「奈良
れん隊区司令部」から
出されてきました。
召集令状は郵便で届
けられていて、その
切手代から「人の命は
1銭5厘」(※3)と言
われていたそうです。
今、そこには1969
年に建てられた「れん
隊碑」という、石に
文字を彫った碑があり

れん隊碑の上には、3つの銃剣と、れん隊旗が
つけられている(写真提供 奈良県生協連)今も残って
いる建物

大学には古いレンガ
の建物があります。一
つは「弾薬庫」でも
う一つは「糧秣庫」で
す。2つとも頑丈なイ
ギリス式のレンガの積
み方です。



イギリス式とはレンガの長い面と短い面を交互に積み重ねる方法

「弾薬庫」には弾薬
が保管されていたそ
うです。爆発しても被害



弾薬庫には24時間見張り番がいた

が少ないように、建物
は高い土塀に囲まれて
います。そして土塀に
は、「からたち」とい
うトゲが鋭い植物が植
えられています。これ
は外から勝手に入られ
るのを防ぐこと、き
びしい訓練から兵士が
逃げ出さないようにす
るためです。弾薬庫の
屋根にある「鬼瓦」
は、陸軍のしるしと言
われる「二つ星」の
鬼瓦だったそうです。
弾薬庫の近くにあつ



二つ星の鬼瓦は教育資料館に展示されている

た「狭窄射撃場」は、
腹ばいになって進みな
がら銃をうつ練習をす
るところだったそうで
す。
「糧秣庫」には食料
(米・小麦・そうめ
んなど)が保管され

2面「二つ星」へ



古備塚古墳のくぬぎの木は祟りがあるとされて、切られずに今も残っている

ていました。戦時中は食料がとて大切だったので、「し重兵」という戦争でケガをして療養中の兵士たちが見張りをしていました。し重兵はもう戦うことができないので、他の兵士からは「し重兵が兵隊ならば、チョウやトンボも鳥のうち」と言ってバカにされていました。



今は教育資料館になっている種抹庫

1面のつづき

駐屯地での生活

種抹庫のとなりに「吉備塚古墳」があります。古墳の上には、くぬぎの木が生えています。し重兵の中には、この木になわをくくりつけて自殺する人がいました。戦争で大きなケガをしたり、仲間を亡くしたり、敵の兵士を殺してしまつたことにショックを受けたことが原因だったようです。

大学の正門を入つてすぐのところには「営庭」という広場がありました。兵士は毎日訓練が終つると、営庭を進行して宿舎（寝る場所）に帰つていました。宿舎は大学の東側の附属小学校が建つていたところにあり、4000人ほどの兵士が生活していたそうです。

宿舎の近くには「酒保」というコンビ二みたいなところがありました。文房具やお菓子、お酒、タバコなどが売られていて、兵士たちはここで買い物をしたそうです。

酒保の近くに「野仏集場」があります。駐屯地になる前、田んぼや畑に置かれていた野仏がここに集められました。移動したとき、きちんと並べるスペースがなかったため、雑に置かれてしまったそうです。その中には自殺した兵士のための地蔵もあって、亡くなった人の家族が



当時、営庭には航空の神様がまつられた「飛翔神社」もあった



雑に置かれてしまった野仏と地蔵



Peace Now! 奈良のみなさん(後列)と子ども記者(前列)

☆きのこの利風バスタ☆

(材料)2人分
・スパゲティ 100g
・好きなきのこ (しめじ、まいたけ、エリンギなど) 100g
・玉ねぎ 1/4個
・ベーコン 1枚
・おろしにんにく (チューブ) 小さじ1
・サラダ油 大さじ1
・塩こしょう 少々
・水 300cc
・だしの素 ひつまみしょうゆ 大さじ1
・バター 10g

(作り方)

- ①きのこを食べやすい大きさに切る。玉ねぎは薄切りに、ベーコンは1cm幅に切る。
- ②サラダ油、おろしにんにく、①をフライパンに入れて火をつける。塩こしょうを振って炒める。



☆簡単スイーツポテト☆

(材料)4個分
・さつまいも 200g
・砂糖 30g
・バター 10g
・牛乳 20cc
・卵黄 1個分

(作り方)

- ①さつまいもはきれいに洗ってラップで包み、500Wの電子レンジで5分蒸す。竹串を刺してすつと通らなければ、さらに1分レンジで蒸す。
- ②レンジから取り出したさつまいもは、とても熱いのでやけどに注意!
- ③①の皮を剥いてボウルに入れて、ゴムベラやフォークでつぶしながら混ぜる。そこへ砂糖、バター、牛乳を入れて、なめらかになるまで混ぜる。
- ④②を4等分にして好きな形に丸めてアルミホイルにのせる。卵黄をぬってオーブントースターで20分3分焼く。



京都府生活協同組合連合会

協力新聞社名	子ども参加人数	集まった回数
京都新聞社	7	4

訪問施設やお話を聞いた方	完成した新聞の広報や報告方法
- 立命館大学国際平和ミュージアム 学生スタッフ3名 - 舞鶴引揚記念館	10/5(日)に京都生協のお店にある展示スペースでお披露目を開催 - 子ども平和新聞完成披露会・修了式&ピースアクションinナガサキ報告会を実施 - 京都府生活協同組合連合会ホームページで紹介 - 京都生協主催の被爆ピアノコンサートで発表と掲示、参加者へ資料として配布

参加者の感想

- 今回の平和新聞の製作を通じて私はもっと戦争について興味を持つことができました。その中で、私たち戦争を知らない若い世代が戦争を単に過去のことにとらえるのではなく、知って向き合うことが大切だと考えました。そのきっかけをより多くの人に持ってもらうことを意識しながら、今回新聞を作成しました。今回この平和新聞に参加し、自分自身の中で多くの学びを得ることができました。そして、この機会を作るためにたくさん支えて下さりありがとうございました。貴重な経験となりました。
- 参加して学ぶ中で、待ってるだけでは平和にはならないと感じた。ずっと考え続けることが大事だと思った。
- 舞鶴引揚記念館で学生語り部として活動しているので、引揚してきた人たちを迎え入れた舞鶴市民の「おもてなし」について新聞にした。嘘を書かないために資料をたくさん読み、学びになった。

エピソードなど

- 今回、立命館大学国際平和ミュージアムを見学し、学生スタッフの方に案内やインタビューにお答えいただきました。多種多様な題材で作品を作成していただき、大変自由なものになっています。お子さんの個性が爆発しています☆
- 今回の繋がりから立命館大学平和ミュージアムスタッフの学生2名と今年のピースアクションinナガサキに参加しました。
- 10/5の完成披露会の際には、ピースアクションに参加されたお二人から参加報告をしていただき、今後にも繋がるキッカケを作ることができました。また、修了証書と一緒に京都新聞社の記者からの講評を渡した。

京都へいわ新聞

9月21日
日曜日

編集者：藤井

平和を学び
未来を考える

「平和を学び未来を考えるミュージアム」戦争の歴史と体験を伝え、平和の尊さを学ぶ場。資料展示や体験型学習を通じて、過去を知り未来の平和を考える拠点。

立命館大学国際平和ミュージアム
Kyoto Museum for World Peace, Ritsumeikan University

私達に託された使命

戦争を過去にしない「平和への道」

七月十二日、子ども平和新聞事業に参加した小中高生七人が、立命館大学国際平和ミュージアムを訪れ、平和体験学習を行った。その中で展示を通じて戦争や紛争の歴史を学び、それぞれが関心を深めた。

私は冷戦以降の紛争や内戦に興味を持ち、「なぜ争いが今日まで続いているのか」「なぜ私たちは他の国の紛争を他人事のように捉えているのか」という疑問を抱いた。その後、私は自分なりに興味があることを調べていく中で、今年の八月六日に広島で行われた平和記念式典での広島市長のスピーチに出会い、感銘を受けた。

市長は「なぜ争いが今日まで続いているのか」という問いに対し、多くの国が「自国を守るためなら軍拡もやむを得ない」と考え、武力に依存した安全保障を



平和記念式典が行われた現在の広島の様子

続けてきた各国の現状を指摘していた。また「なぜ他国の紛争を私たちが他人事のように見てしまうのか」という問いには、「自分に直接危害が及んでいないから」であり、いざ自国が巻き込まれた時にはもう手遅れになるのだと警鐘を鳴らしているように私は感じた。

核と世界

世界で唯一の戦争被爆国である日本。広島や長崎の悲劇を二度と繰り返さないため、二〇二一年に「核兵器禁止条約」が発効した。この条約は、核兵器の開発・保有・使用を全面的に禁止し、核なき世界を目指す

その上で市長は、紛争や戦争に対して「武力ではなく対話を重ねることこそ解決の道」であるとスピーチの中で何度も強調した。私はこの言葉に強く心を動かされた。戦争を「昔あった出来事」として過去に閉じ込めようとするのではなく、被爆者や戦争体験者の声を伝え続け、二度と同じ過ちを繰り返さないことが、私たちに託された大切な使命だと感じた。

また、ロシアとウクライナの戦争では、核の使用が示唆される場面もあり、核兵器廃絶の難しさを世界の国々は痛感している。

他にも、ガザ地区やスーダンなど世界各地では今もなお紛争や内戦が続いており、多くの人々が家や家族を失っている。

そんな中で今年開催されたピースアクション・ヒロシマでは、日本被爆協の事務局長を務める浜住治郎氏がスピーチの中でこう語った。「被爆して八〇年」というのは、核兵器が使われなかったという事実でもある」と。

これは日本被爆協をはじめとする多くの団体が、原爆によってどれほどの命が奪われたのか、核兵器はどれほど恐ろしいのかということを精力的に国内外に発信し続けてきたからであると感じた。

「平和は戦争の向こう側にある」

立命館国際平和ミュージアムの学生スタッフをされている方達にインタビュー

Q なぜ学生スタッフをされているのですか？

A 「大学の授業でこの博物館を訪れ、学術的な展示が多くある所に興味を持った。」

A 「働きながら学ぶことができる所に魅力を感じた。」

Q この博物館に外国人の方の反応は？

A 「展示を見ていて嫌な思いになったり、涙を流された方もいた。」

A 「様々な国の人来ていたで、多くで意義を感じて思う。」

Q 私たち中高生へ一言お願いします!!

A 「多くの視点で平和について考えてみてほしい。」

A 「平和は戦争の向こう側にあるため、知りたいことを自主的に学んでほしい。」

くらしを支える
京都生協

安全・安心な食品や生活用品を届け、地域のつながりを大切にする京都生協。日々の店舗の利用なごらして、毎日のくらしをより豊かにするパートナーです。

KYOTO
COP

このことは核兵器禁止条約の「対話で平和な世界を作る」という人々の願いを叶える第一歩となったのではないだろうか。

折りづる新聞



發行日
10月5日
日曜日
発行者
江口光輝

二枚のてん示や建物など
 見て戦争の非心さんさ
 原はくのおそろし
 ことして平和の大切
 ことも改めて知り
 ました。

原はくの子の像の下
 の石碑には三えはくらの
 叶びですこれは私たちの
 祈りでこの世界に平和を
 せうくたのびたいと願
 っています。

満州はコソ!

– 66 –

水曜日 8月20日
発行者
尾形政晴

軍艦新聞

1号

戦争と海

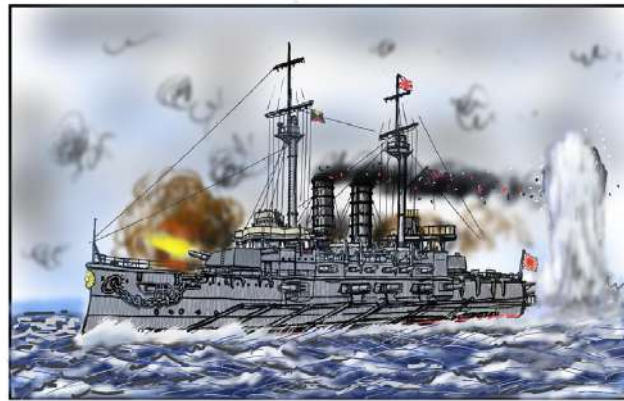
最初の戦艦

日本が最初に海戦で大勝利をつかんだのは、黄海海戦です。この時の日本は、沈没艦を出さず勝利を収めました。そこから時は移り変わり、日露戦争へと発展。その時点では、当時最強を誇るバルチック艦隊に対し日本では、負けると思われますが日英同盟のおかげで派遣途中でイギリスの植民地の多さでろくな補きようができず日本海に到着したところには、東郷平八郎元帥による敵の周りに囲み。当時めずらしい一斉砲撃に敵艦隊を撃滅し勝利しました。このことを受けたイギリス人がど級戦艦を思いつきその後の戦艦の設計に反映されのちの戦艦大和などにも反映されました。



最強の戦艦大和

戦艦大和は、当時仮想敵国である英米に劣るために質で勝つため、本艦1935年呉海軍工廠にて極秘に竣工し1942年12月7日に就役。1945年4月7日に沖縄に向けての海上特攻中に米艦載機により沈没しました。
戦艦大和が沈んだ理由としてまともな護衛戦闘機もなく丸裸状態で米艦載機より沈ぼつ。
では、どれぐらいの攻撃を受けたのでしょうか？
ちなみに大和の装甲は、46cm砲も防ぐ装甲でこの46cm砲以上の主砲は、そもそも日本以外は、所有せず他国の最大40cm砲なので無理です。
答えは、魚雷です。アメリカ雷撃隊による攻撃です。具体的に魚雷16本が命中爆けきにより撃沈。



イラスト出典：金時

たくさんの人が見た地獄の海

太平洋戦争

この戦争で日米英の総死者約330万人。日本の艦船での沈没艦は、7420隻にのぼった。そして日露戦争では、勝利したのになぜ敗北したのでしょうか。時代の背景

日露戦争などの戦いでは、主力は、戦艦が旗艦をつとめ海戦をしていたが日本が真珠湾攻撃に成功したことによりアメリカも航空機の有用な使い方にきつてしまうことになった。結果的に日本が今後不利になることに繋がった。
マレー沖海戦で42機だけでイギリス艦隊旗艦プリンスオブウェールズを撃沈したことで気合が上がっていたが運命のミッドウェー海戦で南雲機動部隊がミッドウェー諸島占領しに行ったが暗号をアメリカ軍に傍受され、待ち受けていた太平洋艦隊に空母4隻が大破、撃沈により合計3072人が死亡。

その後ソロモン海戦勃発先の海戦影響により敗戦。この戦いでは、戦艦2隻大破。その後日本は、敗北が続きマリアナ沖海戦で残存空母を撃沈され日本は、絶対防衛圏のフィリピンをめぐってレイテ沖海戦で日本戦艦武蔵をはじめとした戦艦と空母が撃沈されB29の射程圏内に日本本土が入り、東京大空襲などの空襲などが起こり、原爆投下の射程にも入りその後日本は、敗戦。

このことから戦争は、多くの戦争と関係ない人の人生と若者未来をうばいました。日本に生きる人の多くは、戦争の恐ろしさを知らない人が多く、今あらためて戦争のことについて考えてみましょう。

戦時中と現代では、戦艦と言えば現代の人は大和というでしょう。当時の人はおそらく長門でしょう。実は、当時日本国内では、旗艦は、大和ではなく、長門なのです。当時の日本政府は、大和の存在を知られたくなかったため、一般的に知らせておらず長門が有名でした。実際に大和の存在が知られたのは、1944年です。

大和が撃沈されたことにより約3千人がお亡くなりになりました。

そして大和で戦った英霊は、いまでも海の中にいます。引き上げられないということで、ほとんどの船がまだ海の中にいます。

子ども平和新聞

by 三上温子

私のおすすめ恋愛小説(他にも色々)
・渚くんをお兄ちゃんとはよばない。
・ウソカレ ・おねがいフェアリー

「この新聞を書くにあたって、私にとって平和とは何かをまず考えました。」

私は、「みんなが平等に幸せなこと」「戦争している国がない世界」と考えました。姉に聞くと、「おいしいごはんがたくさん食べられること」「みんなが元気に学校に行けること」「友だちと遊ぶこと」と答えました。母に意見を聞いてみると、「戦争がなければ平和って言えるのかな?」と言われました。

私は、前に読んだ中村哲の伝記(※)を思い出し、もう一度読むことにしました。



※学習まんが 世界の伝記 No.1
中村哲 (集英社)

中村哲さん、知っていますか？

アフガンで緑化活動

命の水で人々を救った医師

中村哲さん(一九四六～二〇一九年)を紹介する。三十八歳のときに、パキスタンに医師として派遣され医療活動を始めた。その後アフガニスタンにも活動の場を広げ、両国の各地に診療所をつくった。

二〇〇〇年、アフガニスタンを大干ばつが襲い、深刻な水不足・食糧難で人口の半分以上が被災したことをきっかけに、いま必要なのは病院よりも水なんだということに気づく。その年の秋にはまず二七四カ所の井戸から水を供給、二〇〇六年までにそれを一六〇〇カ所に増やした。



さらに、二〇〇二年、大河から取水する用水路をつくり、安定的に農業用水を引く計画をたてた。それが「緑の大地計画」だ。今では二七km以上に延びた用水路によって、一滴の水もなかったガンベリ砂漠に緑の農地が広がっている。(写真)

凶弾にたおれ帰らぬ人となるまで、三五年間にわたりパキスタンとアフガニスタンの人々のために尽くした。

「死んでもうちかえすな」

※67ページより抜粋

私の印象にのこったシーンです。

診療所に一部の住民が銃をもっておしかけたときのこと…

スタッフ「先生、大変です。武器を持ったやつらが!」

アクバル「こうなったらやるしかない。仲間を集めよう。」

哲「銃を置け。」

アクバル「でも攻めてきたのはやつらです。」

哲「銃を置くんだ。」

アクバル「皆殺しにされてもですか!? 先生も死ぬかもしれない。」

哲「そうだ。死んでもうちかえすな。私たちは人の命を助けるためにここに来たんだ。

殺しに来たのではない。武器を持つのは臆病者だ。患者を守るなら銃を持つな。」



平和新聞

斉藤眞一 二〇二五年八月

植民地台湾でおきた「霧社事件」

霧社事件とは、一九三〇年（昭和五年）一〇月二七日に、日本が台湾を植民地にしていた時におきた、セデック族という先住民の人たちによるはんなん事件です。



セデック族はもともと自然と共にくらす人たちでしたが、日本人が台湾にやってきてから、むりやりきびしい仕事をさせられたり、ばかにするような扱いであったり、

かわれたりしました。セデック族の人は、そうしたことにはまんの限界を感じ、とうとう立ち上がったのです。

事件のあと、日本の軍がセデック族をちん庄しました。多くの人が命を落としました。

ぼくがこの事件に興味を持ったのは、平和ミュージアムで調べた時に、「日本人がおそれていた」と書いてあったのを見て、「なぜ日本人がこわがっていたのか？」と気になったからです。

核模擬爆弾



核模擬爆弾とは、一九四五年ごろからアメリカ

がテストや訓練のために作られました。

火薬は入っていない

くても、一つ、二〇〇キログラムもあって、高さは三メートルもありました。

沖縄県伊江島でのこと

一九六〇年から一九七〇年代にかけて、アメリカはベトナム戦争のために、沖縄県の伊江島に核模擬爆弾を落とし、テストや訓練をしていました。

これは沖縄の人たちにとっても、とても大きな問題だったと思います。

おわりに

どちらの話も、「力でおさえつけること」がどれほどこわいことなのか、そして「平和」がどれほど大切なのかを考えさせられました。ぼくは、これから平和についてもっと調べていきたいと思っています。

平和新聞

8月15日

金曜日

終戦記念日

春日新聞社

編集長・春日景介

戦時中の子供達の学校生活

習字の作品「ほろぼせ米英」

立命館大学国際平和ミュージアムの地下にはたくさんの方々の戦時中の資料や展示物がある。戦争の歴史や世界での出来事が年表と地図で分かりやすく説明されている。当時の家を再現したものや練習用の核もぎ爆弾がとて大きくて印象に残った。

テーマ展示2「十五年戦争の加害と被害」には、戦争が始まるとどうなるのか子供たちの生活の様子を中心に展示されている。当時は、兵隊が使っている鉄砲やガスマスクなどをおもちゃとして兵隊ごっこをして遊んでいた。夏休みの学習帳には「ヘイタイサンへ」という題名の文章が書かれている。「ほろぼせ米英」と書かれて

た習字の作品もあり、学校での教育が今とは全く違うことが分かる。都会に住む子供たちを空しゅうから守るために子供だけでひな

んする学童が開が始まった。9歳で開した女の子の「そ開学童の日記」には、家族に会いたい思いや辛さと悲しさが書かれている。1943年からは、子供達も勤労

ほうしをする事になった。学校の運動場にイモなどを植えて農業をしたり、炭団(たどん)という燃料作りをしたりして働いていた。空しゅうに備えた防空訓練やケガをした人を救護する練習もしていた。男の子は坊主頭で、女の子も短いかみの毛でもんべと呼ばれる動きやすい服を着ていた。

天気予報

京都 ☀ 37/25

大阪 ☀ 36/27

奈良 ☀ 36/24

熱中症警戒



立命館大学国際平和ミュージアムを見学

立命館大学の学生達も学徒出陣で戦地に行くことになり、壮行会が開かれた。多くの学生の命が戦争で命を落とした。

ミュージアムには、ガイドとして働いている学生スタッフがいます。平和のために自分ができることは何かを考えてガイドの仕事をしていると話していた。

編集後記

僕も日本が戦争をしている時代に生まれていたら、学校の先生から教えてもらうことが正しいと考えて言われた通りに行動していたと思う。『おこりじぞう』を読んで、今は愛媛県のお寺にあることを知った。平和を願うために見に行ってみよう。

「戦争を起こす人間に対して、本気で怒れ」



「ことば回廊」という世界中の人々の平和へのことが紹介された展示がある。その中に「戦争を起こす人間に対して、本気で怒れ」という力強いことばがある。これは、広島生まれの画家・四國五郎が残したことばだ。戦後シベリアよく留から帰国し、悲しな広島姿の弟の死から絵を描くことで平和を伝える活動をしてきた。その中に『おこりじぞう』という作品がある。原爆の被害にあった地蔵と女の子のお話で、子供達に向けた作品だ。顔の表情がやさしく描かれていて、戦争や原爆の話から目をそらさずに見て知って欲しいという思いが感じられた。

引揚新聞

発行者
原田 晃征

舞鶴 抑留と引揚の歴史

舞鶴市民のおもてなし



舞鶴市内の小学生による慰問演芸

舞鶴は引揚船の第一船雲仙丸が九四五年（昭和二〇年）一〇月た、中には「トーキョー・ダモイ（日本に帰してやる）」とソ連兵に騙され、疑心暗鬼になつていた人もおり、木村千代子さんが生けた草花を見て、日本の文化に触れ「日本に帰つてきの役目を担った。舞鶴には、有名な」という実感をした人もいたそうだ。また、な船として第一船であり舞鶴にも山端ハナさんを始めとする婦人会の人が生活つとも多くの引揚者を運んだ雲仙丸、最終船の白山丸、シベリア犬局において慰問等、舞鶴に上陸した多くの引揚者に心からおもてなしをした。舞鶴市民総出で安丸など、のべ三四六隻が入港し、引揚者をお迎えしており、漁船を持っていたり（舞鶴湾は浅いところがあるため大型船は岸壁につけない）、また子供も例外ではなく慰問演芸や歌を歌ったりしていた

シベリアの犬・クロ

シベリアの犬・クロは、抑留者たちの生きる支えとなり、シベリアからの最後の引揚船・興安丸に乗り日本へ渡ってきた人懐っこい犬だ

クロはシベリアで抑留者に拾われ、四年間共に過ごした

しかし、帰国時動物は船に乗せられなかったため岸に残された。だが、クロは流水の漂う海に飛び込み船を追った。その姿に心を打たれた興安丸船長の判断で、クロは日本へ連れて帰られた

この話は当時の新聞にも記載された。また、小説や紙芝居にもなり、今でも愛されている

太平洋戦争

日本時間一九四一年（昭和一六年）二月八日未明、当時ハワイ準州オアフ島真珠湾にあった、米海軍の太平洋艦隊と基地に対し、攻撃を行なった。結果は日本の勝利。この真珠湾攻撃により大東亜戦争、太平洋戦争として有名な日本対アメリカ（とロシア）との戦争に突入する。最初は優勢に戦っていた日本もミッドウェー海戦での大敗から、徐々に敗戦色が強くなる。

アッツ島では日本軍初の玉砕。東南アジアでは、転進（退却）続き、また、一九四五年八月六日広島への原爆投下、三日後の九日長崎への原爆投下を受ける。最終的に一九四五年（昭和二〇年）七月二十六日に発表されていたポツダム宣言を同年八月十四日に受諾決定。翌日、玉音放送で国民に敗戦を発表した。そして、同年九月二日アメリカ戦艦ミズーリ号艦上に、降伏文書調印式が行われ、日本の降伏を正式に決定し終戦した



毎日新聞より



東京新聞デジタルより

生活協同組合コープこうべ

広島編

協力新聞社名	子ども参加人数	集まった回数
神戸新聞社	10	4

訪問施設やお話を聞いた方	完成した新聞の広報や報告方法
- 広島原爆資料館、本川小学校、袋町小学校、旧日本銀行広島支店を見学。 - サイクリングピースツアーで、ピースバディの「トビー」とともに広島市内の被爆遺構を巡った。 「ハチドリ舎」で被爆者 岡本忠さんにお話を聞いた。 - 福山市の「ホロコースト記念館」の見学。	- 広報誌で紹介 - 各地区本部に配布、イベント等で配布 - ピースツアー用のHP（作成中）

参加者の感想

- 実際に足を運んで、自分の目で見て、耳で聞くという経験ができてよかった。
- 原爆が投下される前の広島市の話も聞けていい経験になった。
- 原爆ドームが慰霊碑の前に立つと見えるという、原爆を忘れないように工夫がされた設計だという話が心に残った。
- 被爆者の岡本さんの「原爆は昔話ではない」という言葉が、いつまでも原爆の被害が続いていることを伝えていて、とても心に残った。

エピソードなど

- 参加した子どもたちが、新聞のタイトルや割付、写真をすべて担当。事務局は簡単な校正のみです。短時間で、ここまで作り上げるのはすごいと思います。
- 参加した高校生が、終戦 80 年企画で報告をしてくれました。

長崎編

協力新聞社名	子ども参加人数	集まった回数
神戸新聞社	8	4

訪問施設やお話を聞いた方	完成した新聞の広報や報告方法
「核兵器をなくす日本キャンペーン 長崎コーディネーター」の林田光弘さんや、地元の大学生のガイドで、被爆地フィールドワークを実施。 - 日本赤十字社長崎原爆病院を訪問し、組合員から寄せられた「平和のカンパ」を寄贈。	- 広報誌で紹介 - 各地区本部に配布、イベント等で配布 - ピースツアー用のHP（作成中）

参加者の感想

◆感じたこと

- 原爆の威力の強さや、詳しく知らなかった差別について知り驚きました。
- 広島と一括りにされがちだけど、まったく別だと感じた。
- 核兵器は二度と使わない方がいいと思いました。

◆自分にできることは

- 戦争が起きている理由を学ぶこと。
- 自分自身が戦争をしないという思いをもつこと。
- 平和を守る 1 人になること。

エピソードなど

- 8 月下旬の実施で、さらにフィールドワークが中心だったので、熱中症が心配でした。参加者はヘロヘロになりながらも、坂の多い長崎の街をめぐりました。

被爆地を駆ける

HEIWA新聞

発行元

コープこうべ
広島サテライト
2024

「平和」を学んだ2日間

2025年3月26日、27日の1泊2日で「広島平和サイクリング旅2024」が実施されました。中学1年生から高校3年生男女10人が参加し、広島市の戦争を知りました。「平和」の大切さへ理解を深めた。ガイドの話を聞きながら、未来に繋いでいくため、旅で学んだことを周りに伝えることが目標です。

初日は、ハチドリ舎に訪問し、被爆した岡本さんの話を聞いたり、広島市街地をレンタル自転車で行きました。ガイドの話を聞きながら、未来に繋いでいくため、旅で学んだことを周りに伝えることが目標です。

2日目は被爆した本町、袋町小学校の跡地、爆心地、旧日本銀行広島支店を巡り、ホロコースト記念館を訪ねました。第2次世界大戦中に起きたユダヤ人迫害の歴史から、「平和」について何ができるのか、ホロコースト記念館が果たした経緯について学びました。

袋町小学校 戦後八十年の伝言

爆心地から460メートル、袋町小学校は大きな被害を受けました。平和資料館となった今、見学できるほどに復興しました。現在は新校舎となり、西校舎は平和資料館です。平成11年3月、壁面の



漆喰の一部を剥がす際に「案内」という文字、解体で炭化した木レンガが残った壁や授業再開後に使われた黒板の後ろの壁から多くの伝言が見つかりました。時間経過で風化し、読みづらくなった数多いヒロシマの証言は、東京の教授らに議論されながら解析されました。

原爆投下後、倒壊を免れ、外郭の原型がある鉄筋コンクリートの西校舎は、原爆投下の翌日から救護所として広島市の重要な救護活動の拠点の一つでした。今も残る西校舎の壁面には、教師の所在地や子どもたちの行方を探す親の言葉など、被災者の伝言があり、現在も見学できます。原爆投下後の日々を必死に生きていた人々の思いが、壁に言葉を書き連ねたのかを考えさせられます。（井上実咲）

襲い来る爆風と熱線

地面の温度三千から四千

平和資料館などで原爆がもたらした被害について学びました。原爆は爆風や熱線、放射線などで被害を大きくしました。爆風は、爆心地に数十万気圧とともに発生し、風圧は1平方メートルあたり1トントーン、秒速

はおよそ300メートルにも及びました。強烈な爆風で、爆心地からおおよそ半径3キロメートルの範囲にある建物のほとんどが吹き飛ばされ、残ったのはわずかでしかありません。道路はガレキでふさがれ、押しつぶされた人々か



らの悲鳴があらうところから聞こえていました。爆風により割れてどろどろとしたガラス片が、コンクリートの悲鳴があらうところから聞こえていました。爆風により割れてどろどろとしたガラス片が、コンクリートの

トや人々に突き刺さる二次被害も甚大でした。原爆が爆発した瞬間、熱線の温度は太陽とおなじくらいに高温で、熱線が皮膚を火傷でみみず腫れのようになった「ケロイド」と言われる症状や、皮膚がだらりと垂れ下がってしまうような状態、失明などの被害を生み出した。ささぎるものがない中で熱線を浴びた人の多くが即死しました。（後藤 莉々唯・スマイル）

原爆昔話ではない

HEIWA新聞

発行元

コープこうべ
広島平和サリ
クリングの旅
2024

被爆傷に思い悩む日々過ぎ



1945年8月6日午前8時15分、広島に原爆が投下されました。当時、岡本忠さんは1歳5カケ月で、お母さんと就寝時に被爆されました。被爆した記憶はないのですが、頭、左腕、背中に傷を負い、そのうち頭と左腕の傷は今も残る傷となりました。一時期は傷の事で思い悩むことがあつたと聞きました。岡本さんが現代に伝えたい事は、『原爆は昔話ではな

い』と語っています。原爆投下から80年がたち、忘れてしまふ人がいる上に、『原爆のことなんか昔話だ』と思っている人がいます。現在も原爆症で白血病やがんなどに悩まされる人もおり、周りが病気で亡くなつてしまふ人もいます。『次は自分が』と被爆された方々は不安な気持ちで日々暮らしています。この地球上には核が12520発あり、1発使うと



胎児にも影響した原爆

語り部伝承者・岡本忠（おかもと・ただし）さんの幼いころの記憶をたどる話は、子どもの頃のことです。語り部伝承者・岡本忠

も鮮明に覚えているものなのだと感じました。それだけ強烈な体験だったのだと思います。母親のお腹の中にいる時に被爆します。その後生まれてきても、頭囲が著しく小さい原爆病小頭病や知的障害等が見られたりするこゝとです。この世に生まれてきてもないのに、被爆してしまい、将来にわたって

子を思う母の強さ

語り部伝承者・岡本忠



あるので「原爆は昔話ではない」と語っていました。今を生きる我々が、どう核に向き合わなければいけないか、岡本さんは「核は地

震などの避難訓練では対応できない。防ぎようがない。核自体をなくすよう、向き合っていかなければ、核を無くすのだと呼びかけ

特に印象に残つたのは、広島に原爆が落とされたあの「母親が必死に逃げた時の力」の話でした。つづ大きな影響を及ぼしてしまふ原爆の恐ろしさに、とても心が痛くなりました。生き延びることができた人々でも、多くの困難と苦悩が心身に残つてしまっています。いつ発症するかかわらない原爆病に怯えたりしながら日々を過ごしているそうです。『原爆病はうつる』

（山田 大登）

れた家から這うように逃げ、赤ん坊だった岡本さんの泣き声を頼りに救出したという。その瞬間、母親は「何も覚えていない」と言っていたそうです。

HEIWA新聞

発行元

コープこうべ
広島平和サイクリ
2024

被爆三日後に運転再開

被爆地を元気づけた「日常の音」



路線電車が原爆投下後いつから運転を再開させたのか、そんな問いを投げかけられました。原爆の威力は凄まじく、人々を絶望のどん底に突き落とし、被害は甚大という言葉には言い尽くせません。広島市内にいた約三十五万人のうちの朝が、瞬で消え去ってしまいました。熱線、爆風が苦しみ、今も尚放射線の影響が残ります。

広島市の死者数は約十四万人で、生き残った人の心情は到底言葉に出来ません。その中、三日で路面電車を復旧させた人がいます。人々の目の前が真っ暗になった時、ふと耳に入ってきたのが、日常の象徴の路面電車の音、下を向いていた人たちの顔を上げ、立ち

路電車が原爆投下後いつから運転を再開させたのか、そんな問いを投げかけられました。原爆の威力は凄まじく、人々を絶望のどん底に突き落とし、被害は甚大という言葉には言い尽くせません。広島市内にいた約三十五万人のうちの朝が、瞬で消え去ってしまいました。熱線、爆風が苦しみ、今も尚放射線の影響が残ります。

上から、胸を張らせました。早く日常を取り戻そうという広島電車の熱い思いが三日で、運転を再開させたのです。

651号機は爆心地から700メートル付近を走行中に被爆し、爆風で脱線して黒焦げになりました。当時の写真が発見され、原爆資料館に寄贈されました。被爆時に651号機に乗りし

原爆慰霊碑が心に



原爆が落とされた広島市を平和都市に再建を祈願して建てた慰霊碑はトンネル形で、正面に原爆ドームが見えます。平和記念公園の慰霊碑を建設した丹下健吾は「人間は忘れる生き物だからこの戦争を二度と起こさない」というにせよ、被爆遺産を残し、戦争を知らない私たちの心に悲しみ、平和の大切さを伝える役割

平和を考える時間の中

広島平和サイクリングの旅は、心に残る貴重な経験でした。これまで学校での学びはありましたが、実際に広島を訪れて、原爆のホロコーストについて改めて深く考えることができました。

特に、被爆体験証言者、岡本忠三さんは、実際に体験された方から見た原爆の恐ろしさを知ることができました。岡本さんの「原爆は昔話ではない」という言葉は、私たちが単なる過去の出来事としてではなく、実話としてその恐ろしさを次世代に伝えていかなくてはならないという強い思いを抱きました。

平和記念公園や原爆ドームも訪れました。平和記念資料館には実際に伝えているか



実際に原爆によって影響を受けた物が展示されており、どれほどの恐ろしい影響力をもつておりと示していました。

焼野原から緑豊かな街



平和サイクリングの旅は資料館や原爆に関する建物、慰霊碑をまわり、多くの話を聞きました。「原爆は自然が生み出したのではなく、人の手で作られたものだ」という言葉が強く印象に残っています。

広島は想像を絶する破壊と人々の苦しみ、代名詞で、暗いイメージがありました。今は、希望と再生のシンボルで、回復力、適応力、復興力の姿を体現しています。80

年明け野原の広島を想像するのはとても難しいです。戦後は「75年間は草木は生えぬ」と言われていました。原爆の熱線や放射線の影響がありながら、広島市内に残った木は160本にも達しませんでした。その状況の中、外国から植林用の木が送られ、被爆した数年後には緑がふさふさとなり、戦後80年の現在も、緑が大切にされています。（喜多美）

同行した仲間たちと共うことを肌で感じることでできたのは、地域の方々の平和に対する強い思いと、支援してくださる多くの方々の心遣いでした。共に行き、私たちが貴重な経験をすることができました。私たちがこのような活動に関わることができていることを期待しています。（白井和香）

HEIWA新聞

発行元

コープこうべ
広島平井の旅
2024

アンネの日記に誓う

ナチスドイツによるユダヤ人虐殺の教訓

強制労働、人体実験、大量虐殺、ユダヤ人であるだけで百五十万人の子供を含む六百万人の尊い生命が奪われました。アンネの日記の筆跡はインク、紙質まで最大限近づけた複製を見て、大きな恐怖を抱えながらも日記の中では、アンネが冷静に自分らしく生きていたように思いました。



「アンネの日記」は、世界中でアンネの日記を読めることを知りました。アンネ・フランクの「なぜ人間は仲良く平和に暮らせないのであるか」という言葉が印象に残っています。アンネ・フランクは15歳で亡くなりました。私より年下で考えていることは私より大人。「なぜ人間は平和に暮らせないのであるか」という言葉は、この言葉は私なら出てこないと思います。世界ではシリアやウクライナとロシアの戦争が行われています。紛争や戦争が絶えませんが、平和ではない日常生活

が、世界中でアンネの日記を読めることを知りました。アンネ・フランクの「なぜ人間は仲良く平和に暮らせないのであるか」という言葉が印象に残っています。アンネ・フランクは15歳で亡くなりました。私より年下で考えていることは私より大人。「なぜ人間は平和に暮らせないのであるか」という言葉は、この言葉は私なら出てこないと思います。世界ではシリアやウクライナとロシアの戦争が行われています。紛争や戦争が絶えませんが、平和ではない日常生活

△旅を終えて①▽

学校で学んだことも学んでいないこともあったけど、どちらも新しい気づきがあった。原爆のこともホロコーストのことも私たちの世代がしっかり学んで後世に伝えていかねばならないと思います（喜多方美杜）

（寺川綾音）
修学旅行などで、平和や戦争について、原爆について共に考え、議論ができ、平和について改めて考えさせられることが多かった。被曝した岡本さんの話、今後に残してどうしようかを

（寺川綾音）
修学旅行などで、平和や戦争について、原爆について共に考え、議論ができ、平和について改めて考えさせられることが多かった。被曝した岡本さんの話、今後に残してどうしようかを

（寺川綾音）
修学旅行などで、平和や戦争について、原爆について共に考え、議論ができ、平和について改めて考えさせられることが多かった。被曝した岡本さんの話、今後に残してどうしようかを

（寺川綾音）
修学旅行などで、平和や戦争について、原爆について共に考え、議論ができ、平和について改めて考えさせられることが多かった。被曝した岡本さんの話、今後に残してどうしようかを

（寺川綾音）
修学旅行などで、平和や戦争について、原爆について共に考え、議論ができ、平和について改めて考えさせられることが多かった。被曝した岡本さんの話、今後に残してどうしようかを

（寺川綾音）
修学旅行などで、平和や戦争について、原爆について共に考え、議論ができ、平和について改めて考えさせられることが多かった。被曝した岡本さんの話、今後に残してどうしようかを

（寺川綾音）
修学旅行などで、平和や戦争について、原爆について共に考え、議論ができ、平和について改めて考えさせられることが多かった。被曝した岡本さんの話、今後に残してどうしようかを

（寺川綾音）
修学旅行などで、平和や戦争について、原爆について共に考え、議論ができ、平和について改めて考えさせられることが多かった。被曝した岡本さんの話、今後に残してどうしようかを

（寺川綾音）
修学旅行などで、平和や戦争について、原爆について共に考え、議論ができ、平和について改めて考えさせられることが多かった。被曝した岡本さんの話、今後に残してどうしようかを

（寺川綾音）
修学旅行などで、平和や戦争について、原爆について共に考え、議論ができ、平和について改めて考えさせられることが多かった。被曝した岡本さんの話、今後に残してどうしようかを

（寺川綾音）
修学旅行などで、平和や戦争について、原爆について共に考え、議論ができ、平和について改めて考えさせられることが多かった。被曝した岡本さんの話、今後に残してどうしようかを



ゲームを用いて子どもを洗脳

ホロコースト記念館では、戦時中のアウシュビッツ強制収容所の資料や遺品等が展示され、ナチスドイツによるホロコースト（ユダヤ人迫害）を通して平和について学びました。ユダヤ人のせいにユダヤ人がナチスドイツの標的になったのも責任のなすりつけで、人間扱いされなかったことを最も印象に残ったのは、展示室のすぐ近くです。ヒトラーは「ユダヤ人は出ていけ」という内容のすくなくとも100個も作ったそうです。子どもたちをゲームを用いて洗脳していくナチスドイツに、とても恐怖を感じました。文明、知識、科学技術など、本来なら人を救うために作られたものが人を傷つけるために使われていたのです。ユダヤ人だけが身につけた黄色の星のバッジや、ヨーロッパ諸国

（寺川綾音）
修学旅行などで、平和や戦争について、原爆について共に考え、議論ができ、平和について改めて考えさせられることが多かった。被曝した岡本さんの話、今後に残してどうしようかを

（寺川綾音）
修学旅行などで、平和や戦争について、原爆について共に考え、議論ができ、平和について改めて考えさせられることが多かった。被曝した岡本さんの話、今後に残してどうしようかを

（寺川綾音）
修学旅行などで、平和や戦争について、原爆について共に考え、議論ができ、平和について改めて考えさせられることが多かった。被曝した岡本さんの話、今後に残してどうしようかを

（寺川綾音）
修学旅行などで、平和や戦争について、原爆について共に考え、議論ができ、平和について改めて考えさせられることが多かった。被曝した岡本さんの話、今後に残してどうしようかを

（寺川綾音）
修学旅行などで、平和や戦争について、原爆について共に考え、議論ができ、平和について改めて考えさせられることが多かった。被曝した岡本さんの話、今後に残してどうしようかを

<旅を終えて②>



初めて旅に参加、自分の目で実際に見て平和に深く学びました。特

（山田大登）
戦争の恐ろしさだけでなく、広島復興の力を学べたことができた。学んだことを次世代へと伝えていきたいと思います。

（山田大登）
戦争の恐ろしさだけでなく、広島復興の力を学べたことができた。学んだことを次世代へと伝えていきたいと思います。

（山田大登）
戦争の恐ろしさだけでなく、広島復興の力を学べたことができた。学んだことを次世代へと伝えていきたいと思います。

（山田大登）
戦争の恐ろしさだけでなく、広島復興の力を学べたことができた。学んだことを次世代へと伝えていきたいと思います。

（山田大登）
戦争の恐ろしさだけでなく、広島復興の力を学べたことができた。学んだことを次世代へと伝えていきたいと思います。

（山田大登）
戦争の恐ろしさだけでなく、広島復興の力を学べたことができた。学んだことを次世代へと伝えていきたいと思います。

「被爆地ナガサキ」で学ぶ



平和のカンパ寄贈へ

8月18日から19日にかけて、中学1年生から高校2年生までの8人が「長崎平和とカンパ寄贈の旅」に参加し、長崎を訪れました。組合員から寄せられた「平和のカンパ」を日本赤十字社長崎原爆病院に届けることを主な目的とし、原爆資料館や平和記念公園で被爆当時の長崎の状況や、平和の重要性について学びました。WPFNの意味 World Wide Peace From Nagasaki Newspaper

WPFN新聞

発行元

長崎平和のカンパ寄贈の旅
2025

時を刻み終えた被爆時計

7万人の命と共に歩みを止めた

この夏、僕たちは長崎を訪れ、戦争について学ぶ機会を得ました。僕は原爆資料館で、爆心地の写真や原子爆弾がさく裂した瞬間で止まった時計を目にしたこと、被爆して亡くなった人々の遺品が展示を見ました。焼け焦げた制服、小さな靴、壊れた時計―それらは、ただの物ではなく、そこに確かに生きていた人々の人生の証でした。

その中でも、止まったままの時計が最も印象的でした。その針は、原子爆弾「ファットマン」が落とされた瞬間を指したまま動いていません。1945年8月9日11時2分時間で止まっています。原爆がさく裂の瞬間の間に、何千人、何万人の命、そして何万の



家は壊滅させられ、失われたのだと思うと、僕は言葉を失うほど、とてもショックでした。この1945年8月9日11時2分まで止ま

った時計は当時の惨状を伝える貴重なものです。僕は改めて原爆は恐ろしい兵器だと思い、原爆はもう廃絶したほうがいいと思いました。（榊翔多）

授賞式に立ち会った林田光弘さんにガイドしていただき、原爆資料館と浦上天主堂を見学しました。資料館では、被爆直後の街の様子や焼け焦げた衣服、生活用品などを目にし、当時の痛々しく悲惨な状況を身をもって知ることができました。その道中では崩れた建物の一部など街に残る原爆遺構も見学しました。

2日目は、平和記念公園でピースパディの方にツアーをしていただきました。ピースパディという呼び方は、

終わらぬ放射線被害

消えることのない被爆の苦しみ



放射線の破壊力はそれほど強烈で人体に及ぼす影響は爆発のときだけでは終わらず戦後80年たった今でもケロイド、白血病、がんなど被爆から時間が経過するにつれて発症する原爆病の要因となっていることを知りました。

原爆資料館で見た「あの夏に始まった放射線被害の苦しみは、死ぬまで消えることがない。」という言葉に被爆者の苦しみ伝わってくるようでした。長崎を最後の被爆地にするためにも被爆者の苦しみを受け止めて伝えていかなければならないと思いました。（穴口聡実）

W P F N 新聞

発行元

長崎平和の力
ンパ寄贈の旅
2025

生き残った一本柱鳥居

山王神社 二の鳥居に想う



威力で少し斜めに動いていました。また、もともと鳥居には文字が彫られていましたが、熱線の方で爆心地側の面が落ちて今は読めなくなっていました。爆心地から、約八百メー

私たちは、八月十八日、長崎にある山王神社の二の鳥居を見学しに行き、平和教育に取り組み林田さんにお話を聞きました。この記事では、その鳥居を見て感じた原爆の威力の恐ろしさ、原爆投下時から現在まで残る二の鳥居の現状や歴史について紹介します。

山王神社の二の鳥居、別名「一本柱鳥居」は、熱線の恐ろしさを知り、私たちが原爆の熱風・心地から八百メートル

テニスボール1つ 7万人もの命が奪われた

長崎に落とされた原爆はフルトニウム23

9という放射線元素を使用する原子爆弾です。このフルトニウムは、外周に配置された高性能火薬を同時に爆発させ、中心部に



フルトニウムを均等に超臨界状態に達することで、核分裂の連鎖反応を引き起こすイン

男という意味があります。爆弾の形が幅広く丸い形状だったのでアメリカ合衆国によってそう名付けられました。使用されたフルトニウムはテニスボール1個分ほどの量で、7万人以上の命を奪ったという事実

原子爆弾は米軍にとつては勝利の象徴でしたが、日本にとつては死の象徴となりました。原爆による被害は、主に爆風・熱線・放射線の三つに分けられます。爆発直後の爆風はあらゆるものを押し倒しました。



回避不可 原爆の威力

その威力は四股からぎれるほどの威力があったそうです。続いて熱線による火災が発生しました。熱線によるケロイドは身体的な痛みだけでなく、差別による心の痛みも伴いました。さらに追い打ちをかけるように放射線が人々を襲い、爆風と熱線から逃れた人を生

浦上天主堂被爆から再建



平和学習のフィールドワークでは浦上天主堂に行きました。長崎は貿易港であったこともあり、キリスト教のカトリック信者が多くいました。しかし、江戸時代にキリスト教が禁止され、信者がどうかを見分ける方法として行われた場所が今の浦上天主堂です。

キリスト教信者たちは神に謝罪の意を込めてその地に浦上天主堂を建てました。信者の一人ひとりがレンガを買って20年にわたって建設しました。しかし原爆によってわずか30年ほどで倒壊し、当時付近にいたカトリック信者1万2千人のうち8千人もの人々が命を落

ら逃げることができず、爆心地から2キロ以内は建物が高層、2.5キロでは修復不可能、3キロまでは部分的に破壊されました。爆心地から約1キロ圏内の避難物のない場所では致死率が100%でした。このような被害をもたらした原爆の威力はトラック5200台分のトリニウム爆弾（喜多方爆大）に相当し、鉄を溶かす1500℃の2倍以上の高温が市街地を襲いました。石も沸騰するほどでした。爆発によってできた火球は数億万に達し、まるで第二の太陽のようでした。死傷者は広島より少ないですが、爆発の威力の観点から考えると広島よりも大きな被害をもたらしました。

防空壕に残された生活

空襲警報 過去の音ではない

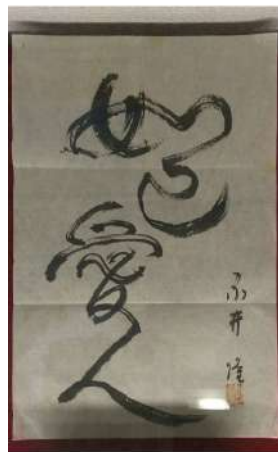


爆心地から100メートルの場所に位置する場所には、当時の防空壕が平和公園に残されています。たぐさんの物語が存在し、そこで亡くなった多くの方や、1人生き残った小学生の少女についての話を、長崎市で平和活動を行うピースハブの方にお聞きすることが出来ました。爆心地付近の悲慘を目撃して体感しました。

平和公園近くの防空壕を訪れ、暗く湿った中に日常が失われた子と母がしがみついていない小さい防空壕の中で、いつ爆弾が落ちてくるかわからない恐怖を想像しました。「戦争の記憶は防空壕の記憶」という言葉が心に残りました。防空壕の中には食器やビール瓶などがそのま

まになつていて、一瞬した。戦後80年を迎えた日本では、戦争の記憶が薄れつつあり、ピースハブの方から、防空壕の前で空襲警報の音を聞かせてもらいました。私たちは、この証拠とも言えるかもしれない。同時に、戦争の記憶は防空壕の記憶だと思つてしまいましたが、実際に現在クワイクナで使われている空襲警報で

皆さんは永井隆博士のこのことを知っていますか？ 長崎で被爆しながらも、医学研究と執筆活動を通じて永井隆博士は、生涯をかけて平和を



愛の力で平和を

の導きを訴え続けた人物です。重傷を負いながらも人々の救助を9日間にわたって行い、その後病床に伏せながらも、この時から博士は本物の執筆をはじめたわけ

通し、平和を訴え続けました。亡くなるまでの6年間で17冊もの著作を刊行しました。博士は聖書の「愛を愛せよ」から命名したわ

ずか2畳半の如己堂にて「平和」と書いた色紙を千枚以上、世界各国に贈りました。博士は著書『いとし子』の中で「本日の平和をもちたすのは、ややこしい会議や思想ではなく、ごく単純な愛の力による」と記しています。憎しみではなく愛の力こそが平和を生むと考えた姿勢は、私を含め多くの人々に感銘を与えたと思います。

長崎原爆病院の谷口院長も「尊敬する偉大な先輩」と博士をたたえられました。博士のその人柄と思想は今も受け継がれています。（石陽翔・白井和奏）

忘れず、平和の中で暮らす私たちこそが、その事実を伝えていく責任があると感じました。

また、松山町では原爆で生き残ったのは小学生の女の子一人だけだったと聞き、私たちは改めて原爆の恐ろしさを実感しました。（棚田多・穴口聡美・白井和奏）

田掛かりました。原爆投下後10年足らずで建造されたわけですが、被爆者からはそのお金でまず被爆者に対

する支援を充実させてほしかったという意見もありました。この像は長崎の団体が建てたとも言っています。



NO MORE 原爆

ました。右手は空を指しており、原爆の意味があります。左手は平和を表しています。平和の象徴だと、ピースハブの渡邊さんが言っています。この像は目を閉じています。目を閉じている理由は、犠牲者の冥福を祈っているとも言っています。長崎には広島のように平和のシンボルがないため、平和祈念像を建造したのです。「長崎を最後の被爆地に」という思いが込められ、この像は手を挙げています。上から落ちてきている原爆の脅威の姿を表しているというのを、言っています。（寺尾大志・石陽翔・喜多方大）

被爆分類に「胎児」も



長崎原爆について字が中で、私たちは日本赤十字社長崎原爆病院の院長に被爆者の分類について教りました。被爆者とは、「被爆者健康手帳」を所持している方を指します。被爆者には4つの種類が存在し、「直接被爆者」、爆心地周辺に後から入った「入市者」、「死体処置救護従事者」などがいる中で、私は「胎児」という存在に驚きました。「胎児」とはつまり、被爆者の胎内にいたこ

とで放射線の影響を受けた人々も、被爆者として認定されているというのです。被爆者の胎児は、自分も被爆者になるだけでなく、流産や死産、障害が残ることも多く存在し、原爆の放射線の影響は、まだこの世に生まれていないが命の被爆者にも至りました。被爆者の形は一人ひとり異なりますが、その背景には見えない苦しみと記憶があると考えさせられました。（中江央）

W P F N 新聞

発行元

長崎平和の力
ンバ寄贈の旅
2025

差別や罪悪感に苦しんだ



生き残った人々

戦後80年経った今も、原爆を受けた心身の傷は被爆者に残り続けています。見た目での差別や自分だけ生き残った苦しみ、目の前で家族や街の人々が犠牲になる悲惨な光景を目にしたことで深いトラウマを抱える人も多くいました。助けを求められても救いたいのに救えない苦しみを経験した人もいました。さらに爆風や火災で街のインフラや住宅が壊れ、生活の基盤は完全に失われました。そして生活は苦しく窮迫しました。

生き残った人々は戦後様々な苦しみに悩まされま

発行元

長崎平和の力
ンパ寄贈の旅
2025

長崎で学んだこと①

「長崎の人の想いが聞けてよかった」

旅に参加して実際の資料や施設などを見て言葉だけでは伝わらない当時の状況や平和であることの大切さを肌で感じる事が出来ました。また、今回初めて出会った子と楽しみながら学ぶことが出来て仲良くなれて良かったです。

（白井和奏）

長崎の原爆について学ぶ機会が少なかったため、今回の旅を通して学べてよかった。改めて原爆の悲惨さを痛感し、2度と戦争はしてはならないと同時に平和な世の中を作るべく、自分から発信していきたいと思



つた。（喜多方颯大）

実際に被爆を経験した人は数十年前にはいなくなることに危機感を抱き、これから私たちの世代が戦争

した。
1つ目は差別です。「自分にも放射線がうつって病気になるかもしれない」という、根拠のない噂が広がり、被爆者は就職や結婚の場面で不利になりました。ケロイド（やけどの痕）が残った人々は、見た目の違いから差別や偏見にさらされました。ピースパティの林田さんは「人間はあることに対して知識を持つていない状態。無知であるから差別をするのだ。」とおっしゃっていました。
2つ目は自分だけ生き残ってしまったというという罪悪感です。生き残れて嬉しい反面、身近な人が大勢亡くなり自分だけが生き残っていることを喜べなかったと聞きました。また逃げていくときに多くの人に助けを求められたが助けることが出来ず、今でも後悔している人もいますと聞きました。
80年たった今も被爆者を苦しめ続ける原爆が早く無くなつてほしいと心から思いました。（長島蒼依）

長崎で学んだこと②

「原爆の威力悲惨さ忘れない」



空爆や時間が止まった時計は、過去のつらいことを語りかけてくる。忘れないで。僕はこの経験を生かして平和を守る1人になりたいと思います。（桐翔多）

この旅に行つて、いろいろな経験をしました。その一つは、長崎原爆資料館へ行つたことです。あと一つは、長崎の町を見たことです。長崎に行けてよかったです。（寺尾大志）
僕はこの長崎に行く体験を通して、戦争の悲惨さ平和の大切さを学びました。ためになる話や経験が多く、とてもいい旅になりました。ツアーを通していろいろな人と話した経験により、結束力や団結力を生むことができ「戦争は絶対にしてはいけない」未来に伝えていけたらと思います。（石陽翔）
学んだ中で、その破壊力が想像以上に甚大である衝撃を受け、被爆者がその後を受けた差別や偏見など、原爆の被害は身体的な痛みだけでなく、ことを実感し、被爆者が感じた痛みに寄り添う心を持ちたいと思いました。（中江央）
戦争の悲惨さを知り、普段の平和が当たり前ではないと感じました。被爆された方々が減少している中で私は日々の出来事を大切に周りの人への感謝を忘れずに、平和を大事にして後世に平和の大切さを伝えて生きていきたいです。（長島蒼依）

生活協同組合おかやまコープ

協力新聞社名	子ども参加人数	集まった回数
山陽新聞社	8	3

訪問施設やお話を聞いた方	完成した新聞の広報や報告方法
- 岡山空襲展示室 (学芸員の木村崇史さん) - 岡山空襲戦跡巡り (岡山の戦争と戦災を記録する会 谷口友美さん 前田真理子さん)	- 広報誌「くらしとなかま」での紹介 - ポスター用に拡大して店舗、事業所への掲示 - 平和イベント「平和のひろば」で、子ども記者による来場者約220人への新聞の手配り - インスタグラム、ホームページ - ワークショップの様子をテレビ番組で放送 

子どもの感想

- ・今、平和なのは同じような戦争をくり返さないように気をつけているからだ分かった。だからぼくもけんかをしないように悪口を言わないように気をつけたい。今回勉強したことを周りに伝えていきたいです。
- ・岡山空襲のしゅうのことを知って、自分事として考えられるようになりました。
- ・平和について知れてみんなとなかよくなれてよかったです。
- ・もうかくへい器や焼いだんを作らないでほしい。実際に想像しただけでこわい。
- ・戦争がどれくらいこわいか知れて新聞を書いた意味があったと思います。
- ・ちがう小学校の子たちとも交流できて楽しかったです。
- ・教えてもらったことを友だちや親せきにも伝えていきたいです。
- ・平和について知ってもっと「戦争はあっちゃいけない」と思いました。もし戦争をしている、しようとしていることがあったら他国でも反対したいです。
- ・ほかの人の意見をきいて「そういうことか」や「確かに」など発想がうまれたりしてよかった。

保護者の感想

- ・年の近い仲間と一緒に現場へ足を運び、実際に起こった戦争のことを聞かせていただき、娘は初めて戦争を身近に感じて、恐ろしさを感じたことと思います。
- ・過去に起こった事実やその影響の恐ろしさを実感で伝えようとしてくださる人の姿から、娘は何かを感じ、今度は自分から興味を持って戦争関連の本を読むようになりました。

エピソードなど

- ・岡山空襲戦跡めぐりのワークショップを、岡山空襲があった前日に行ったことで、複数のマスメディア(RSK放送、読売新聞、山陽新聞社)に取り上げられた。当日は子どもたちへの取材がつぎつぎと行われたがしっかりした受け答えができました。
- ・その後の取り組みとして、参加者を広島平和資料館とピースアクション in ヒロシマに招待しました。また、修了式や保護者の座談会を開催し、広報誌で紹介しました。



戦争のない明るい世界を



岡山空しゅう（1945年6月29日）をテーマに岡山県内の小中学生が、新聞を作りました。6月28日、岡山城（岡山市北区丸の内）周辺の戦跡をめぐったり、岡山シティミュージアム（同駅元町）の岡山空しゅう展示室を訪れたりして取材し、戦争の悲しみと平和な世界の大切さを感じました。

岡山空しゅう学ぶ 戦跡や資料見学

おりづる
平和新聞

発行元/
生活協同組合おかやまコープ
制作協力/
株式会社 山陽新聞社

岡山空しゅう戦せきめぐりをした。最初に石山公園で、「岡山の戦争と戦災を記録する会」の谷口朋美さんと前田真理子さんが岡山空しゅうの紙しばいをしてくださった。しゅういだんがおとされて、岡山は火がもえ広がり、その中をぶとんをかぶってにげる人おいたと聞いて、おどろいた。重いし、熱いし、どんなにこわかっただろうと思った。岡山城では、焼け跡が残る天守閣の礎石を見た。赤黒い色をしていて、色々な形があった。焼けた後、元と同じようにならねられた。

旧内山下小学校では、大東亜戦争開戦記念ひきを見た。てききたおすというねがいこめられてる物なので、敗戦後にアメリカ軍にて、去されないように、文字の上には、コメントがぬられて、読めないようになつてた。

これまで、戦争の話を読んでも、自分からは遠くはなれたことと思ってたが、本当にあったことなのだと思近に感じた。恐ろしいと思った。御野小学校4年 信岡里実

戦争は、おどろしい

今も消えない戦争のあと

80年前の6月29日、岡山中心部に、おそろしい焼いだんが、雨のように降ってきた。まだみんなが眠っている午前2時45分から84分間のできごとだった。



E48集束焼いだんは、ゼリ1状になつたがソリソと有毒が黄りんが入つた小型の焼いだんを38本束ねたものだ。他にも、大型のM47焼いだんと合計で9万5千8発を落とされたのだ。ぎせり者は、2千人以上ともいわれる。空しゅう後の岡山城には、今も焼けこげた石がきき、ほのおで焼かれ、変形したままの木が残つていた。

二度とくり返さばいけな

みなさんは岡山城が建て直されたことを知っていますか。一九四五年（昭和二十年）六月二十九日に、ばくげき機B29が、岡山市内にしゅういだんを落とすとしてきました。アメリカ軍がしゅういだんを落とす目標とした場所は、今のNTTクレドビル前の交差点の中心です。岡山城は、た、一ばんのこうげきて、やけくずれてしまいました。しかし、月見やぐらと西手やぐらはやけのこりしました。昔、

戦後、岡山城は建て直され、今では美しい岡山城が見られます。

わたしは、戦争でひがいにあつた岡山城周辺を見て回りました。戦争のおそろしさを知りました。戦争は、だれもが悲しむことなので、二度とくり返してはいけな

いと思ひました。お話を聞かせてくださつた方々に感じ、学んだことを活かしていきたいです。

山陽小学校4年 増永朱里



ぼくはおりづる平和新聞を作るために、岡山空し、うの事を学びました。岡山城の周りの戦跡めぐりをし、岡山シティミュージアムで学芸員さんから空し、うの話を聞きました。今から八十年前の六月二十九日午前二時四十三分から午前四時七分までの八十四分間に落とされた焼夷弾が岡山の街を焼きつくし、亡くなられた方も多くいました。この時の炎で赤くなつた岡山城の石垣は、今でも見る事ができます。そして禁酒会館はバケツリレーを行つた事で、大正時代に建てられたままの状態が残っています。

まち逃げていた途中、人を助けようとして焼夷弾が直撃して亡くなつた方や、次の日に炊き出しをした婦人会の人達もいたそうです。

今回僕は戦争の休戦を知り2度としてはいけないと思いました。しかし、大変な中でも助け合う気持ちの大切さを学びました。相手を思うことから平和が始まると思います。

箕島小学校6年 平松伸伍

写真で残る岡山空し

昭和20年6月29日、岡山市はアメリカ軍に約9万5千発の焼夷弾を落とされた。岡山シティミュージアムの岡山空し、う展示室にはその当時の写真が残っている。



みんなをまきこむ

一九四五年六月二十九日、岡山市では空し、うけいほうがナクには鳴らなかつた。大阪の司れい部が、岡山には空し、うが来ない、とんだんしたためだ。その結果、多くの人になくなつてしまった。

岡山空し、うで使われた焼夷弾はゼリー状で、たてものにつくとなかなか落ちず、多くの火事を引き起こした。「岡山の戦争と戦災を記録する会」の前田さんと谷口さんが紙しばいを読んでくれた

アメリカ軍が岡山市上空から、た写真はいく枚ある。1枚は5月13日(写真上)、もう1枚は空し、う後の7月5日(写真下)のものだ。建物

がほとんどなくなり焼け野原になっていることが分かる。当時の市街地の6%が焼け残っていたことになる。焼け残った建物は天満屋やう便局などの鉄きんコンクリートで作られたものだけだ。た。少なくとも1万7千人が亡くなり、さらに多くの人がやけどやけがをした。

長尾小学校5年 竹下睦生

その時に、空し、うで皮ふ

がとけながらも、にげていた人がいたことを知った。私は皮ふがとけるなんて想像できないくらいこわいと思つた。戦争はしたくない人でもまきこんでしまふから、ぜつ、対におこさないようにしたい。

弓削小学校4年 稲森咲日

戦争の怖さ、辛さ

私は、空し、う展示室に行き、親子供を亡くした方や食べ物がない中でくらしていた方の辛さが分かりました。お金がない中でもお米を買っていたことや、おかげで好きな物が食べられなかったことも知りました。たべ物の大切さに気づかされ、好き嫌いせずに食べようと思いました。

そして、戦争をしてはだめだと思ひました。戦争のせいで小さい子が七くなつたり、

いっしょにうばあね

しいういだんのこあさを初めて知った。ぼくはしいういだんがどれくらいの高さから落ちてくるのかと、しいういだんの大きさにびっくりします。

しいういだんは上空約150メートルで小さなぼくだんにあかれて落下してききました。

そして、かさせるところは、いまのNTTクレド岡山ビルの前の交差点。はんけい1・2キロメートルでぼくは

悪くもない人が七くなつたりしました。特に生まれたての赤ちゃんなどは、母乳などが飲めずに苦しんでいて、想像するだけでもかわいそうに思ひました。

展示品を見ると、父や母を亡くした方が多くて、少し怖かったです。戦争は家族がバラバラになります。二度としないように何ができるのか考えていきたいです。

つを起こしました。

このように、しいういだんはぼくはつたのい力で、家族などをもつたりしてしました。なので、戦争がなければこわいかわかりました。

山陽北小学校4年 豊福一翔



こうち生活協同組合

協力新聞社名	子ども参加人数	集まった回数
高知新聞	5	3

訪問施設やお話を聞いた方	完成した新聞の広報や報告方法
7/5 高知県南国市の掩体壕取材 - 掩体壕ガイドの森本さんに話を聞く 7/5 高知県立美術館にて、ピースアクションinこうちに参加し、被爆ピアノコンサートをされている矢川さん、戦争体験講演をされた藤本さん取材、その後被爆ピアノコンサートを鑑賞	- こうち生協ホームページ 11月22日(土) 高知ぢばさんセンターで開催する「こうち生協40周年ありがとうフェスタ」で展示

参加者の感想

平和新聞の紙面に掲載しています。

エピソードなど

- 講師の方にアドバイスはいただきましたが、時間もない中でこれだけの新聞が作成できたのは参加してくれた子供たちの頑張りのおかげだと思います。
- この新聞づくりの後で広島に修学旅行に行かれる参加者がおり、平和学習について興味を持てたとの声もありました。



高知県平和新聞

里松 花子
川平 徳子
浅和 前梅

藤本さん 平和な世界をめざして

高知市で開かれた被爆
ピアノコンサートで、藤
本さんが戦争の体験談を
語った。

藤本さんは、昭和7年
南国市で生まれ、13才の
時に終戦を迎えた。

小学4年生の12月8日
に、日本が真珠湾攻撃を
し、太平洋戦争がはじま
った。

日本政府は、村の人た



戦争の体験を語る藤本さん

ちを連れ出し軍事しせつ
や、か。そううを拉致し
た朝鮮人30人ほどに、フ
くらせたと言った。

そして、藤本さんが忘
れられないう、7月
4日の高知大空襲が起き
アメリカのB29超機種の焼
夷弾爆撃を受けた。

その爆撃によって、空
が真赤にそまり、木の
建物はすべて焼けた。

コンクリートでつくられ

た県庁などの建
物は、焼けてい
なかった。

銭川沿いには
焼けた人の死体
がたたくさんあ
った。

藤本さんは、
焼けた人のか

いを含んでも思ひ出し、思
い出したら苦しくなうそ
うだ。

その後、毎日アメリカ
の勝ち戦が続く、沖縄の
次は四国かもしれないと
言われるようになった。そ
れは、毎日軍たいと

一緒にたこつぼくつをつ
くったり、手リッウ弾で
アメリカ軍の戦車を吹き
飛ばす練習をしていた。

8月15日、ラジオで天
皇陛下の終戦の言葉を聞
いたそうだった。

戦争の苦しさを経験し
た人は、二度とこんなこ
ととしてはならないと思
って、体験を語りつぐこ
とが大切だと藤本さんは
話していた。

捨体の弾痕過去を語り

高知県南国市前浜には
7基のえんたいがありま
す。

えんたいとは、飛行機の
格納庫であり、敵のこう
げきから飛行機を守るた
めに造られた。

えんたいには敵にみつか
らないうように草や葉どが
くまれているものもあり、
とてもがたくでまわりま
す。

小中学生、中學生はえんた
い造りをめいじられ、
迎くの川べからるをこ
ままたり、「ふしやセメ

1945年、アメリカの
せんとうエグラコンから
のくうしやうが毎日のよ
うにおさへとうじの学生
たちは捨体の中で必死に
自分の身を守りました。

1号えんたいは、グラマ
ンせんとうきによ、マは
しい機銃掃射を受けた
約60個の弾痕が今もま
ま残っています。

ほかにも、
面国市物部か
ら飛行場の周
りに、米軍機
を撃つ20
ミリ機銃を
まなえ付け
いたドーム
が3カ所あ
ります。

森本世史子さん

捨体ガイド





矢川さんの
平和の種子とは

1945年8月6日 広島 8月
 9日 長崎に原爆が投下されました。
 そこで原爆の爆風・熱線・放射能等の
 被害を受けたヒアノのことを被爆ヒア
 ノといいます。この被爆^{ヒアノ}ヒアノの言^{ヒアノ}
 を多くの人に聞いてもらうことで平和
 をもよぼすきこかけづくりがでないか
 と思います。被爆ヒアノを再生した人が矢
 川元則（やかわもと）さんです。
 その思いも伝えたために、一人で4ト
 ントラックを運転し、南は沖縄から、



矢川光則さん
ヤカみおのり

北は北海道まで全国各地で被爆したノ
コンサートを行います。

矢川光則さんが言いたいことは、
ラックワリー30万km（地球3周分）
も送ったことと、平和の種まき、まい
だ種は送る・花をさかせるというこ
とです。

種までも行つて理由とは、ぎてゐた人だ。平和というものは人がつく、つくものではなく、一人一人がつく。ていくものと知り、てもういたいとおしやつていました。

そこで、その思いを伝えるものは
被_レ嫌_ハビ、アノ平和コンサートです。その
コンサートは、名前の通り平和を一人
一人が伝えるというコンサートです。
矢川さんは、被_レ嫌_ハビ、アノにどのよう
な思いをこめているのでしょうか。そ
うは、被_レ嫌_ハビ者のたましいが入、ていて
その思いも被_レ嫌_ハビ、アノかかたゾっいで
くみていると、おっしゃっていました。

取材を終えて



わたしたちの感想

「高みから飛たしろ、さく
らざく」という機体はわんしゅう機で
あり、あまりスピードも出なかつた。
だが、おさなわへくうしゅうがあつた
目、必機体のしろざくが飛んだ。しめし、し
らざくはのういので、いはくして殺う
かなく、5名が死した。こんなことを
おこなひたぬ過去を知り、今にいがすこ
とが大切だと思つた

(終)

掩体の大切さ

私に 掙体という物を初めて聞くと、
どのような物か分からなかつた。夫れほど
・能く聞いていくうちに、その掙体の
役割・意味が分かつて、掙体は、大切
な存在だとなつてきました。

戦争は地獄

私は、藤本さんの体験談を聞いて、
本当に戦争とはおそろしいものと思
いました。7月4日の高知大空襲の真
赤な空、焼けた死体のおいなど、
地獄のような光景だ。たと思います。
その体験を語ってくれることで、た
くさんの人々が戦争のおそろしさを知
ることが出来るのだなと思いました。

平和への願いがこもった音色

私は、7月5日に被爆ビアンコンサ
ートに行つて被爆ビアンを見たとき
きずがいっぱいあつて部屋の中にあ
つても被害を受けていたので改めて原爆
のおそろしさを知れたのでよか。たし
ゝ参加した人たちの平和への願ひがこ
もつてきれいな音色で演奏されてた
のですぐいいと思いました。(前田優花)

おどろいた戦争の話

戦争を経験したふじもとさんじさん
の語っておじりいたのは、戦車は下が弱
いという事です。たこつぼこうとい
うところで、戦車が真上にきたら、は
くたんを使て、戦車をくはつさせ
たことなどをしていました。

(和田梨)

(淺川姫里)

エフコープ生活協同組合

協力新聞社名	子ども参加人数	集まった回数
朝日新聞社	4	4

訪問施設やお話を聞いた方	完成した新聞の広報や報告方法
・筑前町立大刀洗平和記念館（館内ガイド） ・戦跡（掩体壕・頓田の森・ピーポット甘木のシイの木モニュメント）（組合員のボランティアガイド）	・エフコープホームページでお知らせ (https://www.fcoop.or.jp/news/archives/1375) ・エフコープ店舗など各事業所にて掲示・配布 ・各地域で開催した平和展、学習会、イベントなどで掲示、配布 ・ブロック活動委員会、区域委員会へ配布

参加者の感想

- ・聞づくりは難しかったけど楽しかったです。
- ・新聞の記事をつくるときに、一度字数を無視してまとめて最後に字数を合わせるのが難しかったです。
- ・自分をもっと知りたいと思ったことを記事にしました。
- ・みんなが知らないことを知りたい人にこの新聞を読んでもらいたいと思いました。
- ・「こんなことがあったんだ、つなげていかないといけない」と思ってもらえるような新聞をつくりたいと思いました。
- ・戦争で自分たちと同じくらいの子どもの人が亡くなったことを知って、平和は大事だと思いました。

エピソードなど

- ・今回講師を依頼した朝日新聞社様は、被爆体験証言集のとりくみを継続してご取材いただいております、その関係性からご快諾いただきました。
- ・当初は高学年以上の参加を想定していましたが、3年生からもぜひ参加したいという強い希望があり、3年生～6年生で開催しました。全員とても積極的、かつ協力的で、みんなで仲良くプロジェクトを進めることができました。来年も企画する場合は、ぜひ参加したいとの声をいただきました。
- ・参加した子ども記者の祖父母が「記事について孫と一緒に話したい」という思いから、自分たちで平和関連施設を見学した事例もありました。
- ・「子ども平和新聞発表会」を「平和の旅報告会」と合同で開催しました。小学3年生～80代までの参加があり、世代を超えて交流することができました。平和の旅に参加した子どもたち含め、「エフコープピースキッズ認定証」を授与しました。

2025年(令和7年)7月12日(土)

エフコープ子ども平和新聞

平和な今 80年前の戦争

身近な「戦跡」を訪ねて考えた



当時の戦争を学んで

終戦から80年。私が住んでいる地域にも空襲が起きた。一回目は1945年3月27日、B-29が74機、二回目は31日は106機、全部でアメリカ軍から2500発以上の爆弾が上空から降ってきた。私は7月12日、当時児童が逃げ込んだ頼田の森を訪ねた。頼田の森とは1945年3月27日当時立石国民学校(池末ことね)の児童が逃げ込んだ場所。24名が即死、7名が病院で亡くなった。現在は平和公園として整備されている。説明板が置かれている。近くの一本木神社には、子供を失った親たちが建てた地蔵がある。子供たちが遊んでいた場所に戻って来ると、池末ことねは、

幻の戦闘機「震電」



みなさん震電は知っていますか？震電は終戦間際に福岡県で作られた戦闘機です。いろいろなひみつがある震電をさぐってみよう。大洗平和記念館の展示によると、まず、震電は零戦とちがいが、エンジンとプロペラが後ろにある「エンテ型」のためB-29より速い750キロメートルをめざしました。次に震電が福岡で作

私が行ったところは福岡けん筑前町のえんた型です。筑前町は家や田畑が多いところ。えんたいごうの周りに、草がうえるのかというせんそう中せんとうをしかけたけどコンクリートでつくったのでえんたいごうの周辺にいくつも作られた一部分しかこれなかったといわれています。(田中ひなた)

えんたいごうのひみつ



飛行機を守った掩体壕



掩体壕は、てきの飛行機から味方の飛行機を守るための建物です。空しゅう、ダイナマイトにもたえた掩体壕は、ばくだんに強い。また、土で作られていて、草や木をかぶせて、相手に見つかりにくい工夫をされていた。掩体壕は今年4月から一般公開されています。ぜひ見に行ってください。(井上まあや)



2025年(令和7年)7月12日 土曜日

編集長



池末 ことね
6年



井上 まあや
4年



田中 ひなた
3年



佐藤 しもん
4年

未来を担う子どもたちが、平和について学び考え、新聞づくりを行う、子ども平和新聞プロジェクト。小学3年～6年生の4名が、7月12日に筑前町立大洗平和記念館の見学やガイドへのインタビューを行うとともに、周辺の戦跡取材しました。今回のとりくみを通して命の尊さと戦争の記憶に向き合うことができました。



朝日新聞



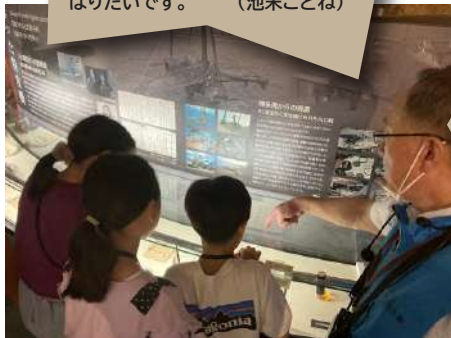
2025年(令和7年)7月12日(土)

エフコープ子ども平和新聞

大刀洗平和記念館では
しゅうふくしたせんとうきがてんじされて
いて、零戦32型はここでしか見ることが
できず、大きな飛行場があったまちには
飛行機がたくさん飛んできて、爆弾が落と
されました。106年前につくられた大刀
洗飛行場は、パイパイドーム27個分の大き
さだったことがわかりました。戦争で
17才の人や、18才の人がとっこうで亡く
なったこと、小学生が頼田の森でなくなっ
たことがわかりました。とっこうたいはと
くべつこうげきたいと言うことと、飛行機
を作る工場などにたくさんの人がいたこ
とがわかりました。これからも平和につい
て考えていきたいです。
(井上まあや)



今回の取
材で私が学校
で学習したことより
も細かく知ることができたし
頼田の森であったことやツ木神社の延命
地蔵のことはなにがあっても語りついでわすれ
てはいけないと思いました。たいへんだったこと
は、メモをしたり質問したりばたばたで新聞をま
た別のきかいに作るとしたらそこをかいぜん
してもっと今の自分より成長してくわしく
読む人が「こんなことがあったんだな」
とか実感して覚えてもらえるような、
新聞を作ってみたいし、当時こんなこ
とがあったやどう思っただけじゃなく
てしっかり伝えられるようにがんば
りたいです。(池末ことね)



編集後記



今回たちあらい平和
記念館などで、震電のことや
とんたの森のこと、ビーポート甘木
のシイの木モニュメントのことをたくさ
ん知ることができました。今回の新聞は震
電のことをかいたけれど、立石国民学校のせ
いとたちの気もちもふしぎになってきました。
ほかにもなぜアメリカは大きいB29などの爆
撃機を作っていたのに日本は零戦のように小
さい戦闘機ばかり作っていたのだろうか？
など、もっとしらべたいことがたくさんあ
るので今度は自分で取材したりきもん
を明らかにしていきたいです。とて
もべん強になりました。
(佐藤しもん)



しゅざいに行って思ったこ
とはせんそうで自分の子ども
やかぞくが目の前で死んでしま
うところをみたら、だれでもかなし
くてこれからどうやっていきこうと
思うと思います。大刀洗平和記念館で
みだせんそうに行く前の手紙をみて本当はま
だまだかぞくとすごしたいのに、行きたくないな
と思ってせんそうにむかったと思います。
80年前のできごとをみらいにつたえてい
って、これから生きてくるひとたちにもせん
そうのつらさ、かなしさ、大へんだった
ことをつたえていきたいです。今
ある平和がこのままつづいてほ
しいです。(田中ひなた)



今だから知ろう
核兵器が使われたらどうなるの



被爆体験証言集
『つたえてください
あしたへ……』
←こちらから全巻読めます

被爆・戦後80年 つなごう未来へ 平和への思い
『ピースアクションinふくおか』

被爆の証言やピアノ演奏を聴きながら、一緒に平和への思いを巡らせましょう。

【開催日】2025年12月6日(土) 13時～16時

【会 場】中小企業振興センター (JR吉塚駅東口より徒歩約1分)

※詳細は今後の「ふれあいかわら版」で案内

被爆・戦後80年 子ども平和新聞プロジェクト

被爆・戦後80年の今年、次世代を担う子どもたちが平和について学び、自分の言葉で新聞記事をつくる「子ども平和新聞プロジェクト」を展開しました。

全国の21地域の生協が参加を呼びかけ、小中高生137人の子どもたちが参加しました。記者から取材の仕方、記事の書き方を学び、地域にある戦跡や資料館などに足を運んだり、被爆者や戦争体験者から話を聞いたりして、自分の言葉で記事を作りました。そうして67枚の新聞が完成しました。

生活協同組合コープぐんま



京都府生活協同組合連合会



生活協同組合おかやまコープ



子どもたちの感想を一部紹介します

実際に取材をしたり新聞作りは難しかったけど、みんなで協力できて楽しかった。

このつらい経験を単なる歴史にせず、未来へ伝えていきたいです。

取材で見たこと、学んだこと、感じたことを、読む人みんながわかりやすいようにまとめるのが大変でした。



2025年
子ども平和新聞
プロジェクト
記録集

—子どもたちが未来へつなぐ—

発行日 2025年11月

発行 日本生活協同組合連合会
組織推進本部社会・地域活動推進部 組合員活動グループ
〒150-8913 東京都渋谷区渋谷3-29-8 コーププラザ
TEL. 03-5778-8124

